丸亀市内遺跡発掘調査報告書

第 4 集

平成20年度国庫補助事業報告書

土器町西二丁目地区
飯山町東坂元字楠見地区
津森町字高丸地区
綾歌町岡田西字新田地区
綾歌町栗熊西字大妻田地区
綾歌町栗熊東字下河西地区
飯山町東小川字前谷地区
金倉町字道下地区
田村町字橋の坪地区
飯野東二字中代地区
蔵ノ内遺跡
行末西遺跡
蔵ノ内遺跡

2009. 3
丸亀市教育委員会

例　　言

１．本書は、丸亀市が平成２０年度国庫補助事業として実施した丸亀市内遺跡発掘調概要報告書である。

２．今回の遺跡発掘調査は、土器町西二丁目地区、飯山町東坂元字楠見地区、津森町字高丸地区、綾歌町岡田西字新田地区、綾歌町栗熊西字大妻田地区、綾歌町栗熊東字下河西地区、飯山町東小川字前谷地区、金倉町字道下地区、田村町字橋の坪地区、飯野町東二字中代地区、綾歌町富熊字蔵ノ内地区、綾歌町富熊字沖地区、綾歌町富熊字蔵ノ内地区の１３地区を対象とした。

３．調査主体は、丸亀市教育委員会である。

４．土器町西二丁目地区、飯山町東坂元字楠見地区、津森町字高丸地区、綾歌町岡田西字新田地区、綾歌町栗熊西字大妻田地区、綾歌町栗熊東字下河西地区、飯山町東小川字前谷地区、金倉町字道下地区、田村町字橋の坪地区、飯野町東二字中代地区、綾歌町富熊字蔵ノ内地区、綾歌町富熊字沖地区、綾歌町富熊字蔵ノ内地区の試掘調査は、丸亀市教育委員会教育部文化課近藤武司が担当して行った。

５．本書に用いた遺構表示の略号は次のとおりである。
ＳＨ・・・掘立建柱建物、ＳＢ・・・竪穴住居、ＳＰ・・・ピット（柱穴）、
ＳＫ・・・土坑、ＳＤ・・・溝

６．出土遺物及び実測図等の資料整理は、谷口梢、北山多佳子及び鎌谷周子が行った。

７．本書の執筆は、近藤、谷口、北山及び鎌谷が分担して行い、編集は、近藤が行った。

８．本書の測量図の縮尺は、スケールで表示した。また、方位は世界測地系による方位（Ｔ．Ｎ.）及び磁北（Ｍ．Ｎ.）で表示した。

９．本書の断面図に記載してある「土色」は、農林水産省農林水産技術会議事務局　監修・財団法人日本色彩研究所色票　監修『新版標準土色帖２００４年版』による。

１０．調査地の位置を示した挿図については、国土地理院地形図「丸亀」（５０，０００分の１）、丸亀市が作成した都市計画図（１０，０００分の１：平成１８年承認番号第２５号）、旧綾歌町が作成した綾歌町全図（１０，０００分の１：平成１３年８月）及び旧飯山町が作成した飯山都市計画図（１０，０００分の１：平成８年）を使用した。

１１．綾歌町富熊字沖地区試掘調査の実施にあたっては乗松真也氏に、また、本書の作成にあたっては片桐孝浩、北山健一郎、山元敏裕諸氏にご協力を得た。ここに記して感謝の意を表す。

目次

本文目次

第Ⅰ章　平成２０年度丸亀市内遺跡発掘調査事業概要・・・

３．　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
４．　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
第Ｘ章　田村町字橋の坪地区試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
１．　立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
２．　調査に至る経緯と調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
３．　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
４．　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
第XI章　飯野町東二字中代地区試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
１．　立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
２．　調査に至る経緯と調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
３．　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
４．　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９
第XII章　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査【蔵ノ内遺跡】・・・・・・・・・・・・・・８２
１．　立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
２．　調査に至る経緯と調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
３．　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
４．　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８９
第XIII章　綾歌町富熊字沖地区試掘調査【行末西遺跡】・・・・・・・・・・・・・・・９４
１．　立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９４
２．　調査に至る経緯と調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９４
３．　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９４
４．　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１００
第XIV章　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査【蔵ノ内遺跡】・・・・・・・・・・・・・１０５
１．　立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０５
２．　調査に至る経緯と調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０５
３．　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０５
４．　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１０
第XV章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１５

挿図目次

第１図　平成２０年度丸亀市内遺跡発掘調査対象地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
土器町西二丁目地区
第２図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
第３図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
第４図　１～３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
飯山町東坂元字楠見地区
第５図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
第６図　１区５トレンチ出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
第７図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
第８図　１区１～６トレンチ平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
第９図　２区１～３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
第１０図　３区出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
第１１図　３区１～３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
第１２図　４区１～３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
第１３図　５区１トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
第１４図　６区１～３トレンチ平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
第１５図　６区出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
第１６図　７区１トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
第１７図　７区出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
津森町字高丸地区
第１８図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
第１９図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
第２０図　１・２トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
第２１図　３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
第２２図　出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
第２３図　４～６トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
綾歌町岡田西字新田地区
第２４図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
第２５図　出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
第２６図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
第２７図　１・２トレンチ平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
第２８図　３・４トレンチ平面・断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
綾歌町栗熊西字大妻田地区
第２９図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
第３０図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
第３１図　１～３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９
第３２図　出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
綾歌町栗熊東字下河西地区
第３３図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
第３４図　出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
第３５図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７
第３６図　１～３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
第３７図　４・５トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０

飯山町東小川字前谷地区
第３８図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３
第３９図　出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４
第４０図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４
第４１図　１～５トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
金倉町字道下地区
第４２図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
第４３図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６０
第４４図　１トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６１
第４５図　２トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
田村町字橋の坪地区
第４６図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
第４７図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
第４８図　１～３トレンチ出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６６
第４９図　１～３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６７
第５０図　４・５トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
第５１図　６トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
第５２図　７トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
第５３図　６・７トレンチ出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
飯野町東二字中代地区
第５４図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７４
第５５図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
第５６図　１トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７６
第５７図　出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７６
第５８図　２・３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７７
第５９図　４～６トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７８
綾歌町富熊字蔵ノ内地区【蔵ノ内遺跡】
第６０図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８２
第６１図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８３
第６２図　１～３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８４
第６３図　４～６トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８５
第６４図　７～９トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８６
第６５図　出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８８
第６６図　１０トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８９
綾歌町富熊字沖地区【行末西遺跡】
第６７図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９４
第６８図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９５
第６９図　１トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
第７０図　１トレンチ出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
第７１図　２トレンチＳＫ０１～０３断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９７
第７２図　３・４トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９８
第７３図　２～４トレンチ出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９９
綾歌町富熊字蔵ノ内地区【蔵ノ内遺跡】
第７４図　調査地位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０５
第７５図　トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０６
第７６図　１・２トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０７

第７７図　１～３トレンチ出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０８
第７８図　３トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０９
第７９図　４トレンチ断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０９
第８０図　４トレンチ出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１０

表目次

第１表　　土器町西二丁目地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
第２表　　飯山町東坂元字楠見地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
第３表　　津森町字高丸地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
第４表　　綾歌町岡田西字新田地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
第５表　　綾歌町栗熊西字大妻田地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
第６表　　綾歌町栗熊東字下河西試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４８
第７表　　飯山町東小川字前谷地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
第８表　　金倉町字道下地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
第９表　　田村町字橋の坪地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０
第１０表　飯野町東二字中代地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７９
第１１表　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・８７
第１２表　綾歌町富熊字沖地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１００
第１３表　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査　トレンチ概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０９
第１４表　調査に関する処理事務総括表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１８

写真図版目次

図版１　土器町西二丁目地区試掘調査・・・

第Ⅰ章　平成２０年度丸亀市内遺跡発掘調査事業概要

丸亀市は、香川県の中央からやや西寄りの海岸に面した位置に所在する。市域のほとんどは平野部で、丸亀平野の大半を占めている。東は綾歌郡宇多津町・坂出市、南は仲多度郡まんのう町・同郡琴平町、西は善通寺市・仲多度郡多度津町、北には瀬戸内海が面し、岡山県倉敷市が対面している。

丸亀市の所在する丸亀平野は、県下最高峰の竜王山（１０５９．９ｍ）と第二の高峰大川山（１０４２．９ｍ）の山間に源を発する土器川を主に、東から大束川、土器川、金倉川、弘田川によって形成された緩扇状地・氾濫原と沖積平野からなる県下最大規模の平野である。

昭和５７年度より開始された四国横断自動車道の建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、多くの遺跡を発見するに至り、丸亀市内での歴史的環境が明らかにされてきた。

近年でも、国道バイパス建設工事などの開発事業に先立つ丸亀平野各地の発掘調査が積極的に行われ、徐々にではあるが、遺跡の保護、遺跡の内容把握、普及啓発を進めていくことができている。

このような背景の中、丸亀市内の各地で大小規模の開発は活発で、その対象地が周知の埋蔵文化財包蔵地内やそれに隣接する場所である場合が多く、埋蔵文化財の保護措置を図るための試掘調査及び確認調査を実施し、遺跡の所在の有無及びその内容について確認するため、国庫及び県費補助金をあてて調査を実施してきている。今年度についても、国庫補助金をあて同事業を継続して実施することとした。

補助事業については、平成２０年４月７日付け２０教文第１６号で国庫補助金申請を提出し、平成２０年６月２日付け２０教生文第５３９２号で交付決定を受けた。

今年度については、例年よりも事業数が多く、土器町西二丁目地区、飯山町東坂元字楠見地区、津森町字高丸地区、綾歌町岡田西字新田地区、綾歌町栗熊西字大妻田地区、綾歌町栗熊東字下河西地区、飯山町東小川字前谷地区、金倉町字道下地区、田村町字橋の坪地区、飯野町東二字中代地区、綾歌町富熊字蔵ノ内地区、綾歌町富熊字沖地区及び綾歌町富熊字蔵ノ内地区の計１３ヶ所で遺跡の所在の有無を確認するための試掘調査を実施した。

土器町西二丁目地区試掘調査は、携帯電話無線基地局建設に伴うもので、近隣での埋蔵文化財調査事例が無く、包蔵地の状況が不明であったことから、事前調査をすることが適当であると判断し、試掘調査を実施することとなった。

飯山町東坂元字楠見地区試掘調査は、公共施設建設に伴うもので、この近隣での埋蔵文化財調査事業事例が無く、包蔵地の状況が不明であったことから、事前調査をすることが適当であると判断し、試掘調査を実施することとなった。

津森町字高丸地区試掘調査は、店舗併用住宅建設事業に伴うもので、当該地西側には『中の池遺跡（弥生前：集落跡）』『道下遺跡（弥生～近世：包含地）』『新田橋本遺跡（弥生・古墳：集落跡）』『今津中原遺跡（古代～中世：集落跡）』の集落遺跡が広い範囲で分布しており、東方にも『津森位遺跡（古代～中世：集落跡）』が近接しており、周辺の遺跡と関連する可能性が考えられるため、試掘調査を実施することとなった。

綾歌町岡田西字新田地区試掘調査は、個人住宅建設に伴うもので、東側の大窪池内に『大窪池遺跡（旧石器：包含地）』が所在し、その下流域には『東原遺跡（弥生～中世：集落跡）』が所在する。西側には、『上川井遺跡（古墳～中世：集落跡）』、南西一帯では『岡田万塚（古墳：古墳）』が知られており、様々な時代の遺跡が集中している。関連遺構の展開している可能性があることから、試掘調査を実施することとなった。

綾歌町栗熊西字大妻田地区試掘調査は、個人住宅建設用地開発に伴うもので、当該地は東大束川の右岸域に広がる緩やかな微高地上に位置し、西側に隣接して『佐古川遺跡（縄文～中世：集落跡）』が存在し、東側には『石塚山古墳群（弥生末～古墳：墳墓）』が所在していることから、これらの遺跡に関連する遺跡が展開している可能性が考えられたため、試掘調査を実施することとなった。

綾歌町栗熊東字下河西地区試掘調査は、店舗建設用地開発に伴うものである。計画地は南部の猫山から派生する尾根先端付近の微高地先端部付近に位置し、西側の微高地上には『行末西遺跡（弥生・古墳：集落跡）』が所在することがわかっている。関連する遺跡の分布が予想されることから、試掘調査を実施した。

飯山町東小川字前谷地区試掘調査は、個人住宅建設用地開発に伴うもので、付近は、古墳時代中期の『岡

田万塚（古墳：古墳）』として古墳の分布する区域である。資料によると、当該地の北東隅及び南西隅付近にも古墳の所在が記されていることから、試掘調査を実施することとなった。

金倉町字道下地区試掘調査は、宅地分譲住宅建設用地開発に伴うもので、当該地は金倉川の右岸域に位置し、北部一帯に隣接して『道下遺跡（弥生～近世：集落跡）』、南部一帯には『中の池遺跡（弥生前：集落跡）』が所在している。また東側では、『新田橋本遺跡（弥生・古墳：集落跡）』『今津中原遺跡（古代～中世：集落跡）』が近年の調査によって、明らかになってきている。これらの遺跡に関連する遺跡が展開される可能性が考えられることから、試掘調査を実施することとなった。

田村町字橋の坪地区試掘調査は、宅地分譲住宅建設用地開発に伴うもので、調査対象地の直近では調査事例が無く、埋蔵文化財の包蔵地状況は不明であった。しかし、西方の先代池・平池周辺には『中の池遺跡（弥生前：集落跡）』『道下遺跡（弥生～近世：包含地）』『平池西遺跡（縄文・弥生：包含地）』『平池南遺跡（縄文・弥生：包含地）』『平池東遺跡（弥生：包含地）』など広い範囲で遺跡の分布が確認されている。更に、北方には『田村廃寺（奈良：寺院）』『田村遺跡（古代：寺院）』などが所在しており、各時代の遺跡が集中している地域であることや地理的状況から考えると遺跡の包含が推測されることから、試掘調査を実施した。

飯野町東二字中代地区試掘調査は、店舗建設用地開発の事業計画に伴うもので、当該地は飯野山西裾部に位置し、南３００m地点では『西坂元内板遺跡（弥生・古墳・中世：集落跡）』が所在し、北北東５００m付近には飯野山の麓に『飯野山西麓散布地（弥生～古代：散布地）』が広範囲にわたり広がっている。調査対象地は、周辺の土地よりも一段高くなっており、以前から微高地であったことが伺え、周辺の遺跡分布や地理的状況から考えると、遺跡の分布が推測されることから試掘調査を実施することとなった。

綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査は、分譲住宅建設に伴うもので、当該地周辺の丘陵部には『横山経塚古墳群（古墳：古墳）』『地神山古墳群（古墳：古墳）』『宮前八幡神社古墳（古墳：古墳）』が所在する。平野部では、北側１００m地点に『庄遺跡（弥生～中世：集落跡）』、南１５０m地点に『塔寺遺跡（不明：包含地）』が所在している。このように、弥生時代から古墳時代にかけて活発な地域であったことが伺え、塔寺遺跡のある付近から緩やかに延びる微高地の先端部付近にあたり、北側の谷部を挟んだ北対岸部に庄遺跡が所在することからも同様の遺跡が所在する可能性が極めて高いことから、試掘調査を実施することとした。

綾歌町富熊字沖地区試掘調査は、宅地分譲建設用地の開発に伴うもので、対象地は、東の羽床盆地から続く平野の絞り込まれた地域で、南東には『行末西遺跡（弥生・古墳：集落跡）』『行末遺跡（弥生：集落跡）』が所在しており、この付近も遺跡の分布状況が高いものと推測でき、試掘調査を実施することとなった。

綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査は、歯科医院建設に伴うもので、当該地周辺の丘陵部には『横山経塚古墳群（古墳：古墳）』『地神山古墳群（古墳：古墳）』『宮前八幡神社古墳（古墳：古墳）』が所在している。平野部では、北側３５０m地点に『庄遺跡（弥生～中世：集落跡）』、南隣接地点に『塔寺遺跡（不明：包含地）』が所在している。このように、弥生時代から古墳時代にかけて活発な地域であったことが伺え、塔寺遺跡のある付近から緩やかに延びる微高地上にあたり、立地は安定している。周辺の遺跡分布状況からも遺跡が所在する可能性が極めて高いことから、試掘調査を実施することとなった。

これら１３件の調査を実施した結果、綾歌町富熊字蔵ノ内地区の２ヶ所を蔵ノ内遺跡として新たに発見することができた。そして、綾歌町富熊字沖地区では行末西遺跡として１遺跡を追加登録することとなった。

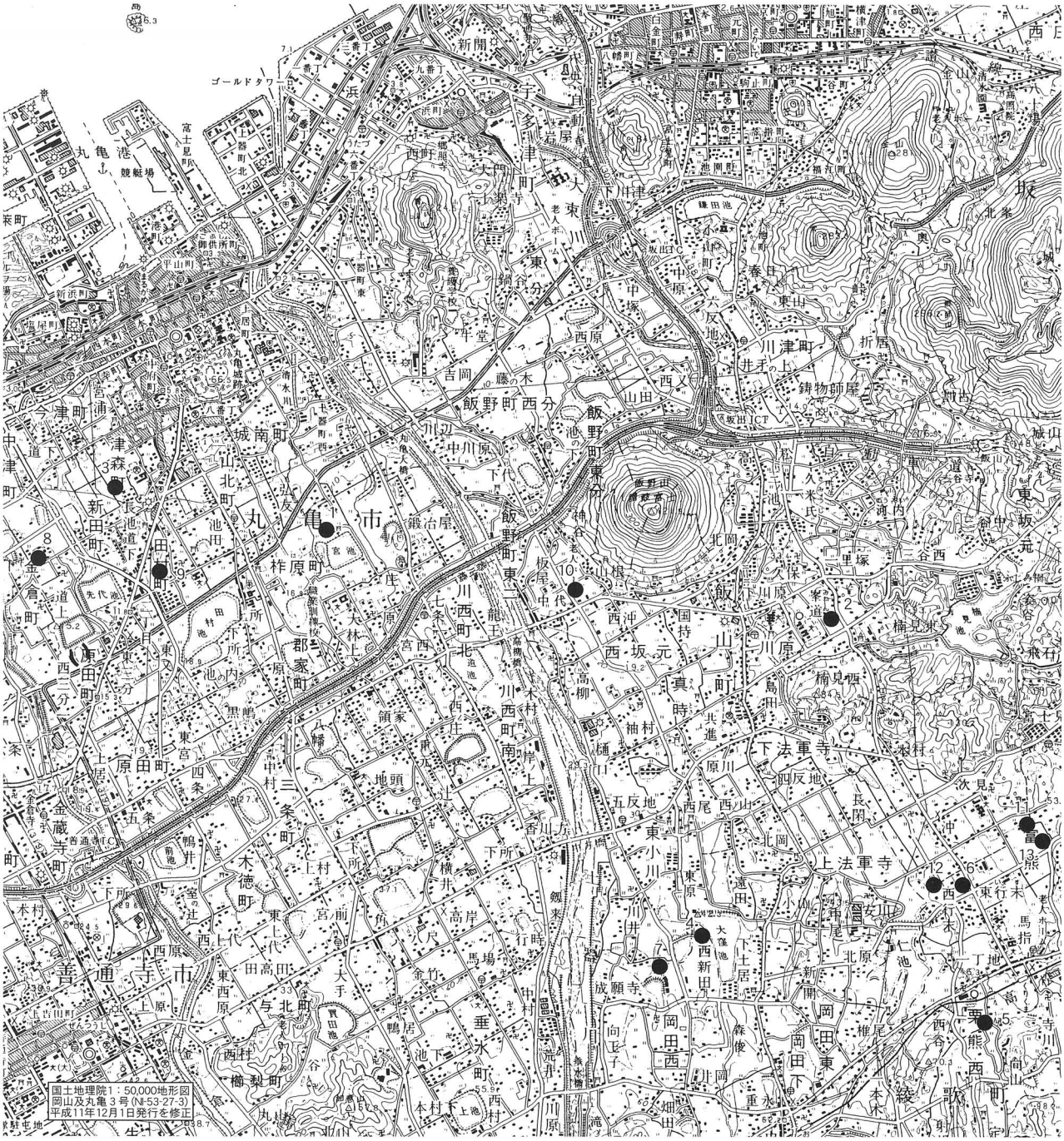
その他の調査では、飯山町東坂元字楠見地区、津森町字高丸地区、綾歌町岡田西字新田地区、綾歌町栗熊西字大妻田地区、飯山町東小川字前谷地区、金倉町字道下地区、田村町字橋の坪地区、飯野町東二字中代地区の８地区において埋蔵文化財包蔵地を確認したが保護措置は不要と判断した。

その他の地区では、埋蔵文化財の所在が確認できなかったことや、検出内容が極めて希薄であったこと等から遺跡としての取り扱いは不要であるとの結論に至った。

これらの調査によって得られた資料に基づき、それぞれの開発事業者と埋蔵文化財の保存について協議し、適切な保護を図ることができた。

また、今後計画される開発などにもこれらの成果を反映し文化財の保護に役立てたい。

以上、平成２０年度の丸亀市内遺跡発掘調査事業は、丸亀市内で計画された１３件の事業に伴う試掘調査を実施し、平成２０年６月２日から開始し平成２１年３月３１日に終了した。



1. 土器町西二丁目地区
2. 飯山町東坂元字楠見地区
3. 津森町字高丸地区
4. 綾歌町岡田西字新田地区
5. 綾歌町栗熊西字大妻田地区
6. 綾歌町栗熊東字下河西地区
7. 飯山町東小川字前谷地区
8. 金倉町字道下地区
9. 田村町字橋の坪地区
10. 飯野町東二字中代地区
11. 綾歌町富熊字蔵ノ内地区（蔵ノ内遺跡）
12. 綾歌町富熊字沖地区（行末西遺跡）
13. 綾歌町富熊字蔵ノ内地区（蔵ノ内遺跡）

第1図　平成20年度丸亀市内遺跡発掘調査対象地

土器町西二丁目地区

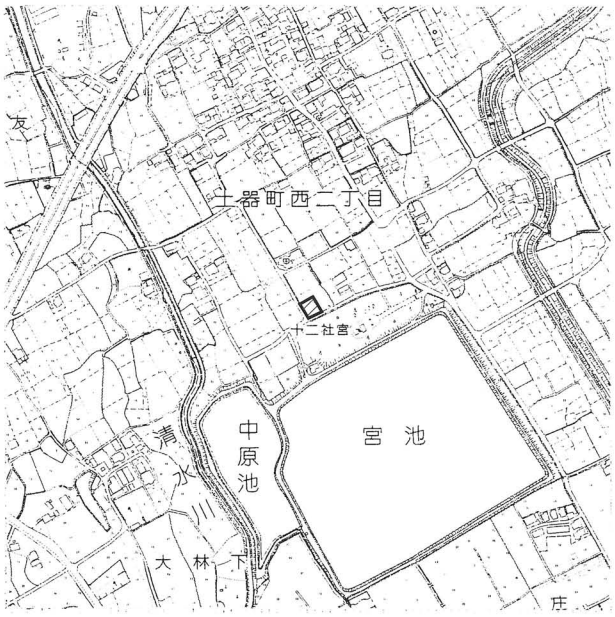
第Ⅱ章　土器町西二丁目地区試掘調査

調査対象地　　丸亀市土器町西二丁目１６２
調査期間　　平成２０年６月１９日
調査面積　　約１６．８㎡（調査対象地面積１８１．０７㎡）

１．立地と環境

当該地は、土器町西二丁目に位置する畑地である。以前は宮の浦と称されていた。宮池の北側に所在する十二社宮の元社叢地である。更に北側の川古集落は『和名類聚抄』にも登場することからも古くから開けた地域であることが読み取れる。

宮池では石包丁などの石器が採取されている。また、南に目を向けると双子山周辺には古墳時代の包蔵地が知られている。



第2図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

KDDI 無線基地局の設置の計画に伴い、平成２０年６月３日埋蔵文化財の所在及びその取り扱いについての照会文書が提出された。

近隣での埋蔵文化財調査事例が無く、包蔵地の状況は不明であったことから、事前調査をすることが適当であるとの判断の元、試掘調査を実施した。調査の結果、遺構は確認できなかったことから、８月２０日保護措置は不要である旨の回答を事業者に行った。

３．調査の概要

調査は、計画地内に３箇所でのトレンチ調査とした。以下、トレンチ毎に概要を記述する。

【１トレンチ】

計画地南面に沿って東西軸で設定した。耕作土直下には、灰黄色系の粘質土が堆積し、その下層には更に褐色がかった層を確認した。いずれもベース層と考えられる。遺物、遺構共に認められなかった。

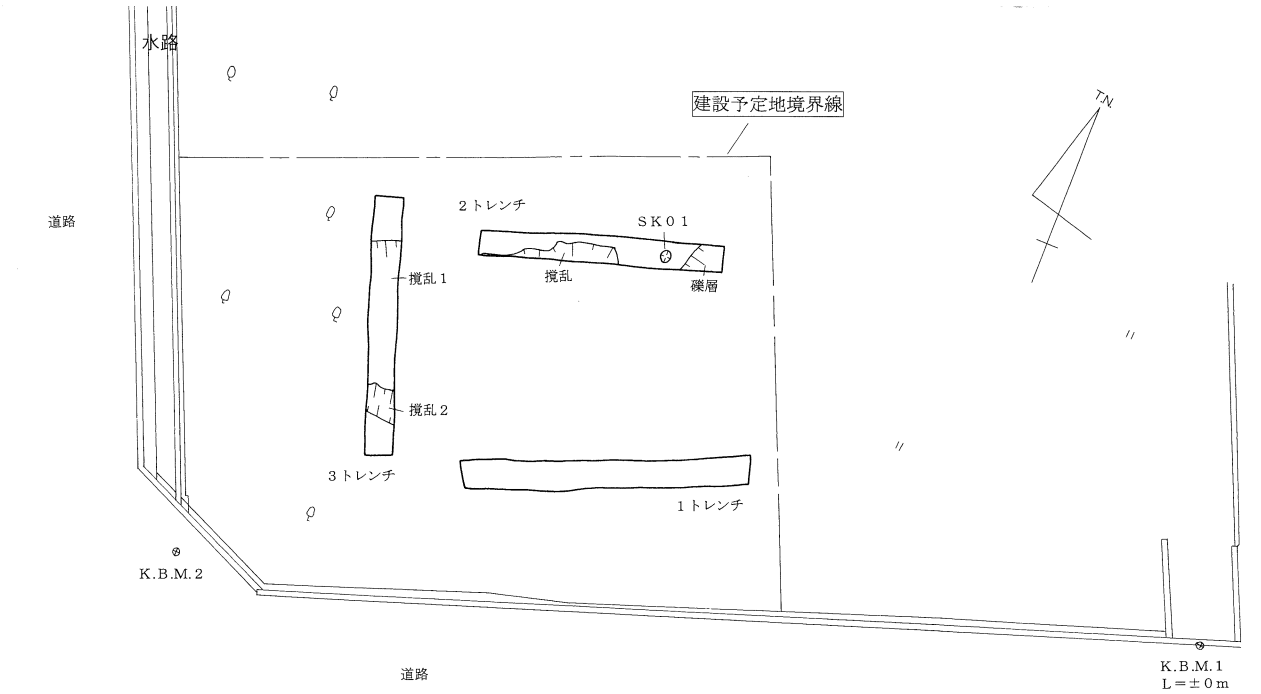
【２トレンチ】

計画地北面に沿って東西軸で設定した。耕作土直下に床土が敷かれている。その下面は整っておらず、水平堆積は見られない。トレンチ東端では、地形の傾斜により影響を受けていると推測される礫層が認められる。その礫層の西側に土坑状の落ちを１箇所検出したが、遺構として取り扱いの可否は難しい。

その他の遺構、遺物は共に認められない。トレンチ南半部は撹乱を受けており旧状は留めていない。

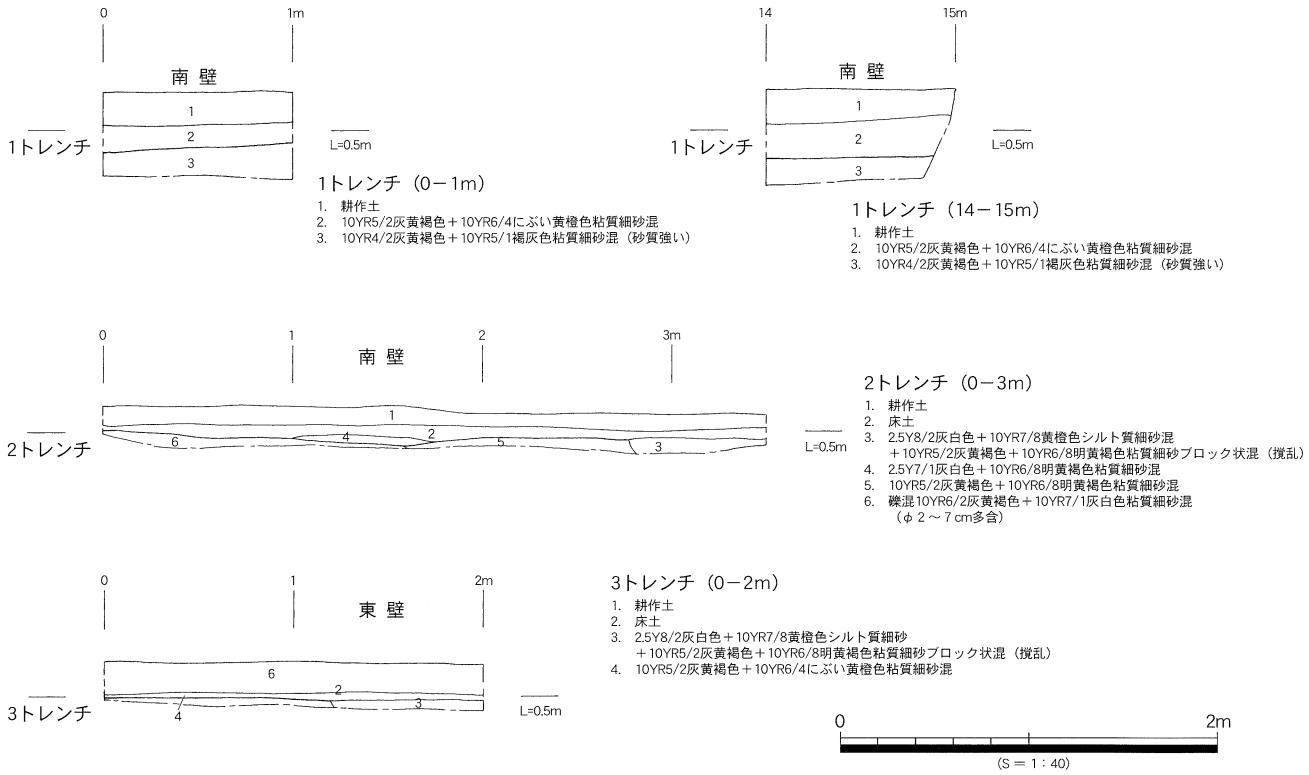
【３トレンチ】

計画地西面には樹木が植栽されており、立ち入れないことから、極力西に寄せた位置で、南北軸に設定した。トレンチの大半がコンクリート塊やワイヤーが埋まっている撹乱を受けており、旧状の確認は不可能であった。遺物、遺構共に認められなかった。



第3図　トレンチ配置図

0　10m
(S＝1：200)



第4図　1～3トレンチ断面図

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	0.8m×7.6m	不明	無し	無し
2トレンチ	0.8m×6.5m	不明	土坑状落ち	無し
3トレンチ	0.8m×6.9m	不明	無し	無し

第1表　土器町西二丁目地区試掘調査 トレンチ概要

4．まとめ

以上、計画地内に3箇所のトレンチを設定し、調査を行った。2トレンチで土坑状の落ちを1箇所検出するが、遺構としての広がりは確認できない。2、3トレンチの状況から考えると、計画地内は大半が撹乱を受けており元の状況を留めていないことが強く予想される。

今回の調査によって、当該地は大きく撹乱を受けていることが判明した。撹乱土坑の認められない1トレンチの状況から見ても、この範囲には遺跡の所在が無いものと考えられる。仮に、遺跡が所在していたと仮定しても、削平等の影響を受けており、現在においては残存していないと考えられる。これらのことから、当該地において保護措置は不要と考えられる。

調査後、トレンチは埋め戻し原状に復した。

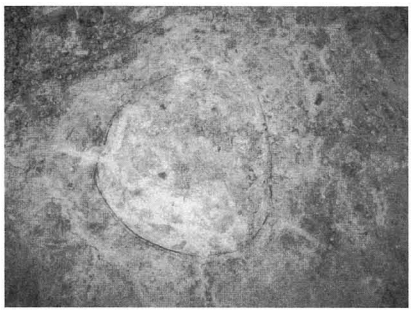
調査地全景：南東から

調査風景

1トレンチ全景：東から

1トレンチ土層

2トレンチ全景：北東から


2トレンチ土坑状落ち検出状況

3トレンチ全景：北西から

十二社宮

十二社宮社叢遠景：南から

図版1　土器町西二丁目地区試掘調査

飯山町東坂元字楠見地区

第Ⅲ章　飯山町東坂元字楠見地区試掘調査

調査対象地　　飯山町東坂元字楠見２０６２－１、２０６５－１、２０６６－１
調査期間　　平成２０年６月２５日～７月２日
調査面積　　約３２０．３㎡（調査対象地面積４８７３㎡）

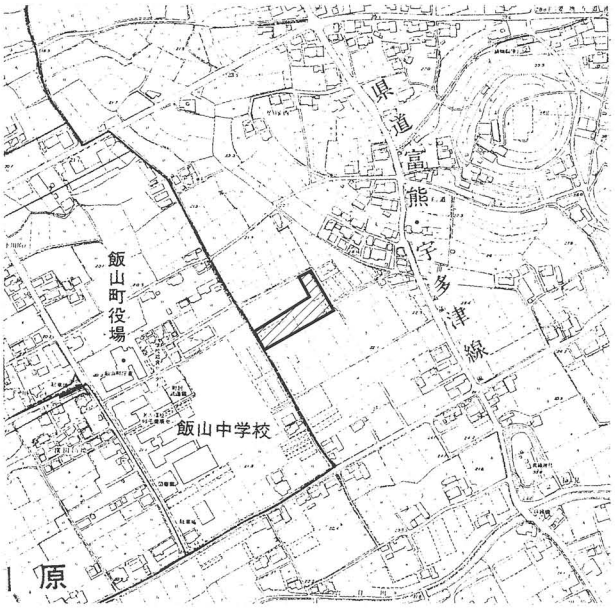
１．立地と環境

地名の楠見は昔楠の大樹があり、その樹の上から見渡せる付近一帯を総称したと云われている。

北に目を向ければ飯野山が見える。東側には大束川が流れる。周辺には弥生土器の出土が見られ、また、三ノ池古墳群、秋常古墳群、久保大塚と古墳時代の遺跡が点在することが古くから知られている。

近年の発掘により『東坂元三ノ池遺跡（古代～中世：集落跡）』、『東坂元北岡遺跡（弥生：集落跡）』、『東坂元秋常遺跡（弥生：集落跡）』の詳細が明らかにされた。

当該地は、現在の飯山町学校給食センターの南面及び東面に隣接する圃地である。周辺の遺跡は希薄で、歴史的環境はよくわかっていない。



第5図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

丸亀市給食センター建設に伴い、埋蔵文化財の有無に関する調査の施行決定が行われた。平成２０年６月２日立ち入り申請がなされ、６月２５日から７月２日にかけて重機によるトレンチ調査が行われた。当初は、現給食センター西側の下川原楠見線の西側で駐車場舗装されている圃地も対象としていたが、新たな土木工事の計画が成されないことから今回の調査区域からは対象外とした。調査の結果遺構は幾つか検出されたが希薄なため今後の保護措置は不要である旨の回答を７月２９日におこなった。

３．調査の概要

調査は、現給食センターの南面及び東面に隣接する圃地を対象にして実施した。

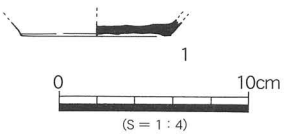
登記簿上は、３筆であるが、内２筆がコンクリート畦畔によって細分されていることから、見た目での筆単位で調査区分けをし、調査区毎にトレンチ番号を設定した。以下、特徴的なトレンチについて報告する。

【１区１トレンチ】

１区の圃地西端中央部に東西軸で長さ１１．４ｍのトレンチを設定した。耕作土の下層には、整地土層が重なっており、比較的新しい開墾によるものと考えられる。更に下層には、灰色系の遺物包含層が１０㎝前後の厚みで堆積する。遺物の包含量はかなり少ない。中央部で南北軸の小溝が２条並ぶが、遺物を包含しておらず詳細は不明である。その他の遺構は認められない。

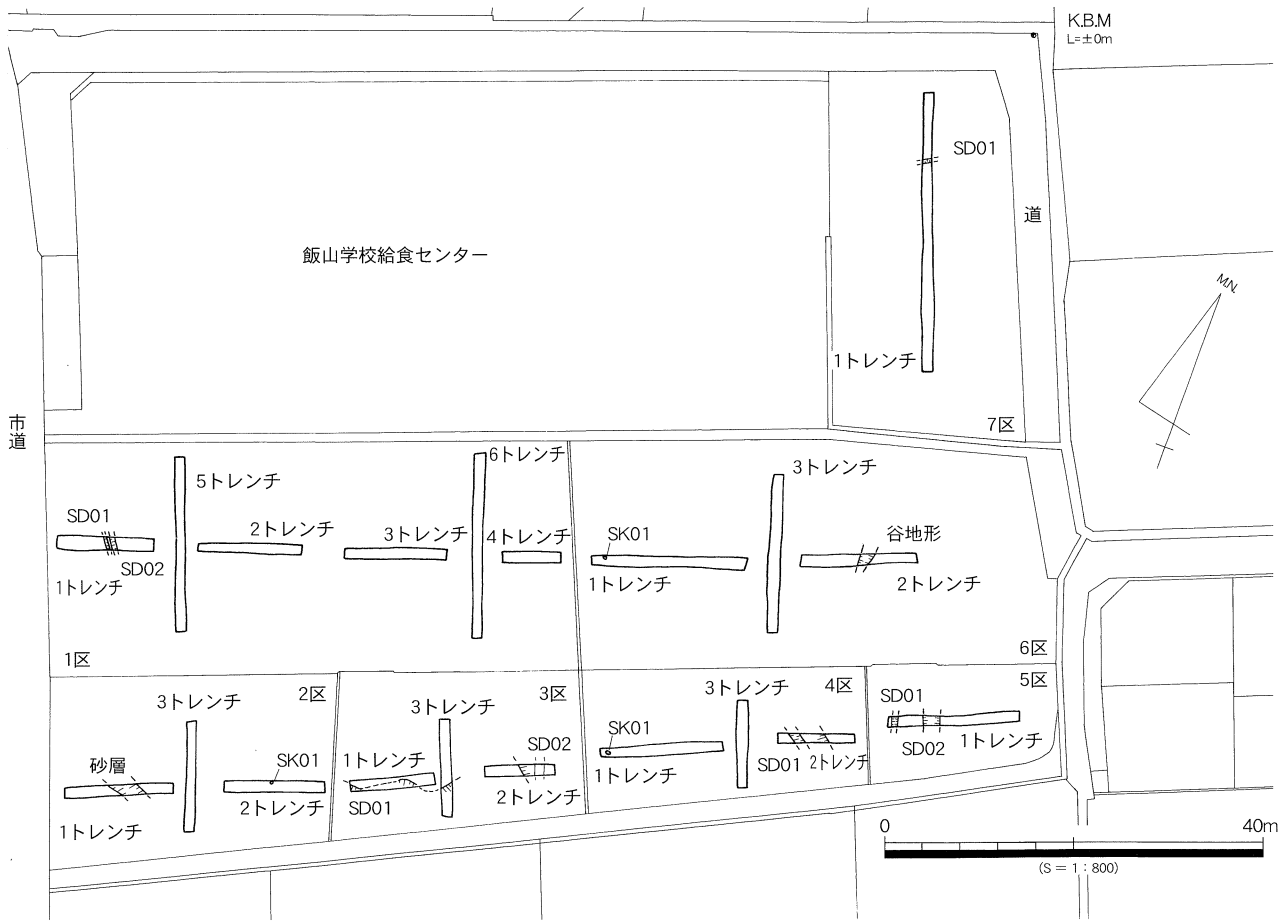
【１区５トレンチ】

１・２トレンチ間に南北軸で設定した。土層序は１トレンチと同様であった。５層からやや小型の須恵器の坏底部が出土した。ヘラ切りによる底部調整が見られる。他に小片で実測には耐えられなかったが、土師質土器の甕口縁片、小皿底部片、羽釜片も出土している。羽釜鍔は短く、口縁端部は短く直立する。



第6図　1区5トレンチ出土遺物実測図

１区の１～６トレンチの土層序は、ほぼ同様である。全体的に耕作土直下で２０㎝前後の厚みを持つ整地層が見られ、その下層に６～１６㎝の遺物包含層が堆積する。



第7図　トレンチ配置図

【２区１トレンチ】

１区の南側に面する圃地で、西端中央部に東西軸で長さ１１．４ｍのトレンチを設定した。土層序は１区同様である。トレンチ中央部で砂層が認められるが、平野形成時の堆積か旧河道氾濫による窪地への堆積と思われる。遺物、遺構共に認められない。

【２区２トレンチ】

１トレンチの東側に東西軸で長さ１０．５ｍのトレンチを設定した。土層序は１トレンチと同様であるが砂層は認められない。トレンチ中央で土坑状の落ちを１箇所確認するが、連続性が見られず詳細は不明である。

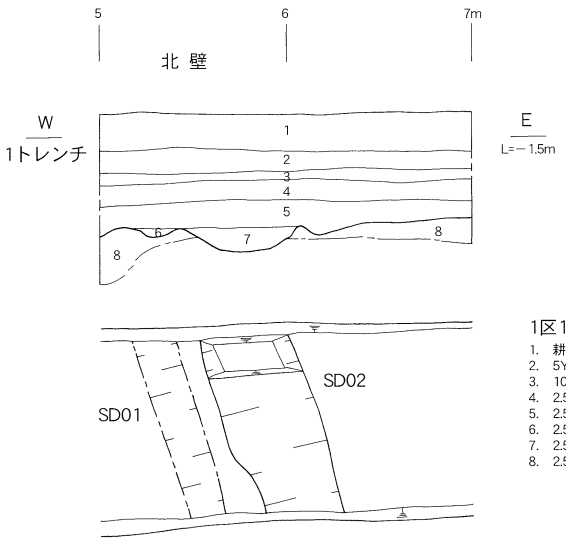
【３区１トレンチ】

２区の東側の圃地で、西端中央部に東西軸で長さ８．９ｍのトレンチを設定した。

耕作土直下には１・２区と同様の整地層がある。更に下層には少量の遺物を包含する灰色系粘質細砂が堆積する。トレンチ南半部に黒色系粘質細砂の堆積が見られる。これは、東西軸の溝と思われる。肩口ラインは、やや曲線状である。溝の最上層よりサヌカイト石器２、３が出土した。２は自然面をもち両面調整が見られるが折損のため種別は不明である。３はスクレイパーである。側面に自然面を持ち背部には歯潰し加工が、刃部には両面調整が見られる。

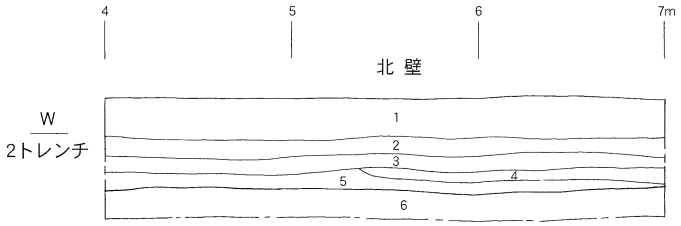
【３区２トレンチ】

１トレンチの東側に東西軸で長さ７．４ｍのトレンチを設定した。土層序は１トレンチと同様である。トレンチ東半部で１トレンチの溝状遺構と同様な埋土を持つ溝状の落ちが認められる。但し、東の肩口は未検出である。軸方向が１トレンチのものとは合致しない。別溝である可能性もあるが、形状が北方に広がっているようであり終焉しているものと思われる。



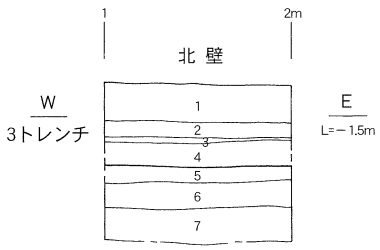
1区1トレンチ（5－7m）

1. 耕作土
2. 5Y6/2灰オリーブ色細砂
3. 10YR6/6明黄褐色＋5Y6/2灰オリーブ色粘質細砂まばら混
4. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（粘質強い）（Mn・土器片含）
5. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色～6/1黄灰色粘質細砂（砂質強い）
6. 2.5Y6/1黄灰色～4/2暗灰黄色粘質細砂
7. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色＋2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂まばら混
8. 2.5Y6/6明黄褐色～6/1黄灰色粘質細砂



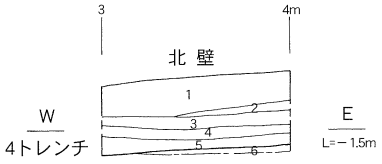
1区2トレンチ（4－7m）

1. 耕作土
2. 10YR7/1灰白色粘質細砂
3. 2.5Y8/2灰白色～8/6黄橙色粘質細砂
4. 2.5Y6/1黄灰色～6/3にぶい黄橙色粘質細砂
5. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（Mn多含）
6. 2.5Y3/1黒褐色～3/3暗オリーブ褐色粗砂



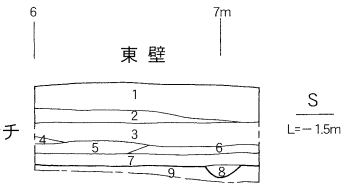
1区3トレンチ（1－2m）

1. 耕作土
2. 10YR7/1灰白色＋10YR7/4にぶい黄橙色粘質細砂混
3. 10YR6/6明黄褐色粘質細砂
4. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（粘質強い）＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂まばら混
5. 2.5Y6/1黄灰色＋3/3暗オリーブ褐色＋4/3オリーブ褐色粗砂ブロック状混
6. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂（粘質強い・Mn含）
7. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂（砂質強い・Mn含）



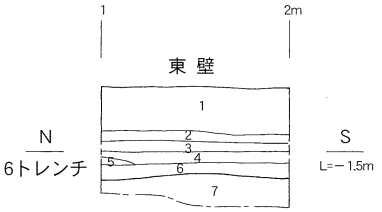
1区4トレンチ（3－4m）

1. 耕作土
2. 花崗土
3. 10YR7/1灰白色＋10YR7/4にぶい黄橙色粘質細砂混
4. 10YR6/6明黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（粘質強い）＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂まばら混
6. 2.5Y6/1黄灰色＋3/3暗オリーブ褐色＋4/3オリーブ褐色粗砂ブロック状混



1区5トレンチ（6－7m）

1. 耕作土
2. 花崗土
3. 10YR7/4にぶい黄橙色＋10YR7/1灰白色粘質細砂
4. 2.5Y6/6明黄褐色＋10YR7/1灰白色粘質細砂
5. 10YR7/1灰白色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂
6. 10YR6/8明黄褐色粘質細砂
7. 2.5Y6/1粘質細砂（粘質強い・Mn含）
8. 2.5Y6/1粘質細砂（粘質強い・Mn含）＋10YR4/2灰黄褐色粗砂混
9. 2.5Y6/6明黄褐色～6/1黄灰色粘質細砂



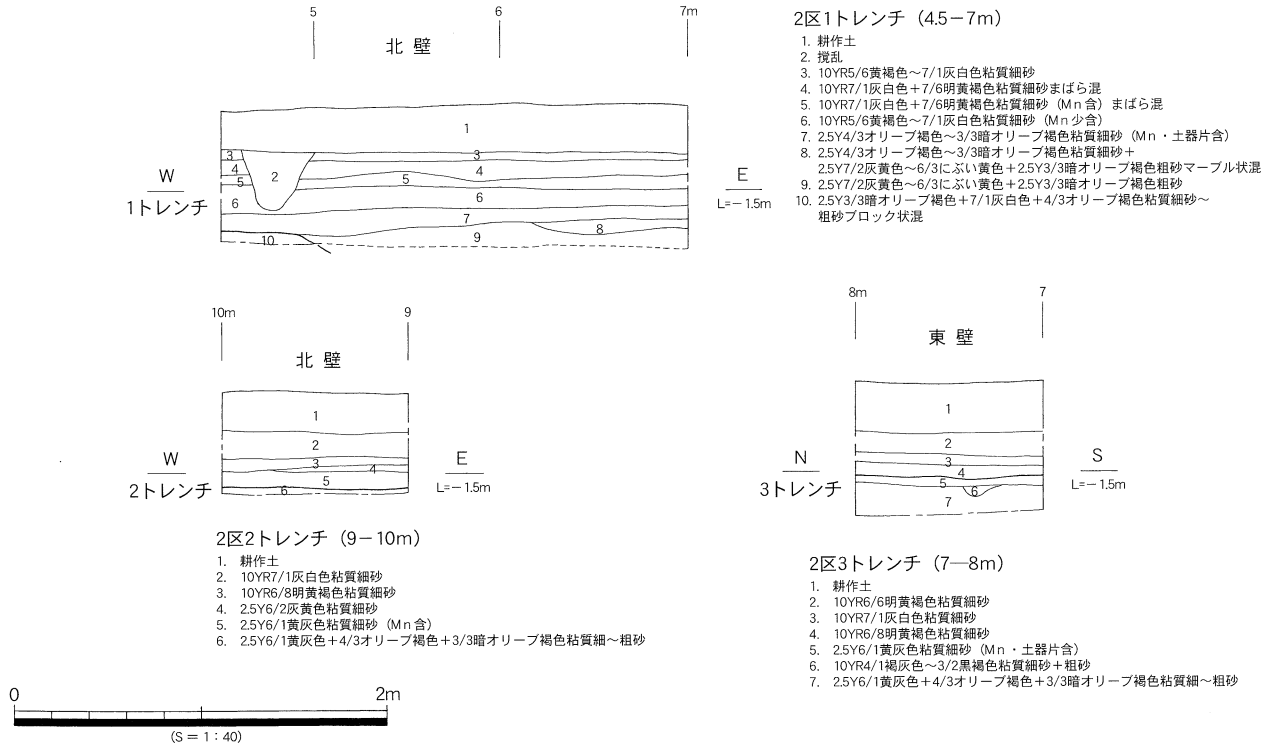
1区6トレンチ（1－2m）

1. 耕作土
2. 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂（砂質強い）
3. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂（砂質強い）
4. 2.5Y7/1灰白色～6/6明黄褐色粘質細砂（砂質強い）
5. 2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂
6. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂（粘質強い・Mn含）まばら混
7. 2.5Y6/1黄灰色＋4/3オリーブ褐色＋3/3暗オリーブ褐色粘質細砂ブロック状混

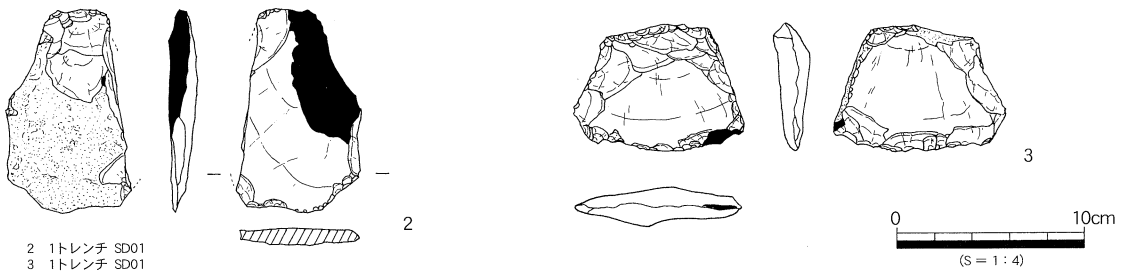
0　2m

(S＝1：40)

第8図　1区1～6トレンチ平面・断面図



第9図　2区1～3トレンチ断面図



2　1トレンチ SD01
3　1トレンチ SD01

第10図　3区出土遺物実測図

【３区３トレンチ】

１・２トレンチの間に南北軸で長さ１０．４ｍのトレンチを設定した。土層序は、１・２トレンチと同様である。

トレンチ南端部で１トレンチの溝状遺構に連続すると思われる落ちを検出した。南の肩口が検出できないことから規模は不明である。

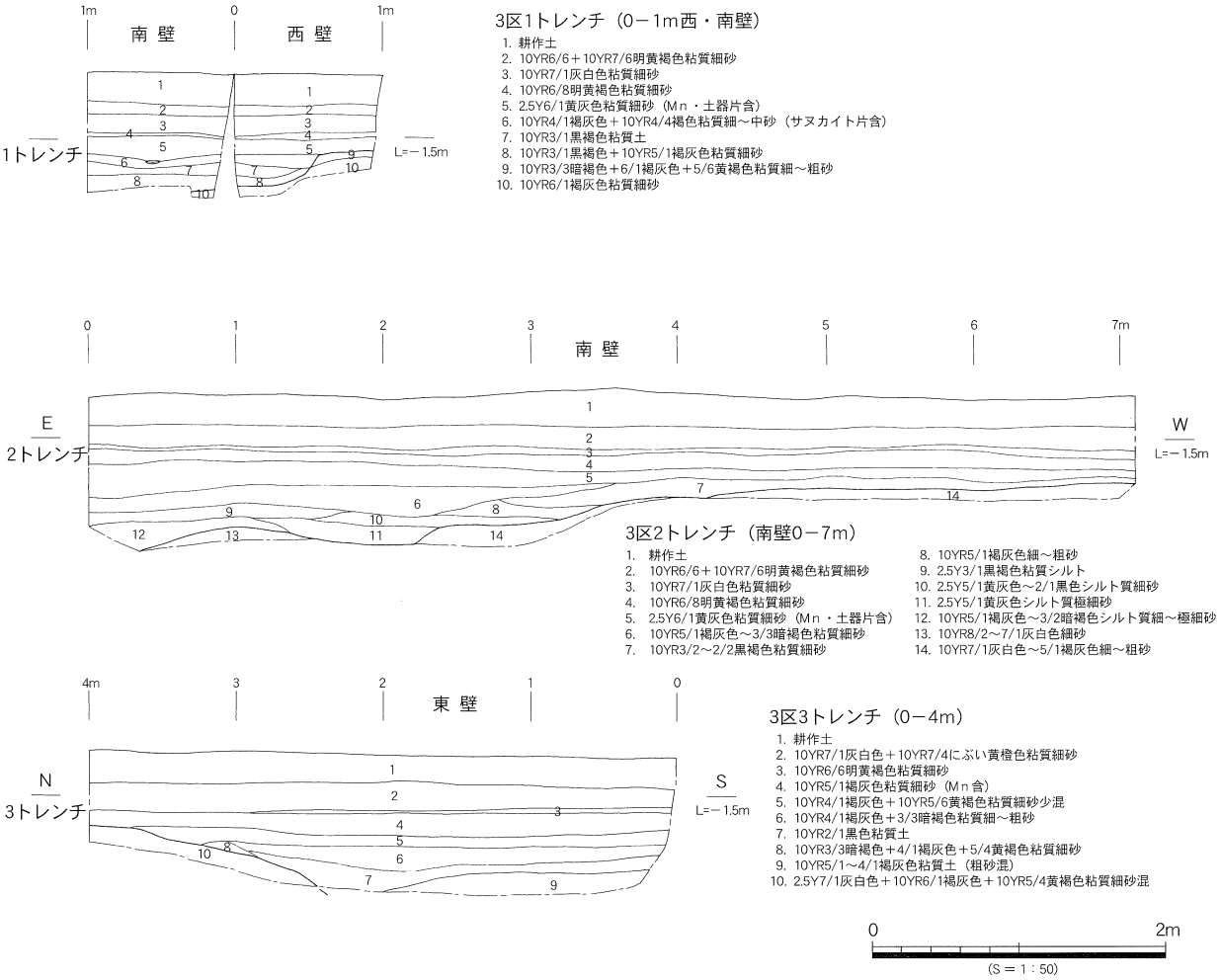
【４区１トレンチ】

３区の東側の圃地で、西端中央部に東西軸で長さ１２．９ｍのトレンチを設定した。土層序は、１・２・３区と同様である。トレンチ西端で土坑状の落ちを１箇所検出した。その他の遺構は無く詳細は不明である。

【４区２トレンチ】

１トレンチの東側に東西軸で長さ１２．２ｍのトレンチを設定した。土層序は、１トレンチと同様である。

トレンチ西半部で斜行する溝状の落ちを検出するが、遺物の包含も無く詳細については不明である。東に



第11図　3区1～3トレンチ断面図

地形の落ちと思われる傾斜変換が見られることから、その一部であることも考えられる。

【５区１トレンチ】

調査区東端に位置する圃地の中央部に東西軸で長さ１４．０ｍのトレンチを設定した。土層序は、１～４区と同様である。トレンチ西半部で溝状の落ちを２箇所検出した。いずれも遺物は包含しない。２条共に南北軸で並行するが検出面に差異が見られるものと考えられる。

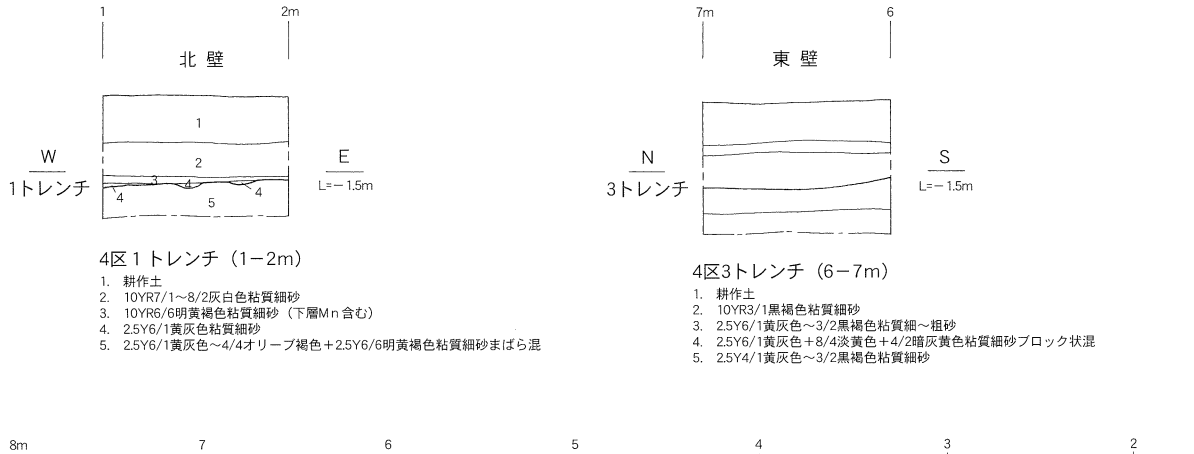
【６区１トレンチ】

１区東側に隣接する圃地で、西端中央部に東西軸で長さ１１．２ｍのトレンチを設定した。土層序は１～５区と同様である。トレンチ西端部で土坑状の落ちを１箇所検出した。これまでの他の土坑とは埋土が明らかに違っており、確実な遺構であると思われるが、トレンチ内では連続する遺構も見られず詳細は不明である。遺物４、５は４層出土である。４は中世の土釜口縁部、５はサヌカイトの石包丁である。折損により全体像は不明であるが抉り状の調整が見られる。

【６区２トレンチ】

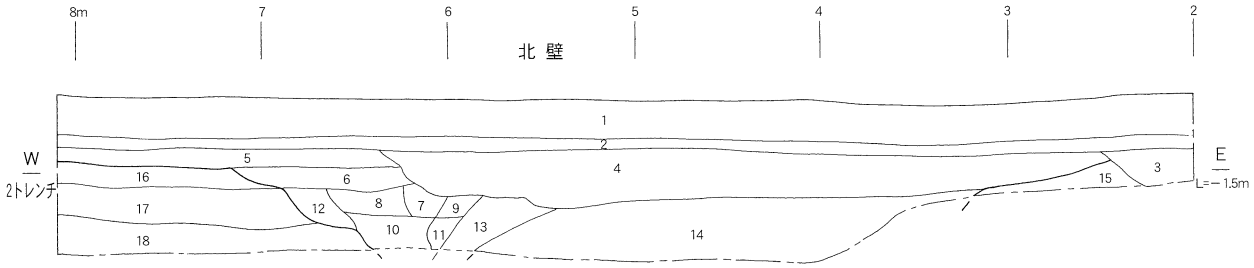
１トレンチの東側に東西軸で長さ１２．２ｍのトレンチを設定した。土層序は１トレンチと同様であるが、トレンチ中央部付近で数箇所撹乱を受けている。撹乱箇所の下層でベース層が谷状に落ちているが、遺構ではなく地形によるものと思われる。

遺物６～９は地山層直上の５層より出土した。６は須恵器坏口縁片である。７はつまみの直径２．７㎝を測る焼きの甘い坏蓋である。８は坏の底部であるが摩滅が著しく調整は不明である。これらは８～９Ｃ代のものであろうと思われる。９は最大長９．１㎝、幅４．４㎝を測るサヌカイトの石包丁である。抉りが見られるが片側が欠損しており一方は不明である。

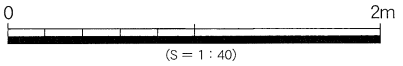


4区１トレンチ（1－2m）
1. 耕作土
2. 10YR7/1～8/2灰白色粘質細砂
3. 10YR6/6明黄褐色粘質細砂（下層Mn含む）
4. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂
5. 2.5Y6/1黄灰色～4/4オリーブ褐色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂まばら混

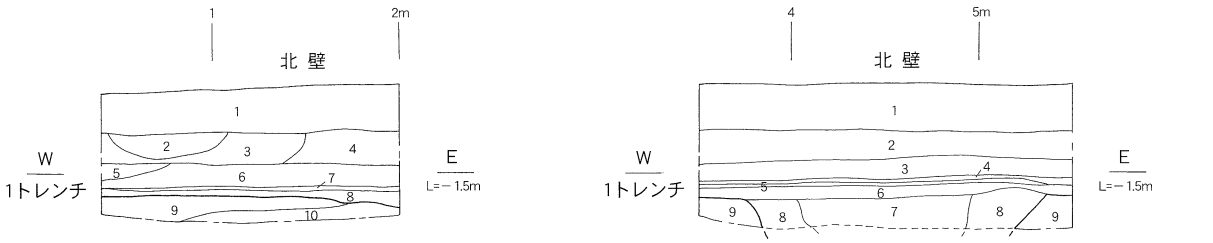
4区3トレンチ（6－7m）
1. 耕作土
2. 10YR3/1黒褐色粘質細砂
3. 2.5Y6/1黄灰色～3/2黒褐色粘質細～粗砂
4. 2.5Y6/1黄灰色＋8/4淡黄色＋4/2暗灰黄色粘質細砂ブロック状混
5. 2.5Y4/1黄灰色～3/2黒褐色粘質細砂



4区2トレンチ（2－8m）
1. 耕作土
2. 2.5Y6/1黄灰色～6/6明黄褐色粘質細砂
3. 花崗土
4. 撹乱
5. 2.5Y6/6明黄褐色～7/1灰白色粘質細砂
6. 2.5Y5/1黄灰色～5/3黄褐色粘質細砂
7. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y4/3オリーブ褐色細～粗砂混
8. 2.5Y4/2暗灰黄色～4/3オリーブ褐色粘質細砂
9. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂
10. 2.5Y3/2粘質シルト
11. 2.5Y5/1黄灰色～3/2黒褐色粘質細砂（砂質強い）
12. 2.5Y5/1黄灰色＋4/2オリーブ褐色＋7/3浅黄色粘質細砂ブロック状混
13. 2.5Y6/2灰黄色～8/4淡黄色粘質細砂
14. 2.5Y6/1黄灰色～3/2黒褐色粘質細砂＋2.5Y7/3浅黄色まばら混
15. 2.5Y6/1黄灰色～4/3オリーブ褐色粘質細砂
16. 2.5Y6/6明黄褐色＋6/1黄灰色＋4/2暗灰黄色粘質細砂ブロック状混
17. 2.5Y6/1黄灰色＋7/6明黄褐色粘質細砂まばら混
18. 2.5Y6/1黄灰色～4/2暗灰黄色粘質細砂＋2.5Y8/3淡黄色細砂ブロック状混

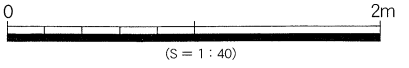


第12図　4区1～3トレンチ断面図



5区１トレンチ（0.5—2m）
1. 耕作土
2. 5Y5/4オリーブ色～5/2灰オリーブ色粘質細砂（SD０１）
3. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（砂質強い）
4. 2.5Y6/4にぶい黄色～7/2灰黄色粘質細砂（砂質強い）
5. 2.5Y6/1～5/1黄灰色粘質細砂（砂質強い）
6. 2.5Y7/1灰白色～6/2灰黄色粘質細砂＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂まばら混
7. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（粘質強い・Mn含）
8. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂
9. 2.5Y6/1黄灰色～6/6明黄褐色粘質細～粗砂
10. 2.5Y6/1黄灰色～4/2暗灰黄色細～粗砂

5区1トレンチ（3.5－5.5m）
1. 耕作土
2. 2.5Y6/4にぶい黄色～7/2灰黄色粘質細砂（砂質強い）
3. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（砂質強い）
4. 2.5Y7/1灰白色～6/2灰黄色粘質細砂＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂まばら混
5. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（粘質強い・Mn含）
6. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（炭含）
7. 2.5Y6/1黄灰色＋3/3暗オリーブ褐色＋6/6明黄褐色粘質細砂マーブル状混
8. 2.5Y6/1黄灰色～5/6黄褐色粘質細砂
9. 2.5Y6/1黄灰色～7/1灰白色粘質細砂

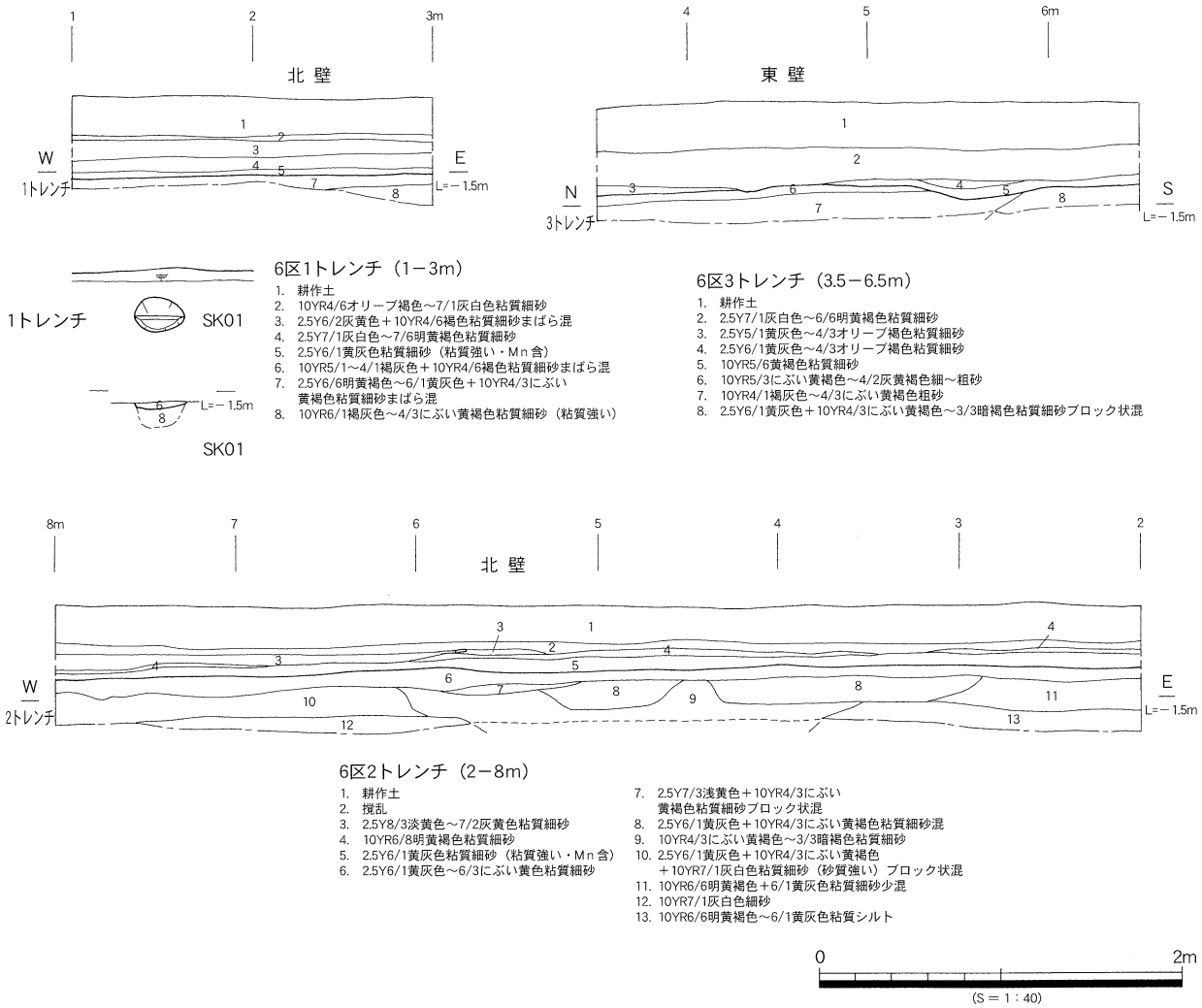


第13図　5区1トレンチ断面図

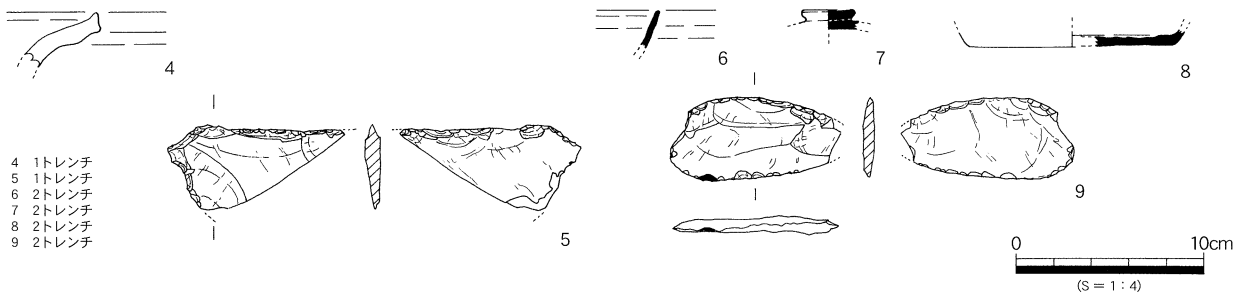
【７区１トレンチ】

調査区北端に位置する圃地の中央部に南北軸で長さ３０．１ｍのトレンチを設定した。トレンチ北部で東西軸の溝状の落ちを１箇所検出。埋土から土師質の土器砕片が１点のみ出土したが、遺構の検出面が浅く、現代の掘削によるものである可能性が高い。その他の遺構は認められない。

遺物は、ほとんどが７層より出土した（遺物１０～１２）。南に下がると包含層は褐色が強くなり極細砂を



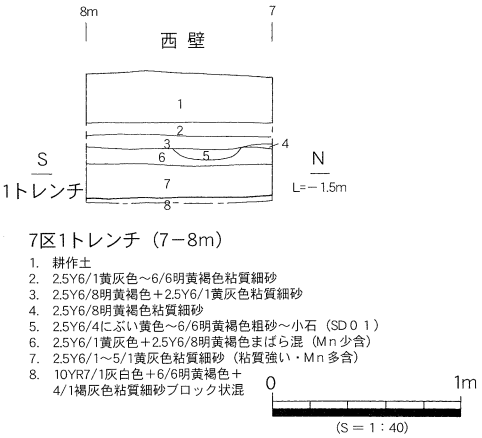
第14図　6区1～3トレンチ平面・断面図



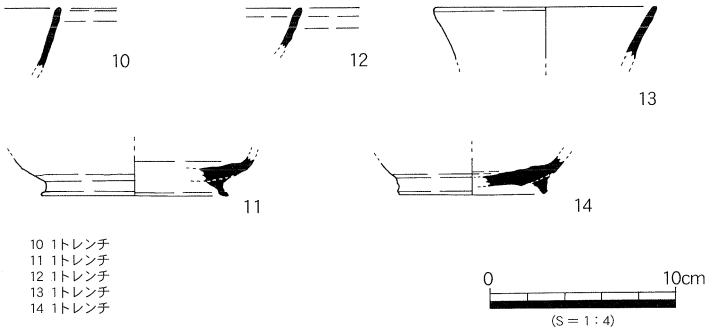
第15図　6区出土遺物実測図

含む層が下層に堆積し、少量の遺物を包含する（遺物１３、１４）。

遺物１０、１２は須恵器の坏である。１１は貼付け高台の底部である。外側に屈曲し踏ん張る端部を持つ。８C後半～末と考えられる。１３は壷の口縁で、外側に直にのびる。１４は直径約８．０cmを測る貼付け高台である。この層からは直径１．９cmの退化した宝珠つまみも出土している。



第16図　7区1トレンチ断面図



第17図　7区出土遺物実測図

区	トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1区	1トレンチ	1.4m×10.2m	不明	溝2条	土師質土器片
1区	2トレンチ	1.1m×10.8m	不明	無し	土師質土器片・土師器片・須恵器片
1区	3トレンチ	1.2m×10.7m	不明	無し	土師器片
1区	4トレンチ	1.2m×6.2m	不明	無し	無し
1区	5トレンチ	1.2m×18.7m	不明	無し	土師質土器片・須恵器片
1区	6トレンチ	1.2m×19.7m	不明	無し	土師器片
2区	1トレンチ	1.2m×11.4m	不明	無し	無し
2区	2トレンチ	1.2m×10.5m	不明	土坑1基	土師質土器片
2区	3トレンチ	1.0m×11.8m	不明	無し	土師質土器片・須恵器片
3区	1トレンチ	1.3m×8.9m	不明	溝1条	土師質土器片・須恵器片 磁器片・サヌカイト片、スクレイパー
3区	2トレンチ	1.3m×7.4m	不明	溝1条	土師質土器片・須恵器片・サヌカイト片
3区	3トレンチ	1.1m×10.4m	不明	溝1条	土師質土器片
4区	1トレンチ	1.2m×12.9m	不明	土坑1基	須恵器片
4区	2トレンチ	1.3m×12.2m	不明	溝1条	無し
4区	3トレンチ	1.3m×16.8m	不明	無し	土師質土器片
5区	1トレンチ	1.1m×14.0m	不明	溝2条	土師質土器片
6区	1トレンチ	1.3m×11.2m	不明	土坑1基	弥生土器片・土師質土器片・サヌカイト片、石包丁
6区	2トレンチ	1.3m×12.2m	不明	無し	土師質土器片・須恵器片・サヌカイト片、石包丁
6区	3トレンチ	1.3m×16.9m	不明	無し	弥生土器片・土師質土器片・須恵器片・鉄製品片
7区	1トレンチ	1.2m×30.1m	不明	溝1条	土師質土器片・須恵器片

第2表　飯山町東坂元字楠見地区試掘調査　トレンチ概要

４．まとめ

今回の調査で、計画地内で遺構状の落ちを数箇所検出した。また、ベース上には少量ではあるが遺物を包含する層が全域で見られる。包含層内の遺物は様々な時代のものが混在しており、対応する遺構も見られないことから古代～中世以降の土地改変を受け、ほとんどの遺構が既に消失していることも十分考えられる。

唯一、計画地南端部で黒色の埋土を持つ落ちを検出した。溝であることが予想されるが、全体像が掴めない事から地形の大きな窪地である可能性も否定できない。

今回の調査で、計画地内に比較的密に試掘トレンチを設定し調査を実施したが、確実な遺構を検出するには至らなかった。計画地の面積を考えても、包含層が存在する割には対応する遺構の展開が見られないことから、当該地を遺跡として扱うことは難しいと思われる。

計画地から東方には、微高地が南北に延びており、かなり安定していることから、遺跡は微高地上に展開しており、今回の計画地付近の低地には流れ込みによる遺物が堆積していると考えた方がいいのかも知れない。

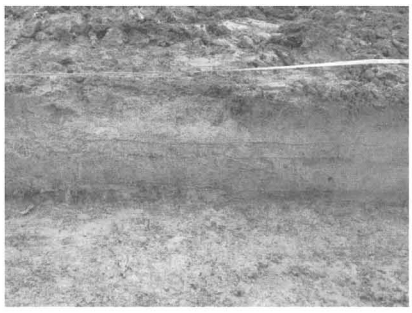
いずれにしても、当該地においては全体的に遺物を包含する層は見られるものの、明確な遺構も認められないことから今後の保護措置は不要であると考えられる。

調査前風景：東から

調査風景

1区1トレンチ全景：東から

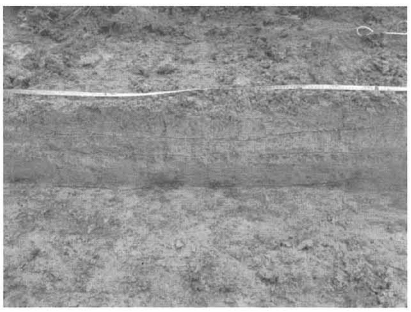
1区1トレンチSD01土層


1区1トレンチ土層

1区2トレンチ全景：東から

1区2トレンチ土層

1区3トレンチ全景：東から


1区3トレンチ土層

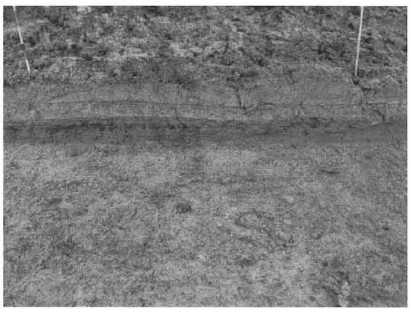
1区4トレンチ全景：東から

1区4トレンチ土層

1区5トレンチ全景：北から

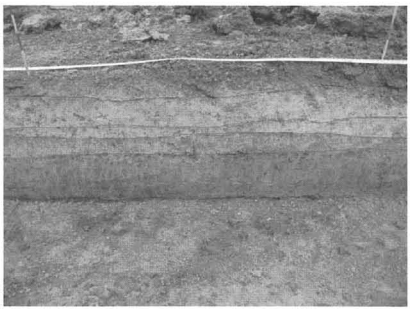
1区5トレンチ土層

1区6トレンチ全景：北から


1区6トレンチ土層

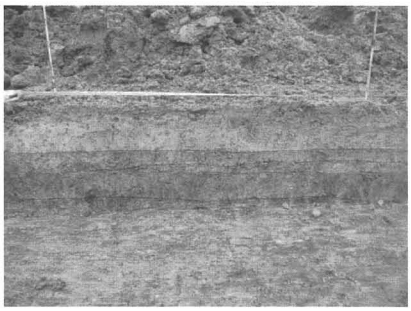
図版2　飯山町東坂元字楠見地区試掘調査（1）

2区1トレンチ近景：砂層付近

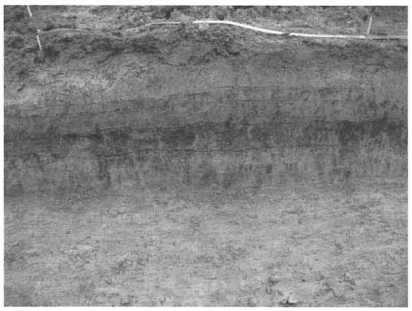

2区1トレンチ土層

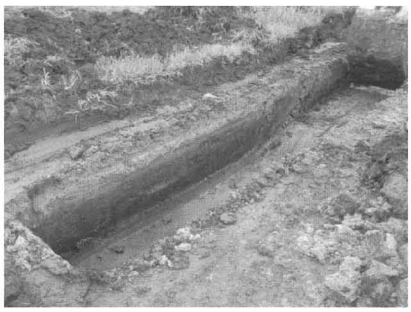
2区2トレンチ全景：南西から

2区2トレンチ土坑検出状況


2区2トレンチ土層

2区3トレンチ全景：北西から


2区3トレンチ土層


3区1トレンチ全景：南西から

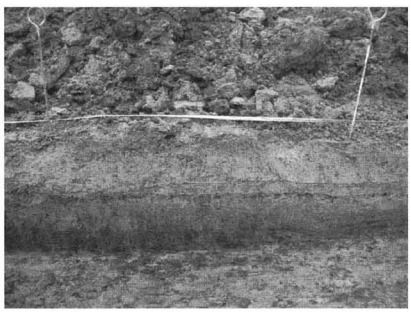
3区1トレンチSD01検出状況

3区1トレンチ土層

3区2トレンチ全景：西から

3区2トレンチSD01

3区3トレンチ全景：北西から

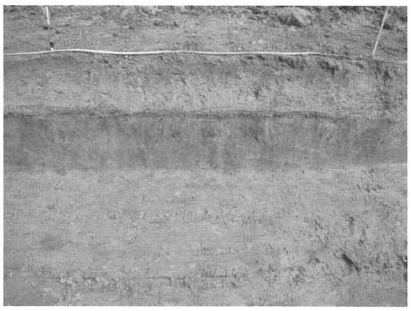

3区3トレンチ土層

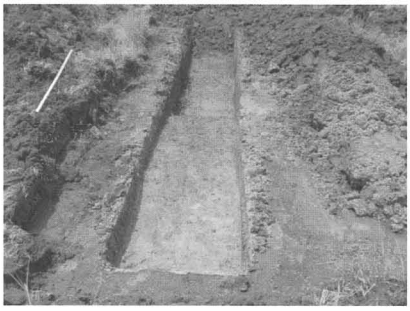
3区3トレンチSD01

図版3　飯山町東坂元字楠見地区試掘調査（2）

4区1トレンチ全景：東から

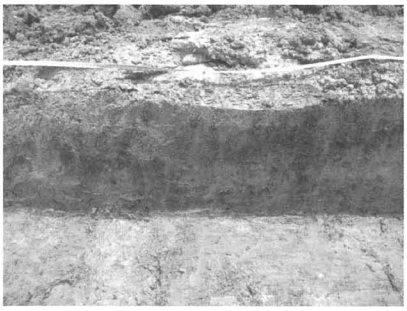
4区1トレンチ土坑検出状況


4区1トレンチ土層


4区2トレンチ全景：東から

4区2トレンチSD01

4区3トレンチ全景：北から

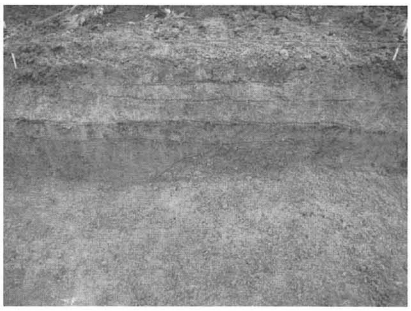

4区3トレンチ土層

5区1トレンチ全景：東から

5区1トレンチSD02検出状況

5区1トレンチ土層

6区1トレンチ全景：西から


6区1トレンチ土層

6区1トレンチSK01半裁

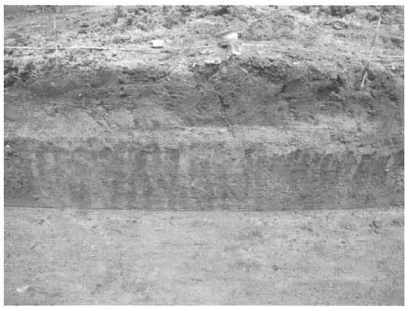
6区2トレンチ全景：東から

6区2トレンチ谷地形検出状況

図版4　飯山町東坂元字楠見地区試掘調査（3）

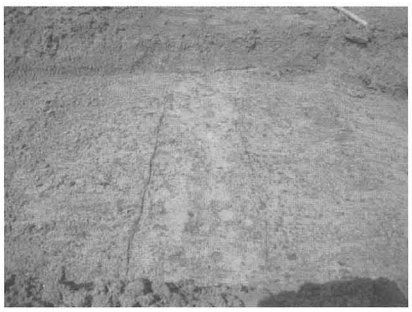
6区2トレンチ土層

6区3トレンチ全景：南から

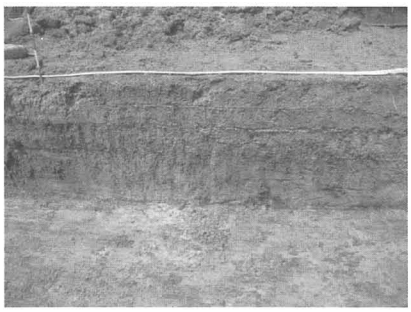


6区3トレンチ土層

7区1トレンチ全景：北東から



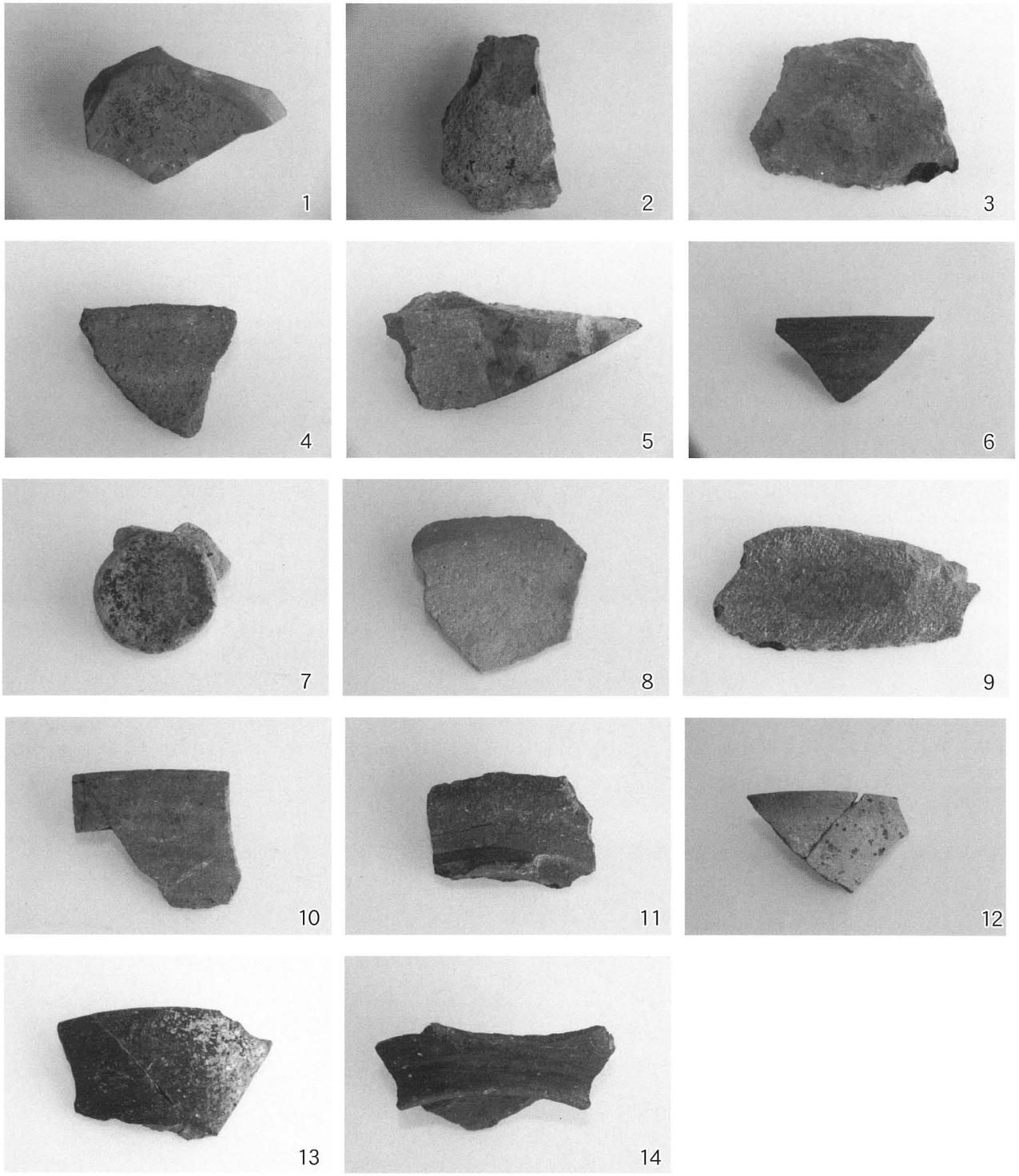
7区1トレンチSD01検出状況



7区1トレンチ土層

7区1トレンチ遺物出土状況

図版5　飯山町東坂元字楠見地区試掘調査（4）



図版6　飯山町東坂元字楠見地区試掘調査(5)

津森町字高丸地区

第Ⅳ章　津森町字高丸地区試掘調査

調査対象地　　丸亀市津森町字高丸１１３４－１
調査期間　　平成２０年７月１５日～７月１６日
調査面積　　約７７㎡（調査対象面積７４７㎡）

１．立地と環境

計画地は、県道多度津・丸亀幹線沿いに位置する。計画地と金倉川に挟まれた地域には、『中の池遺跡（弥生：集落跡）』『道下遺跡（弥生～近世：包含地）』『新田橋本遺跡（弥生・古墳：集落跡）』『今津中原遺跡（古代～中世:集落跡）』などの集落遺跡が広い範囲に分布している。また、東方においても『津森位遺跡（弥生・古代：集落跡）』が接近している。

当該地は『今津中原遺跡』Ⅱ区の南に隣接している。弥生時代後期の灌漑水路や条里方向に合致する中世後半～近世前半頃まで機能していたと考えられる溝が報告されおり、それに続く遺構があるものと考えられる。

第18図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

事業者より平成２０年６月１７日、店舗併用住宅の建設計画に伴い『埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて』の照会文書が提出された。周辺地は県道建設の調査に伴い弥生時代から中世にかけて、比較的安定した集落として土地利用がなされてきた地域であることが知られている。

当該地においても関連する遺跡の分布が予想されることから、試掘調査を実施することとした。７月８日付けで立ち入り申請及び事前踏査を行い、７月１５日から調査を実施した。９月１８日に調査結果を県と協議し、１０月２０日保護措置は不要である旨の回答を行った。

３．調査の概要

計画地は形状が南北に長く不定形である。検討した結果、６本の試掘トレンチを設定して調査を行うことにした。以下、トレンチ毎に概要を報告する。

【１トレンチ】

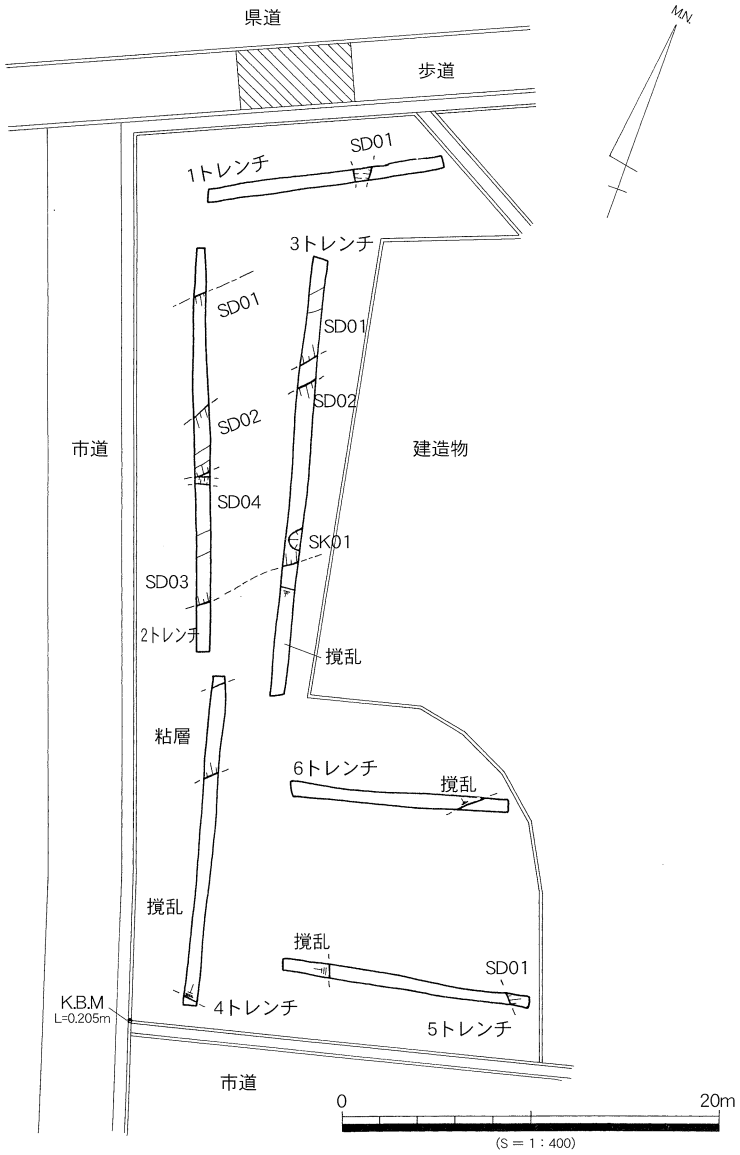
対象地北端に東西軸で設定した。トレンチ中央やや東寄りで浅い溝状落ちを検出した。主軸方向Ｎ－２０°－Ｅ、幅１ｍ深さ１８㎝を測る。トレンチの東、西端は撹乱を受けている。そこから遺物１～７が出土している。１は須恵器甕の頸部である。叩きが残る。２は短い立ち上がりを持つ土釜である。３は１７Ｃ後半の陶器椀である。蛇の目釉剥ぎが見られる。４～７は１８Ｃ代の磁器と思われる。４は見込みに二重丸を持ち梅花文が施されている。５は広東碗である。６は高台端部に砂が付着し、重ね焼きの跡が内面に残る。８は３層から出土した陶器の椀である。

【２トレンチ】

トレンチ南西から北東軸の大きい溝状落ちを２条、東西軸の小溝を１条検出した。これらの溝は微量に遺物を包含するが、状況から旧河道か谷部分への堆積によるものと考えられる。

ＳＤ０１の南半分の下層部からは遺物９～１３が出土した。９は土釜である。口縁内部にハケ目、鍔下部を指オサエで調整する。口縁は外に開き立ち上がって終わる。１０は土鍋の口縁部である。内外にハケ目調

整されススが付着する。１１は土師質土器の坏か椀である。摩滅が著しく詳細は不明である。１２は土師質土器の坏の底部。底部径約６．２㎝のヘラ切りである。１３はヘラ切りの後、貼付け高台を持つ。端部は短く内傾して終わる。SD０３の底には灰色の粘土層が堆積し１１層からは木片と須恵器、土師質土器片が出土した。その他明確な遺構は認められない。出土木片は、分析の結果、７Ｃ末～８Ｃ頃のヤナギ科ヤナギ属であることが報告された。（２８ページ参照）



第19図　トレンチ配置図

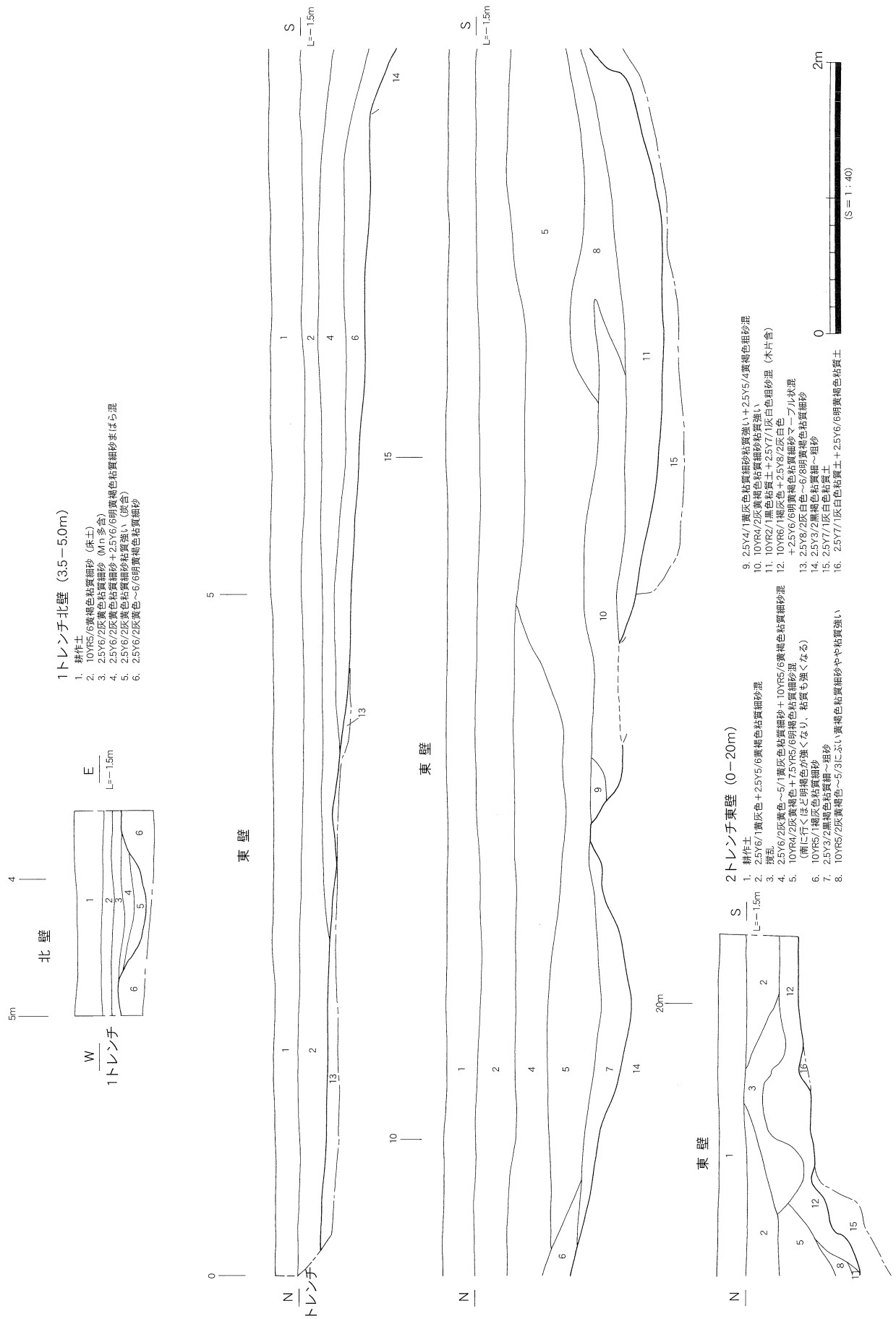
【３トレンチ】
２トレンチの東側に南北軸で設定。２トレンチで検出した溝状落ちの方向を確認するためのトレンチであるので上面検出で止める。延長線上に溝状落ちが認められた。
また、土坑状落ちが１基検出されるが、詳細は不明である。その他の遺構は認められなかった。また、トレンチ南端部付近は撹乱を受けており、旧状を留めていない。

【４トレンチ】
全体が掘削による撹乱を受けている。トレンチ北端部付近で撹乱層の下で粘土層が見られた。

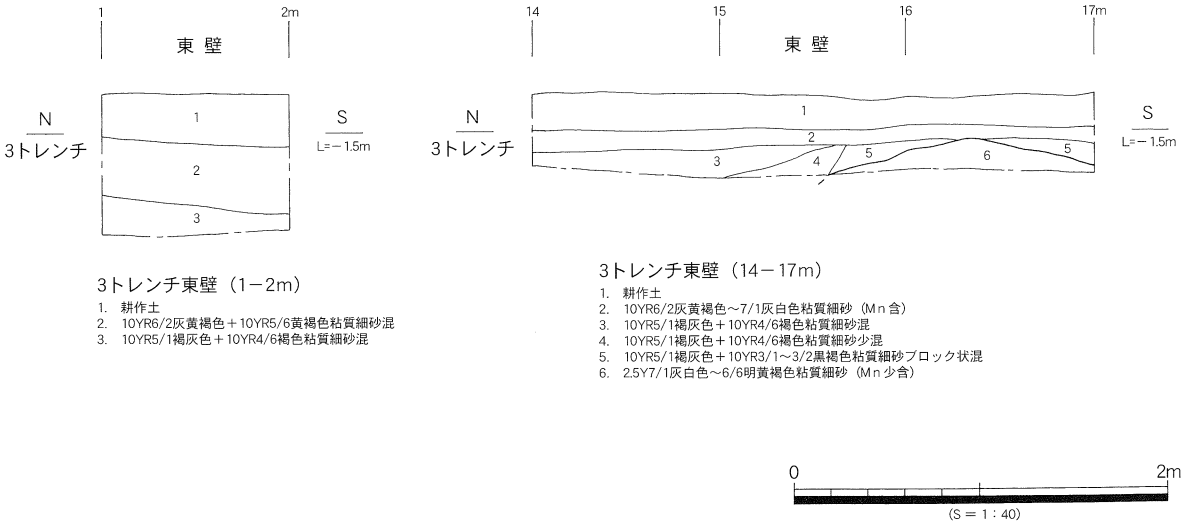
【５トレンチ】
西端付近で撹乱層が認められた。東端部では東に落ちる地形を検出した。溝と思われるが、東肩部分が用地内で検出されないことから詳細は不明である。

【６トレンチ】
トレンチの大半が撹乱を受けており、遺構を確認することはできなかった。

対象地のほぼ中央に南西から北東軸の谷地形が走っていることが確認できた。溝である可能性もあるが、観察した状況によると縁辺に住居等のあった可能性は低い。周辺の状況と併せて考えてみると、以前粘土の採掘が行われていた可能性が高い。



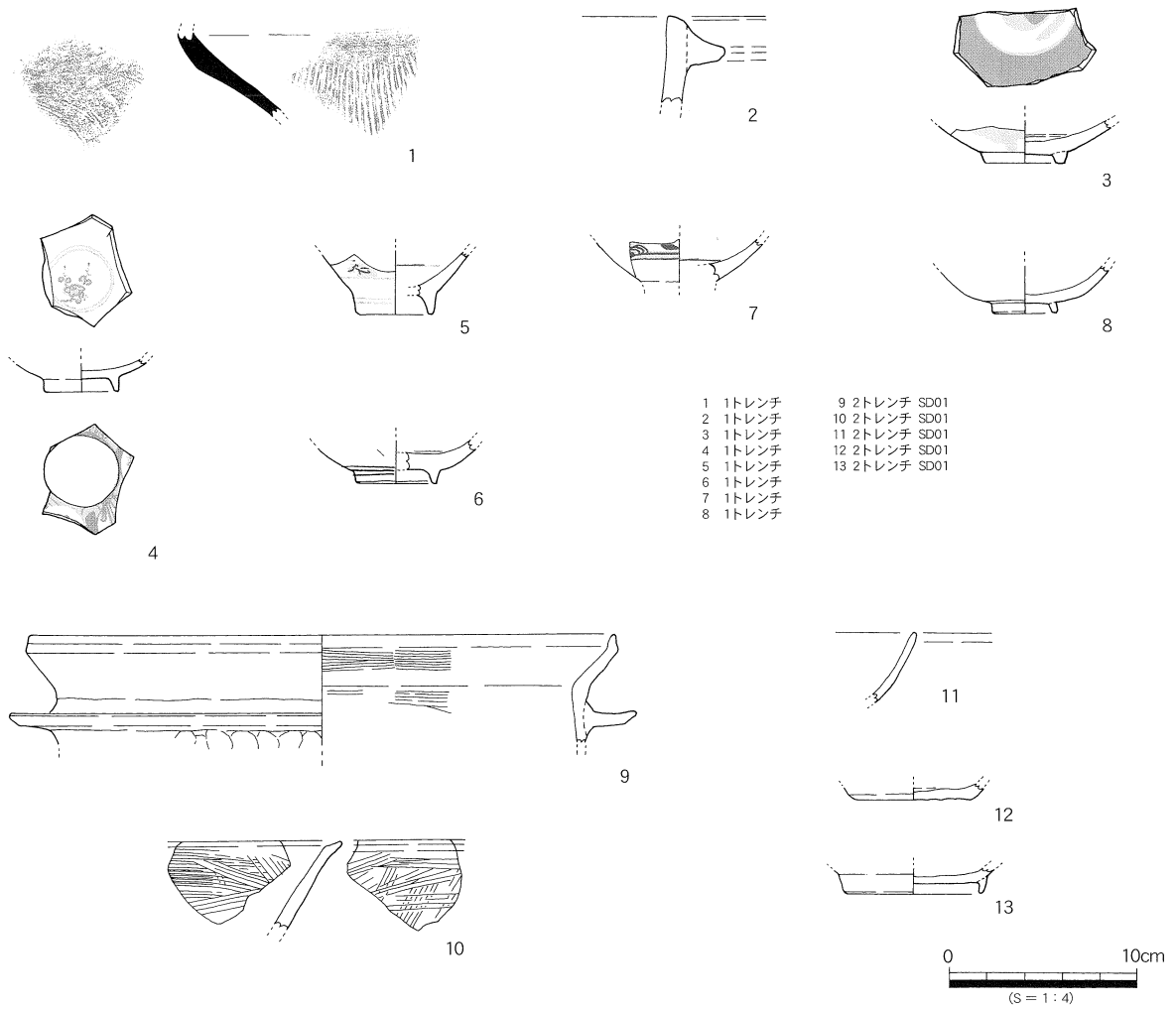
第20図　1・2トレンチ断面図



3トレンチ東壁（1－2m）
1. 耕作土
2. 10YR6/2灰黄褐色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
3. 10YR5/1褐灰色＋10YR4/6褐色粘質細砂混

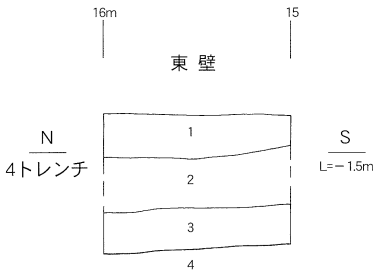
3トレンチ東壁（14－17m）
1. 耕作土
2. 10YR6/2灰黄褐色～7/1灰白色粘質細砂（Mn含）
3. 10YR5/1褐灰色＋10YR4/6褐色粘質細砂混
4. 10YR5/1褐灰色＋10YR4/6褐色粘質細砂少混
5. 10YR5/1褐灰色＋10YR3/1～3/2黒褐色粘質細砂ブロック状混
6. 2.5Y7/1灰白色～6/6明黄褐色粘質細砂（Mn少含）

第21図　3トレンチ断面図

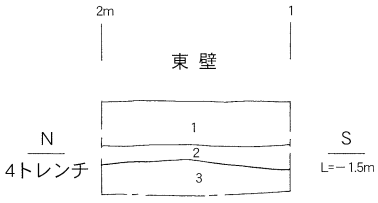


1　1トレンチ
2　1トレンチ
3　1トレンチ
4　1トレンチ
5　1トレンチ
6　1トレンチ
7　1トレンチ
8　1トレンチ
9　2トレンチ　SD01
10　2トレンチ　SD01
11　2トレンチ　SD01
12　2トレンチ　SD01
13　2トレンチ　SD01

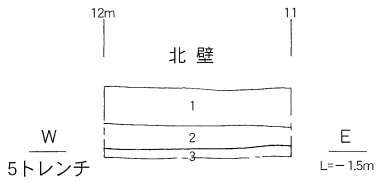
第22図　出土遺物実測図



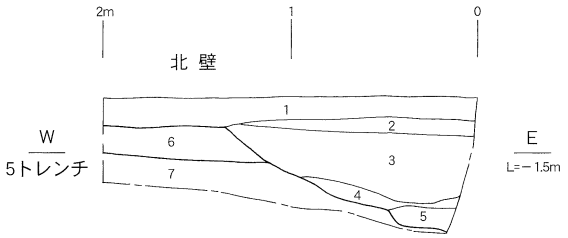
4トレンチ東壁（15－16m）
1. 耕作土
2. 撹乱
3. 10YR5/1褐灰色粘質土
4. 2.5Y8/1灰白色～6/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混



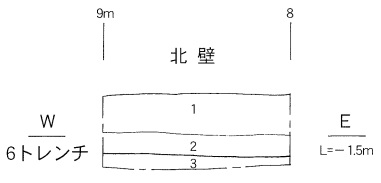
4トレンチ東壁（1－2m）
1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y8/1灰白色～6/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混



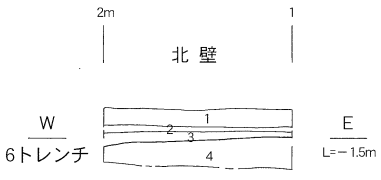
5トレンチ北壁（11－12m）
1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y8/1灰白色～6/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂まばら混



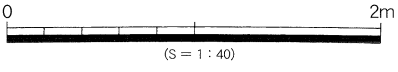
5トレンチ北壁（0－2m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 10YR4/1褐灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
4. 10YR5/2灰黄褐色粘質細砂質強い
5. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂ブロック状混
6. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂まばら混
7. 2.5Y8/1灰白色～6/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混



6トレンチ北壁（8－9m）
1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y8/1灰白色～6/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混



6トレンチ北壁（1－2m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 撹乱
4. 2.5Y8/1灰白色～6/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混



第23図　4～6トレンチ断面図

４．まとめ

今回の調査で、対象地内で溝状落ちの集合部分を検出した。しかし、埋土や遺物の状況などから旧河道か谷地形への流入水によるものと考えられる。遺物の密度も非常に薄いことから、この落ち地形の縁辺には遺跡の展開が考え難い。

対象地の南半部のほとんどが掘削による撹乱をうけていることや、これまでに粘土採掘等による改変が行われてきたことが予想されることから、本来、遺跡の展開していたことを完全に否定できるものではないが、現状においては遺跡として認められる状況は確認できない。よって、今後の保護措置は不要であると考えられる。

調査後、トレンチは埋め戻し原状に復した。

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
１トレンチ	0.7m×12.6m	不明	溝１条	無し
２トレンチ	0.8m×21.5m	不明	溝３条	土師質土器片　須恵器片　木片
３トレンチ	0.9m×23.5m	不明	溝２条　土坑１基	無し
４トレンチ	0.7m×17.8m	不明	無し	無し
５トレンチ	0.7m×13.2m	不明	溝１条	無し
６トレンチ	0.7m×11.5m	不明	無し	無し

第3表　津森町字高丸地区試掘調査　トレンチ概要

5．出土木製品分析結果

㈱吉田生物研究所

放射性炭素年代測定

◎　はじめに

丸亀市津森町字高丸地区より検出された用途不明品 1 点について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

◎　試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表 1　測定試料及び処理

No.	試料データ	前処理
1	試料の種類：木材 試料の性状：不明 状態：wet 備考：用途不明品(大)	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.5N,塩酸:1.2N) サルフィックス

◎　結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.0（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表 2　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

No.	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	14C 年代 (yrBP±1σ)	14C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
1	-28.67±0.28	1238±22	1240±20	693AD(41.2%)748AD 765AD(14.3%)782AD 790AD(12.7%)810AD	688AD(44.8%)754AD 760AD(50.6%)870AD

◎　考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

樹種調査 結果

○　試料

試料は丸亀市市内遺跡津森町字高丸地区から出土した用途不明品 1 点である。

○　観察方法

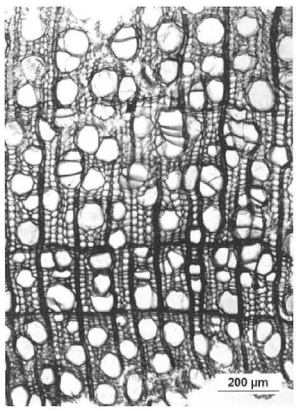
剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

○　結果

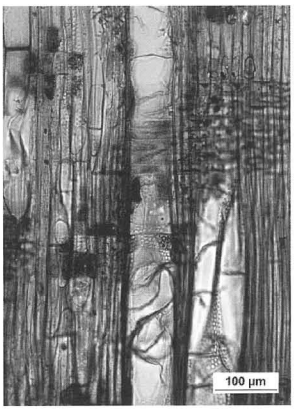
樹種同定結果（広葉樹 1 種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

1）ヤナギ科ヤナギ属（*Salix* sp.）（遺物 No. 1）（写真 No. 1）

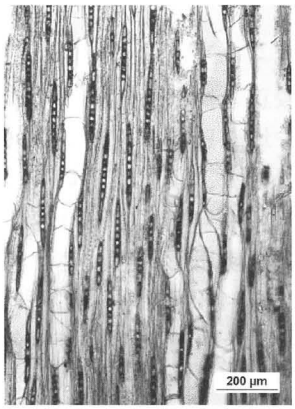
散孔材である。木口では中庸ないしやや小さい道管（～110μm）が単独または 2～4 個放射方向ないし斜線方向に複合して分布する。軸方向柔組織は年輪界で顕著。柾目では道管は単穿孔と交互壁孔を有する。放射組織は直立と平伏細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔はやや大きく、篩状になっている。板目では放射組織はすべて単列、高さ～450μm であった。ヤナギ属はバッコヤナギ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。



木口



柾目



板目

調査前風景：北から

調査風景

1トレンチ全景：西から

1トレンチ土層（SD01）

2トレンチ全景：南から

2トレンチ溝遺構

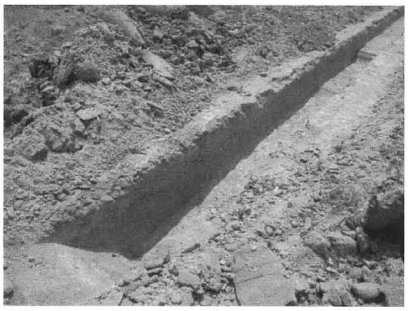
2トレンチ木片出土状況

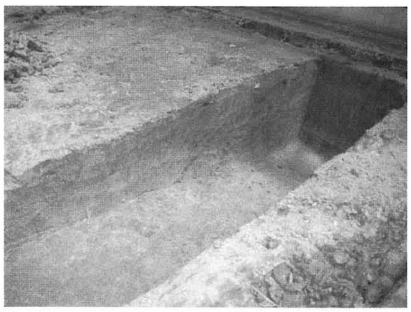
3トレンチ全景：南から

3トレンチ溝状落ち検出状況

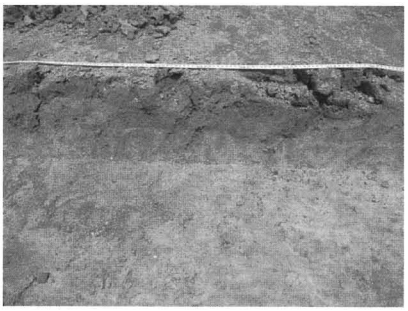
4トレンチ全景：北から

4トレンチ撹乱状況

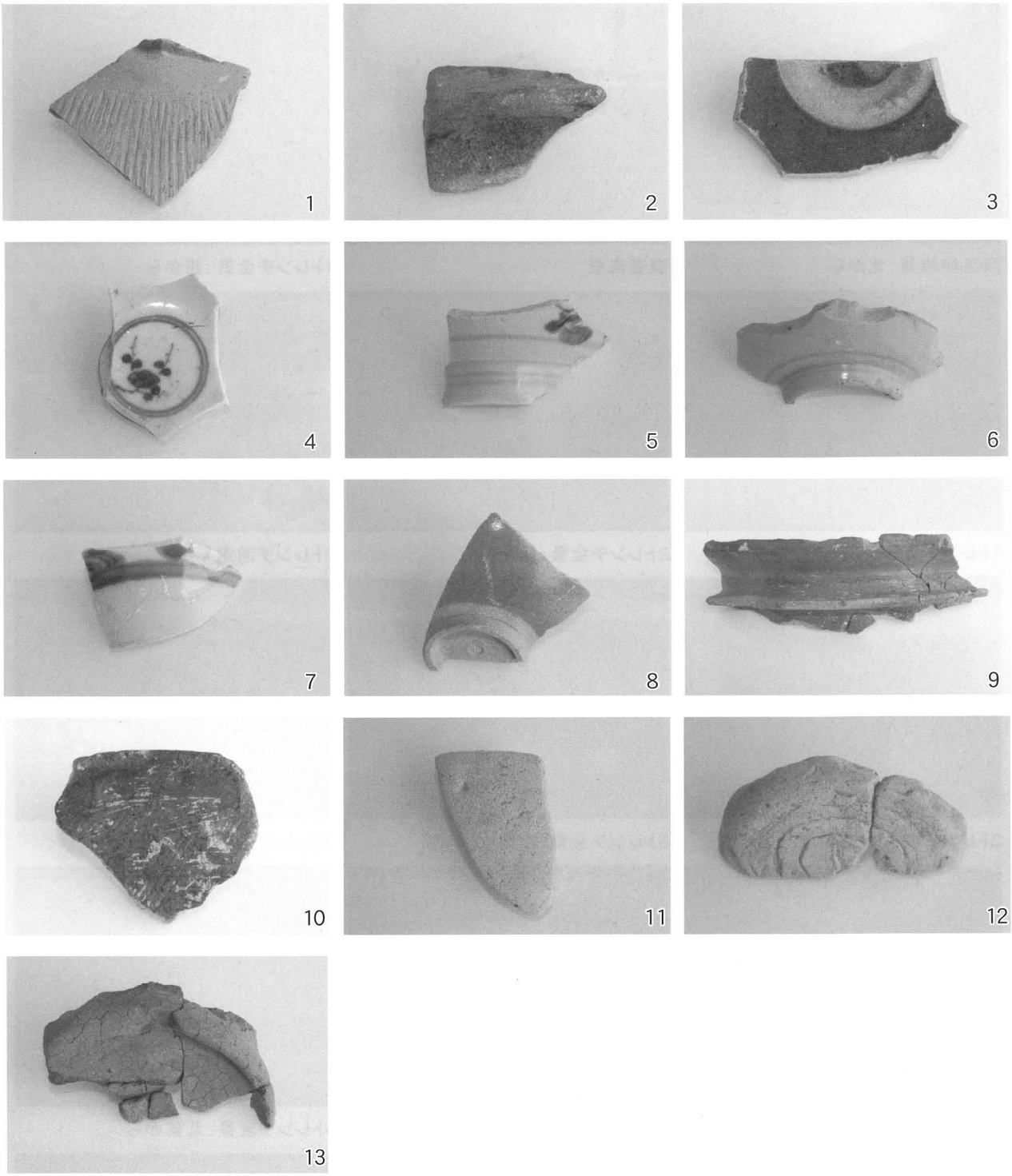

5トレンチ全景：北東から


5トレンチSD01確認状況

6トレンチ全景：南西から


6トレンチ撹乱状況

図版7　津森町字高丸地区試掘調査（1）



図版8　津森町字高丸地区試掘調査（2）

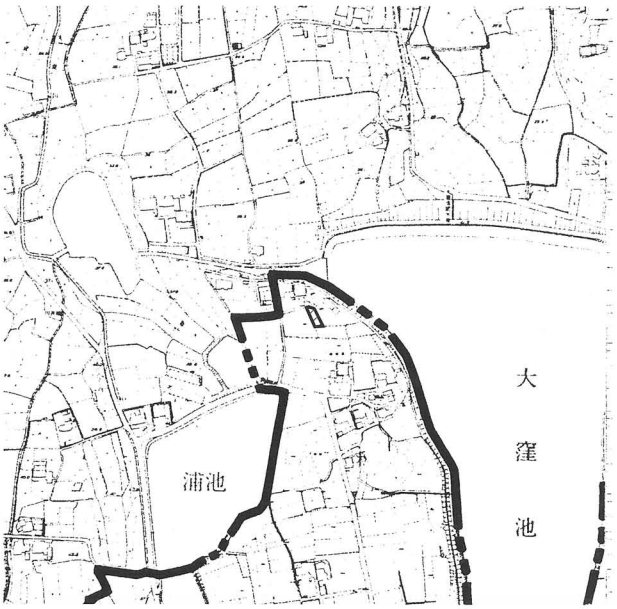
綾歌町岡田西字新田地区

第Ⅴ章　綾歌町岡田西字新田地区試掘調査

調査対象地　　綾歌町岡田西字新田１１－１
調査期間　　平成２０年８月６日～８月７日
調査面積　　約６３㎡（調査対象面積９５９㎡）

１．立地と環境

計画地は、丸亀平野の南部にある岡田台地の北端付近に位置する。計画地の東側の大窪池内は『大窪池遺跡（旧石器：包含地）』が所在し、その下流域には『東原遺跡（弥生～中世：集落跡）』が所在する。また、計画地の西側には、『上川井遺跡（古墳～中世：集落跡）』が所在している。更に、計画地から南西部一帯にかけて『岡田万塚（古墳：古墳）』が知られており、現在においても数基の古墳が所在している。



第24図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

個人住宅建設に伴い、平成２０年７月１８日に埋蔵文化財の所在の有無に関しての照会文書が提出された。該当地周辺は様々な時代の遺跡が集中している地域であり、計画地においても何らかの関連する遺構の展開が考えられることから事前の分布確認調査を実施することとした。

８月６日より重機掘削によるトレンチ調査を行った。

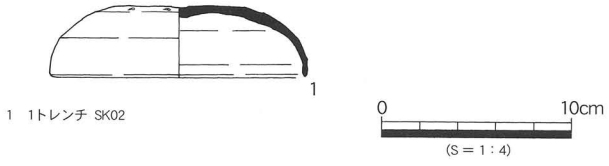
１０月２３日、県と試掘調査の詳細報告及び今後の取り扱いの協議を行い、遺構は確認できるがほとんど破壊されていることが確認できたことにより今後の保護措置は不要であることを事業者に回答した。

３．調査の概要

調査対象地は、大窪池と溜池にはさまれた不定形の田畑である。ほぼ中央に十字トレンチを設定後、遺構確認のために３・４トレンチを設定した。以下、トレンチ毎に概要を報告する。

【１トレンチ】

耕作土の下層には、近年の整地による盛土が成されており、その厚さは 50 ㎝を測る。更に、その下層には薄く整地層が見られる。トレンチ東端付近で土坑状の落ちを２箇所検出した。SK０１からは、土師質土器片が出土、SK０２からは遺物１、須恵器坏蓋などが出土した。口径約１３．６㎝、高さ３．８㎝を測る。６C 中～後期と考えられる。



1　1トレンチ SK02

第25図　出土遺物実測図

【２トレンチ】

南北軸で設定した。土層序は、１トレンチ同様であるが遺構、遺物共に認められない。

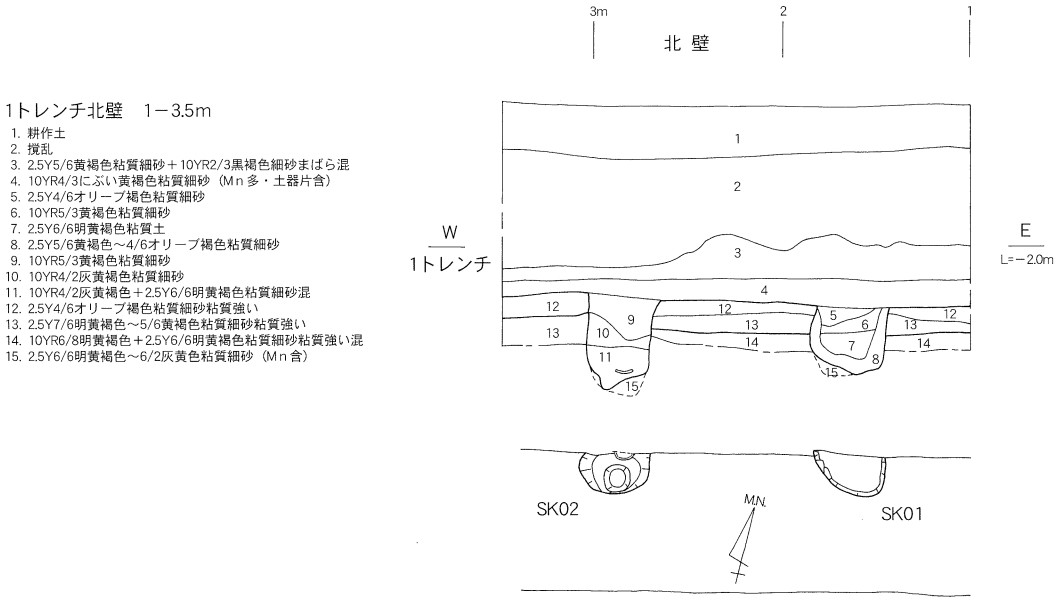
【３トレンチ】

１トレンチで検出した土坑付近の確認をするために、１トレンチの南側に東西軸で設定した。ほとんどが撹乱を受けており、遺構の確認はできない。撹乱土中で須恵器片を数点採取した。

【４トレンチ】

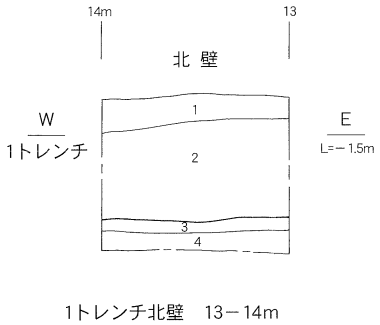
同じく確認のために、１トレンチの北側に東西軸で設定した。１トレンチの土坑と対応するかのように２基の土坑状の落ちを検出した。埋土には土師質土器片が包含される。トレンチ北端から北側には撹乱が見られる。

第26図　トレンチ配置図



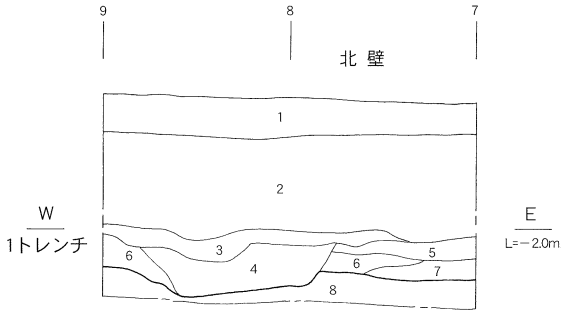
1トレンチ北壁　1－3.5m

1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y5/6黄褐色粘質細砂＋10YR2/3黒褐色細砂まばら混
4. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質細砂（Mn多・土器片含）
5. 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂
6. 10YR5/3黄褐色粘質細砂
7. 2.5Y6/6明黄褐色粘質土
8. 2.5Y5/6黄褐色～4/6オリーブ褐色粘質細砂
9. 10YR5/3黄褐色粘質細砂
10. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂
11. 10YR4/2灰黄褐色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混
12. 2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂粘質強い
13. 2.5Y7/6明黄褐色～5/6黄褐色粘質細砂粘質強い
14. 10YR6/8明黄褐色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂粘質強い混
15. 2.5Y6/6明黄褐色～6/2灰黄色粘質細砂（Mn含）



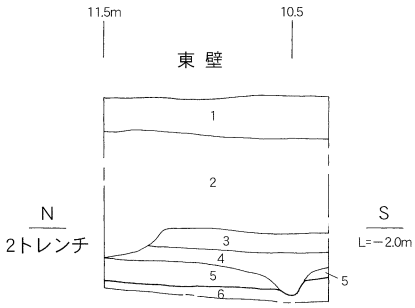
1トレンチ北壁　13－14m

1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y7/3浅黄色＋10YR6/6明黄褐色粘質土（Mn多含）
4. 2.5Y7/3浅黄色＋10YR6/6明黄褐色粘質土



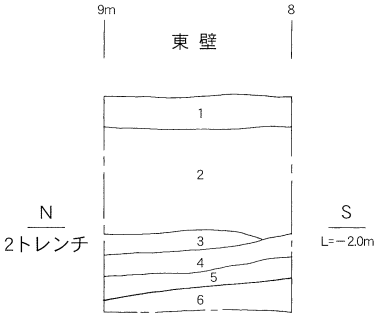
1トレンチ北壁　7－9m

1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y6/6黄褐色粘質細砂＋10YR2/3黒褐色細砂まばら混（Mn多含）
4. 2.5Y6/8明黄褐色～7/2灰黄色粘質細砂（Mn多含）
5. 10YR4/3にぶい黄褐色＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂混（Mn多含）
6. 10YR7/6明黄褐色粘質細砂
7. 10YR7/6明黄褐色～7/8黄橙色粘質細砂（Mn少含）
8. 10YR7/6明黄褐色粘質細砂＋7.5Y8/1灰白色粘質土
＋7.5Y7/6橙色粘質細砂ブロック状に混



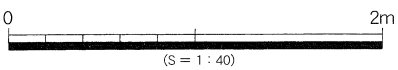
2トレンチ東壁　10.5－11.5m

1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y6/8明黄褐色～7/2灰黄色粘質細砂（Mn多含）
4. 10YR4/3にぶい黄褐色＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂混（Mn多含）
5. 10YR7/6明黄褐色粘質細砂
6. 10YR7/6明黄褐色～7/8黄橙色粘質細砂（Mn少含）

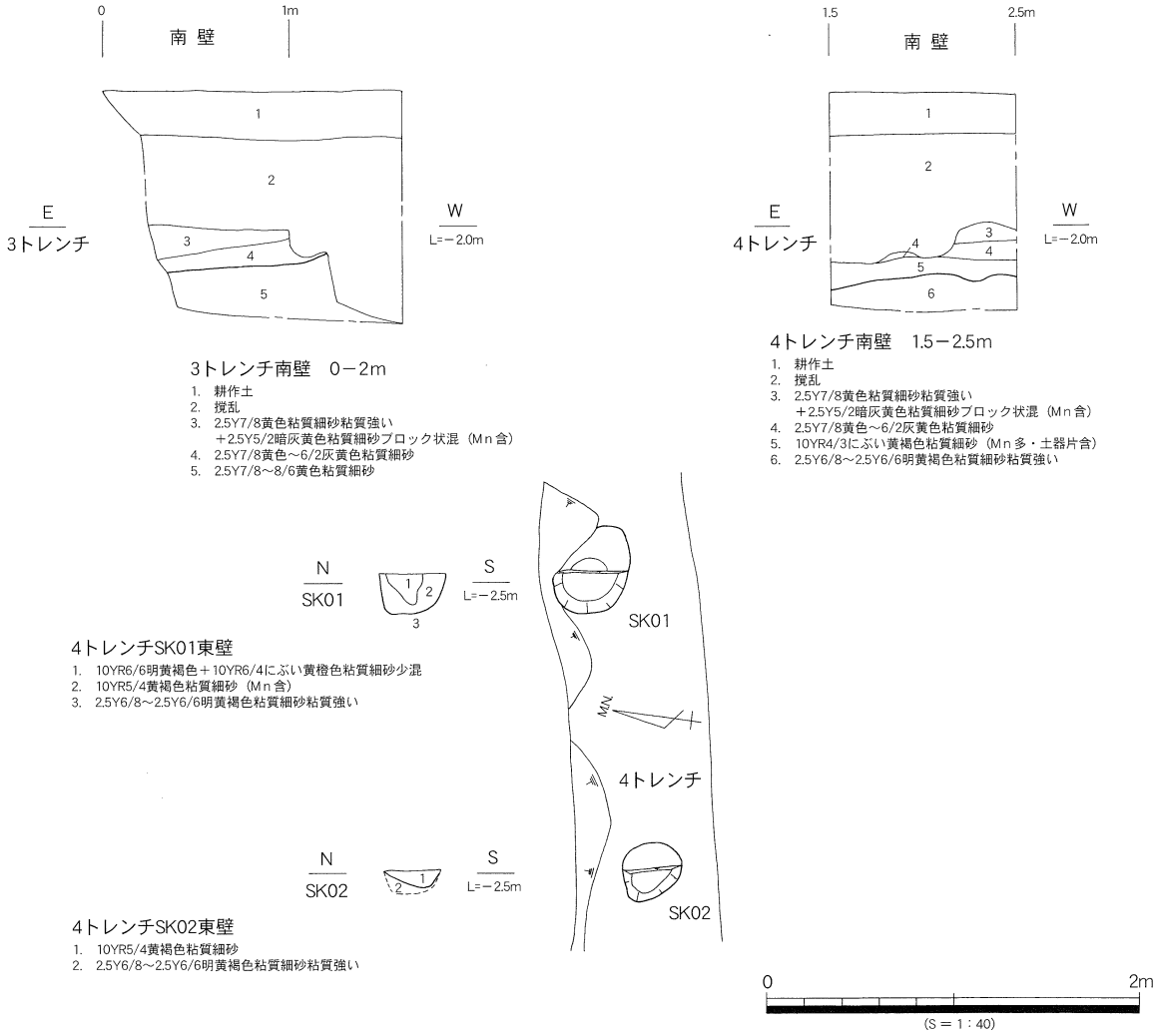


2トレンチ東壁　8－9m

1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y6/8明黄褐色～7/2灰黄色粘質細砂（Mn多含）
4. 10YR4/3にぶい黄褐色＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂混（Mn多含）
5. 10YR7/6明黄褐色粘質細砂
6. 10YR7/6明黄褐色～7/8黄橙色粘質細砂（Mn少含）



第27図　1・2トレンチ平面・断面図



第28図　3・4トレンチ平面・断面図

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	1.4m×15.9m	不明	土坑2基	土師質土器片、須恵器片
2トレンチ	1.5m×18.7m	不明	無し	無し
3トレンチ	1.3m×4.7m	不明	無し	須恵器片
4トレンチ	1.3m×4.9m	不明	土坑2基	土師質土器片

第4表　綾歌町岡田西字新田地区試掘調査　トレンチ概要

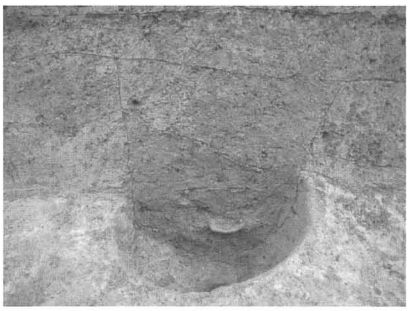
4．まとめ

今回の調査で、計画地内には土器片を包含する土坑状の落ちは数箇所で見られるが連続性が見られず、詳細を掴むことはできなかった。後世の改変を相当受けていることも明らかであり、現状から以前の状況を掴み取れるだけの資料は残存していないものと考えられる。これらのことから検討すると、遺構の分布は見られるものの非常に希薄であることから今回の調査記録をすることで今後の保護措置は不要であるとの結論に至った。

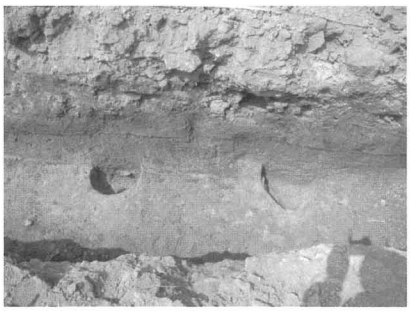
調査区全景：西から

調査風景

1トレンチ全景：東から


1トレンチSK01完掘状況

1トレンチSK02完掘状況


1トレンチ土層

2トレンチ全景：南から

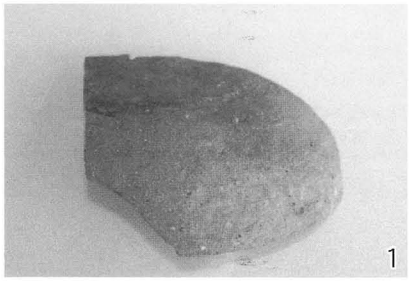
2トレンチ土層

3トレンチ全景：東から

3トレンチ土層

4トレンチ全景：東から

4トレンチ土層



図版9　綾歌町岡田西字新田地区試掘調査

綾歌町栗熊西字大妻田地区

第Ⅵ章　綾歌町栗熊西字大妻田地区試掘調査

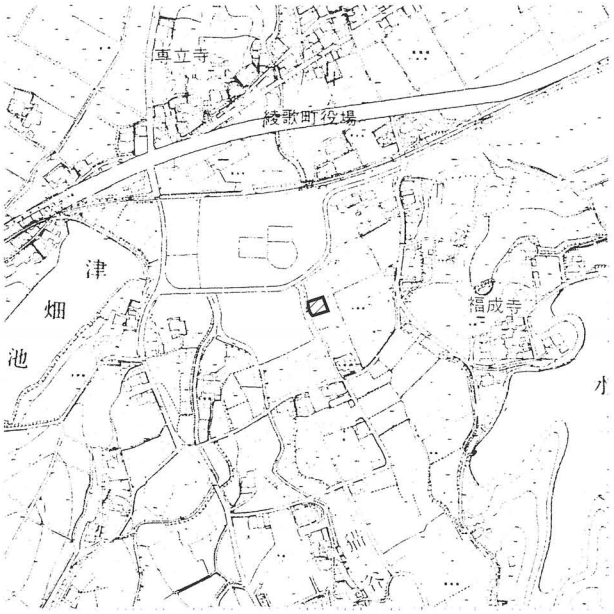
調査対象地　　綾歌町栗熊西字大妻田１６８６－３
調査期間　　平成２０年９月１６日
調査面積　　約２４㎡（調査対象面積３２０㎡）

１．立地と環境

計画地は、丸亀市の南東部に位置し、西側には東大束川が流れる。北には『佐古川遺跡（縄文～中世：集落跡）』が存在し、東には『石塚山古墳群（弥生～古墳：墳墓）』が所在するなど弥生時代から古墳時代にかけて特に栄えていた地域であることが分かっている。

また、横山山系の南に延びた丘陵の先端部には、古くから存在を知られている『快天山古墳（古墳：古墳）』が築かれており、付近に強大な勢力が存在していたことを示している。

これらのことからも、当該地付近は弥生時代から古墳時代にかけての拠点地域として栄えていたことが考えられる。



第29図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

個人住宅建設に伴い、事業者より７月２３日付けで埋蔵文化財の有無に関する照会が提出された。当該地は『行末遺跡』『行末西遺跡』に関連する遺跡の分布が予想されることから、確認調査を実施することとした。

８月４日に事前踏査を行い、調査は９月１６日に行った。調査後、トレンチは埋め戻し原状に復した。結果遺構の分布は見られるものの非常に希薄であることから今回の調査記録をすることで今後の保護措置は不要であると考えられる旨を、１１月２１日に事業者に回答を行った。

３．調査の概要

対象地内に３箇所のトレンチを設定して調査を行った。以下、トレンチ毎に概要を報告する。

【１トレンチ】

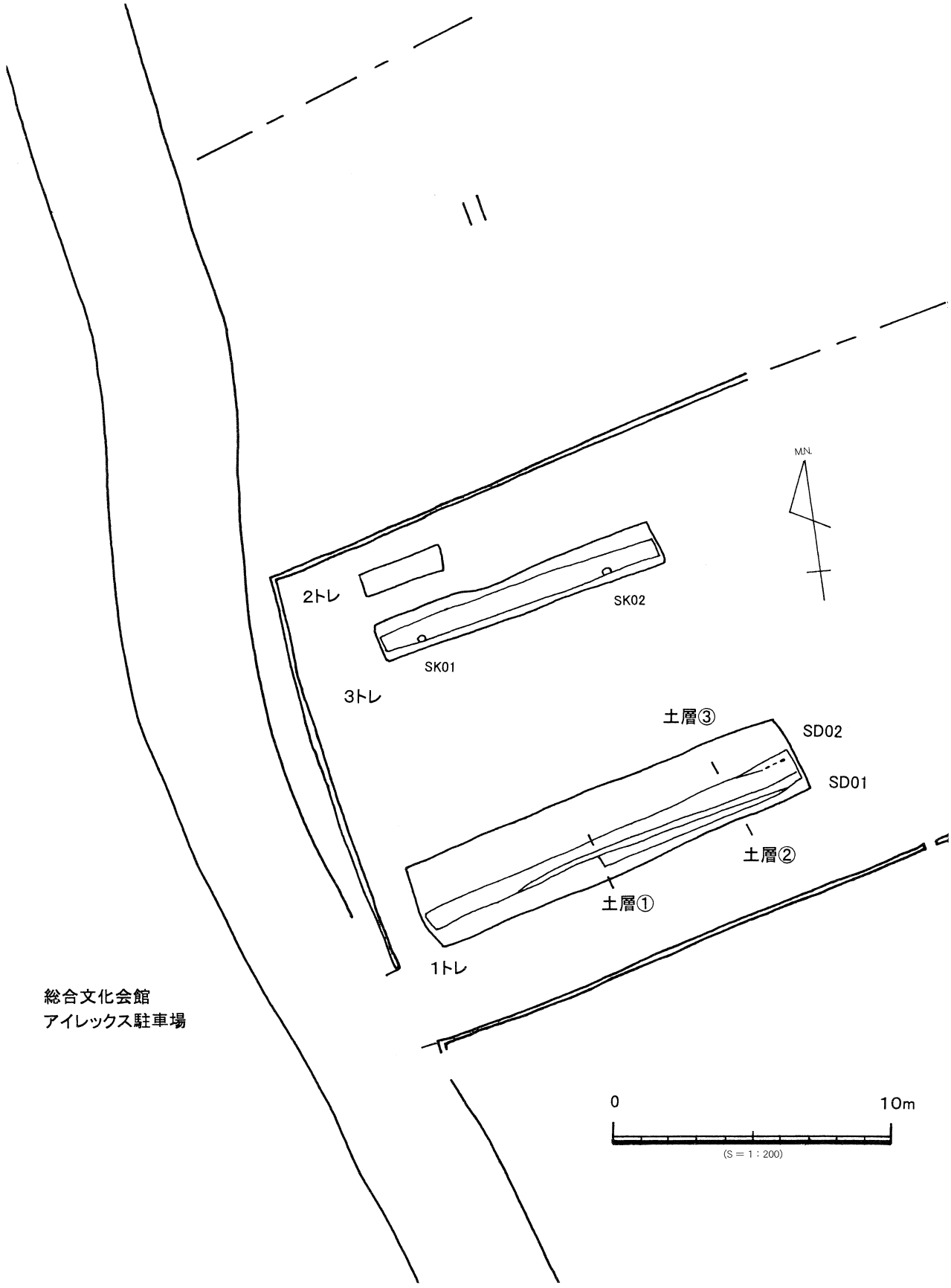
トレンチと並行する２条の溝を検出する。規模は、幅25㎝、深さ５㎝で鍬溝であると思われる。時代については遺物を含んでおらず、不明であるが、付近の遺跡のデータから中世以降である可能性が高い。

土層序は、上層が黄褐色系の粘質細砂で弥生土器片や須恵器片を包含することから古墳時代以降の整地土であると考えられる。その下層には灰褐色系の粘質細砂～粗砂の堆積が見られる。この層でも弥生土器の包含が見られる。微量であるが須恵器片も含まれることから古墳時代以降の堆積であると考えられる。

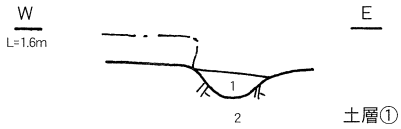
遺物１は弥生土器の鉢の口縁である。２は須恵器壷の口縁と思われるが不明である。波状文の調整が施され、内外に自然釉が付着する。３、４は弥生土器の壷である。３は弥生中期の複合口縁片で刺突文による鋸歯文が施されている。５～７は弥生土器の鉢である。８～９は弥生土器の壷である。８は壷の頸部は短く立ち上がる。１０は高坏の脚部で厚みは薄く外に広がり後期の所産と考えられる。１１～１２は甕である。１２は体部に叩き後ハケ目調整が見られる。１３、１４は底部である。１３はやや丸底を呈するが１４は平底である

【２トレンチ】

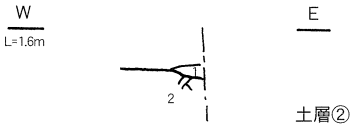
土層序は、１トレンチと同様である。土層中に土器細片が見られるが、取り上げるほどのものではない。



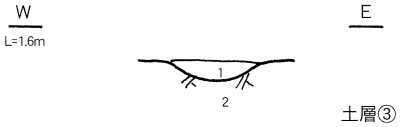
第30図　トレンチ配置図



土層①

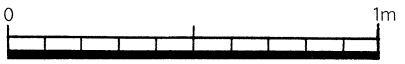


土層②

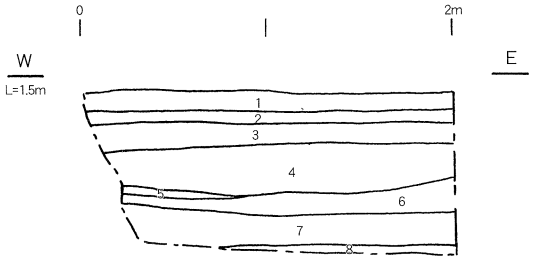


土層③

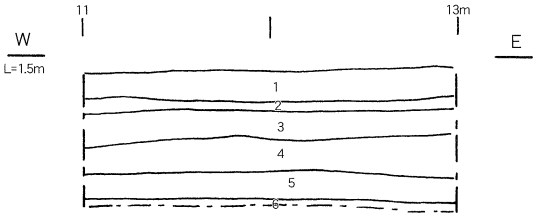
土層①～③
1. 2.5Y4/3～4/4オリーブ褐色粘質粗砂～細砂
2. 10YR4/6褐色～6/6明黄褐色粘質細砂（小石混じり）



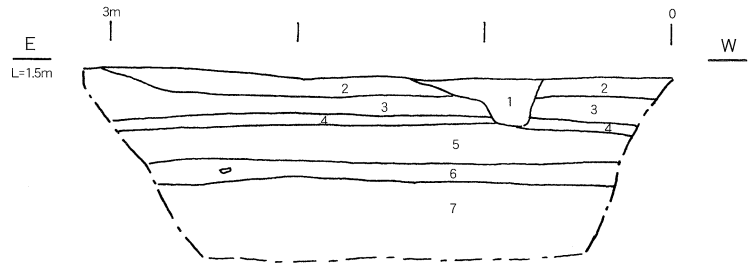
(S＝1：20)



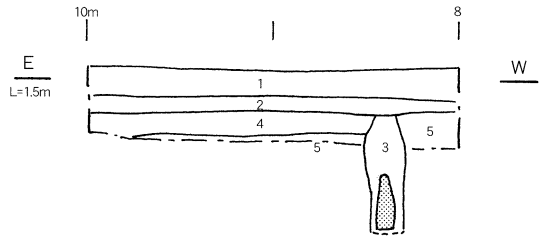
1トレンチ0－2m
1. 2.5Y5/4黄褐色＋10YR4/6褐色粘質細砂
2. 10YR4/6褐色～6/6明黄褐色粘質細砂（小石混じり）
3. 2.5Y5/2暗灰黄色～3/2黒褐色細～粗砂（小石多く混じる）
4. 2.5Y4/1黄灰色粗砂＋2.5Y3/1黒褐粘質土ブロック混じり
5. 2.5Y5/3黄褐色～5/4黄褐色極細砂
6. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土
7. 2.5Y3/1黒褐色～2/1黒色粘質土＋2.5Y4/2暗灰黄色粗砂（小石多く含む）スジ状混じる
8. 2.5Y3/1黒褐色～2/1黒色粘質土＋2.5Y7/2灰黄色粘質細砂混じり



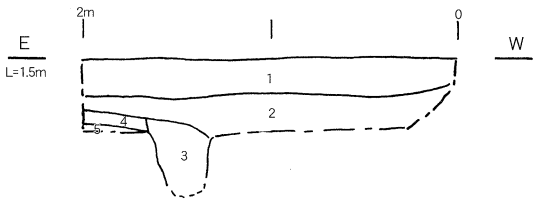
1トレンチ11－13m
1. 2.5Y5/4黄褐色＋10YR4/6褐色粘質細砂
2. 10YR4/6褐色～6/6明黄褐色粘質細砂（小石混じり）
3. 2.5Y4/1黄灰色粗砂＋2.5Y3/1黒褐色粘質土ブロック混じり
4. 2.5Y4/2暗灰黄色粗砂
5. 2.5Y3/1黒褐色～2/1黒色粘質土＋2.5Y4/2暗灰黄色粗砂（小石多く含む）スジ状混じる
6. N3/0暗灰色粘質土



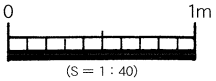
2トレンチ
1. 撹乱
2. 2.5YR4/6オリーブ褐色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂（小石混じり）
3. 2.5Y5/2黄灰色＋5/6黄褐色粘質細砂（小石混じり）
4. 10YR4/6褐色～6/1褐灰粘質細砂（小石混じり）
5. 2.5Y5/3黄褐色～4/4褐色粘質細砂（小石混じり）
6. 2.5Y3/1黒褐色＋3/3暗オリーブ褐色粘質粗砂混じり
7. 2.5Y4/3～4/4オリーブ褐色粗砂



3トレンチ8－10m
1. 耕作土
2. 2.5Y5/4黄褐色～10YR4/6褐色粘質細砂
3. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/6黄褐色粘質細砂（SK02）
4. 10Y4/6褐色～6/6明黄褐粘質細砂
5. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂

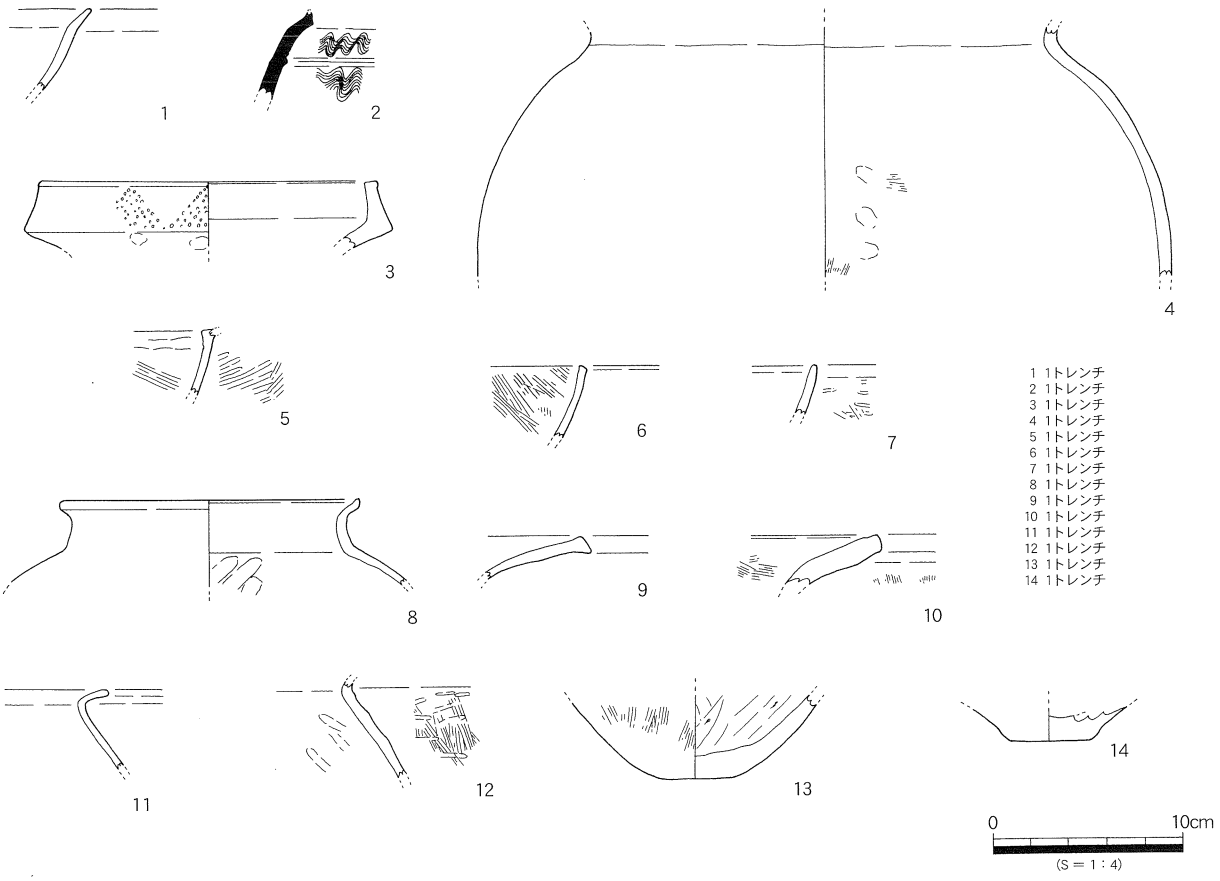


3トレンチ0－2m
1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/6黄褐色粘質細砂（SK01）
4. 10YR4/6褐色～6/6明黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂



(S＝1：40)

第31図　1～3トレンチ断面図



第32図　出土遺物実測図

【３トレンチ】

深く掘り下げることはせず、１トレンチで検出した溝と関連するものの有無を確認する。東西両端付近で土坑状の落ち（SK０１・SK０２）を検出した。埋土は１トレンチの溝よりはやや暗く、時期差のあることが考えられる。また、SK０２からは柱根と考えられる木材が出土した。長さ３３㎝　直径１２．３㎝を測り、下面の先端部を加工していることから自然木ではないことが分かる。分析を行った結果、マツ科マツ属の木材であり、１９Ｃ代の年代が報告された。（４２ページ参照）

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
Ｉトレンチ	0.7～1.2m×14.2m	不明	溝２条	弥生土器片、須恵器片
２トレンチ	0.8m×2.9m	不明	無し	無し
３トレンチ	0.7m×10.3m	不明	土坑２基	土師質土器片、柱根

第5表　綾歌町栗熊西字大妻田地区試掘調査　トレンチ概要

調査の結果、対象地には弥生土器片や須恵器片を包含する土層が所在するが、複数時期の土器片が同一層から出土することや対応する遺構の検出がないこと、堆積土層の状況から旧河道等への堆積中のものと思われる。

耕作土の下層付近で２基の土坑を検出したが、詳細は掴めておらず１基からは柱根と考えられる木材が出土した。

４．まとめ

今回の調査で、計画地内には土器片を包含する層の堆積があること及び僅かながら遺構の分布が認められた。遺物を包含する層は、旧河道の氾濫による堆積土及び整地土であることが推測できる。その下層から遺構は検出されていない。上層から溝及び土坑が検出されるが資料不足により詳細までは掴めていない。

これらのことから検討すると、遺構の分布は見られるものの非常に希薄であることから今回の調査記録をすることで今後の保護措置は不要であると考えられる。

5．出土木製品分析結果

㈱吉田生物研究所

放射性炭素年代測定

◎　はじめに

丸亀市綾歌町栗熊東字大妻田地区より検出された建築部材 1 点について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。

◎　試料と方法

測定試料の情報、調製データは表 1 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

表 1　測定試料及び処理

No.	試料データ	前処理
1	試料の種類：木材 試料の性状：不明 状態：wet 備考：柱根	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N) サルフィックス

◎　結果

表 2 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}C の半減期 5730±40 年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.0（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表２　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

No.	δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
1	-28.70±0.14	131±19	130±20	1683AD(11.1%)1698AD 1723AD(7.9%)1736AD 1805AD(7.1%)1816AD 1834AD(30.1%)1879AD 1916AD(12.1%)1934AD	1680AD(33.2%)1764AD 1800AD(46.5%)1892AD 1908AD(15.7%)1940AD

◎　考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

樹種調査結果

○　試料

試料は丸亀市市内遺跡綾歌町栗熊東字大妻田地区から出土した建築部材１点である。

○　観察方法

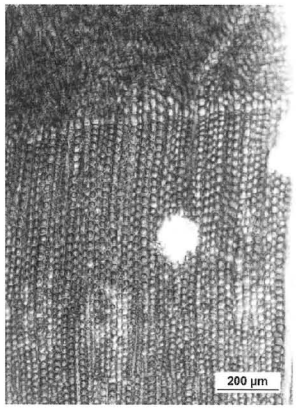
剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

○　結果

樹種同定結果（針葉樹１種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

１）マツ科マツ属[二葉松類]（*Pinus* sp.）（遺物 No. 1）（写真 No. 1）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が　　細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で 1～15 細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属[二葉松類]はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。



木口

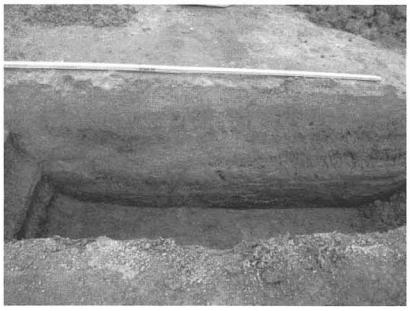
柾目

板目

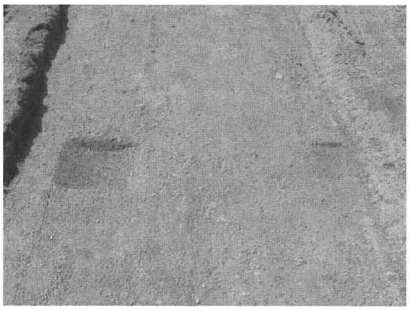
調査前風景：南東から

調査風景

1トレンチ全景：西から

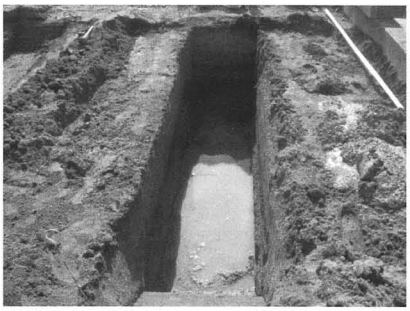

1トレンチ土層

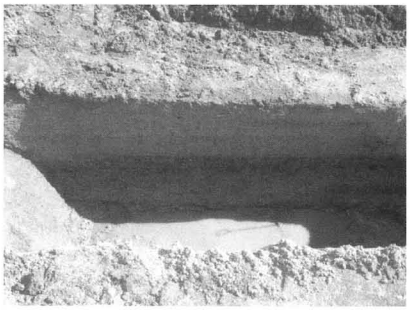
1トレンチ溝検出状況


1トレンチ溝断ち割り状況

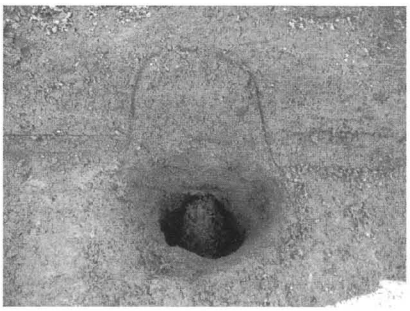
1トレンチ全景（深掘り後）：西から

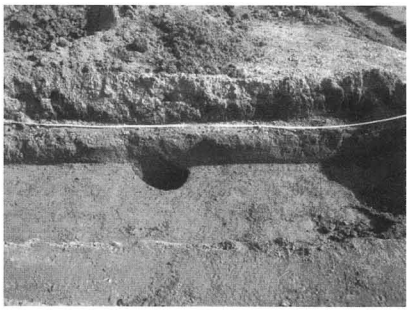
1トレンチ土層

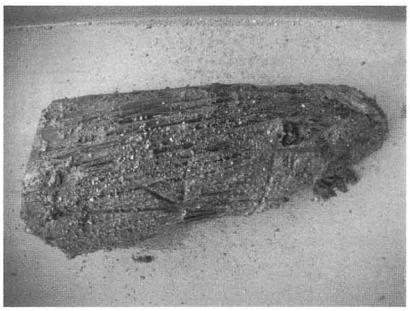

2トレンチ全景：東から


2トレンチ土層

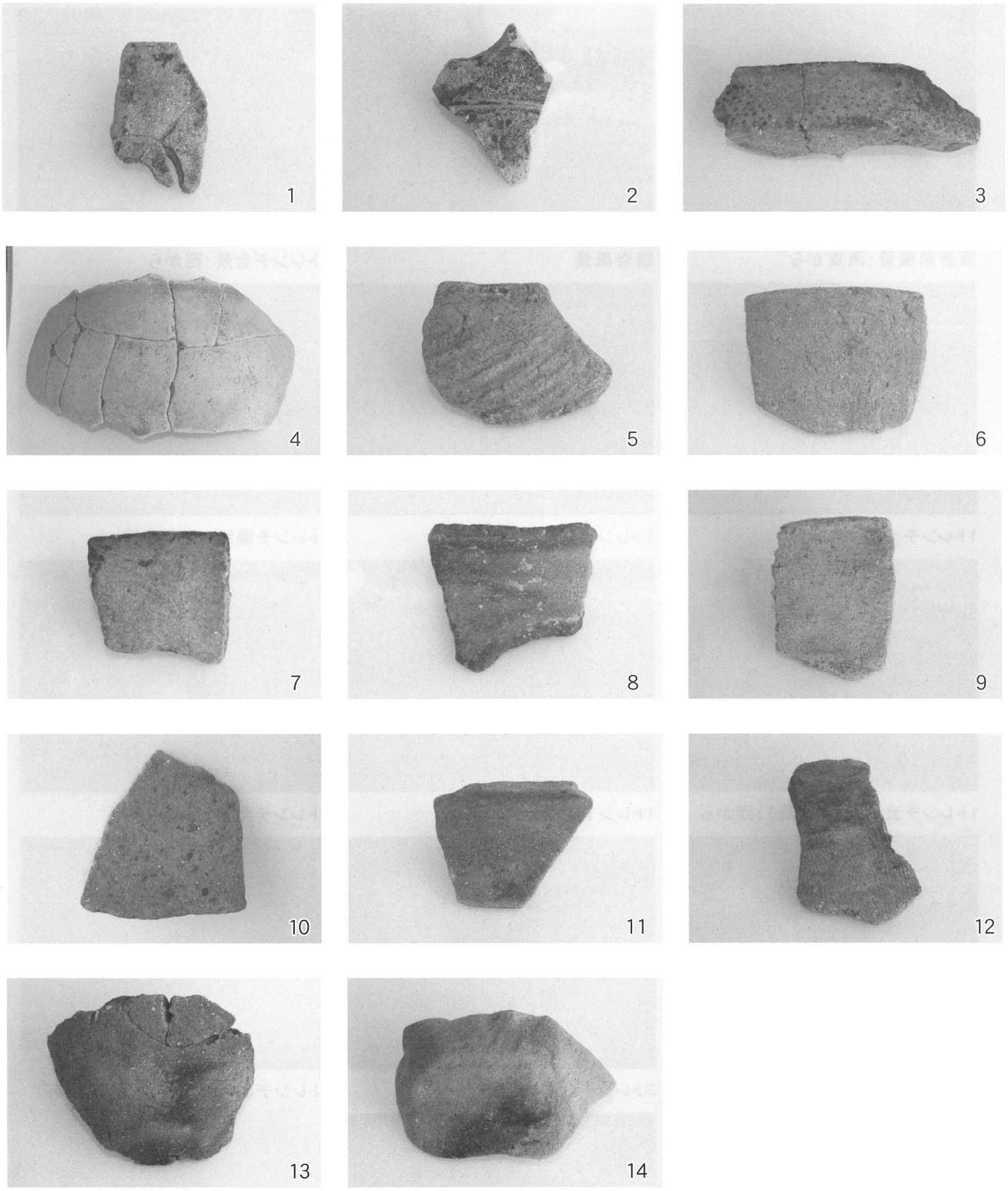
3トレンチ全景：北西から


3トレンチSK02完掘状況（柱根有）


3トレンチ土層


3トレンチSK02出土柱根

図版10　綾歌町栗熊西字大妻田地区試掘調査（1）



図版11　綾歌町栗熊西字大妻田地区試掘調査(2)

綾歌町栗熊東字下河西地区

第Ⅶ章　　綾歌町栗熊東字下河西地区試掘調査

調査対象地　　綾歌町栗熊東字下河西６２－１、６２－２、６３
調査期間　　平成２０年９月２４日～９月２５日
調査面積　　約１１５㎡（調査対象地面積　３２４３㎡）

１．立地と環境

当該地は、丸亀市の南東部にあり、南の猫山から派生する尾根先端付近の微高地東裾に位置する。西の微高地には『行末西遺跡（弥生・古墳：集落跡）』が所在する。また、南の小丘陵上には『行末遺跡（弥生：集落跡）』が所在するなど弥生時代から古墳時代にかけて特に栄えていた地域であることが分かっている。

第33図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

店舗建設に伴い、事業者より平成２０年８月１３日付けで埋蔵文化財の有無に関しての照会がなされた。周辺には弥生時代を中心とする遺跡の存在が知られており、当該地においても関連する遺跡の分布が予想されることから、試掘調査を実施することとした。９月９日に立ち入り申請がなされ、９月２４日～２５日にかけて調査を行った。調査終了後トレンチは埋め戻し現状に戻した。

今回の調査で、計画地内には遺構の分布は見られないことが明らかになったため、１０月２０日に保護措置は不要である旨の回答を行った。

３．調査の概要

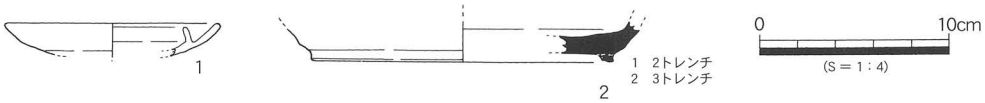
計画地は、現況として２枚の水田であったことから、そのそれぞれを調査区として調査を実施した。それぞれの調査区に３本ずつ試掘トレンチを設定して調査を行った。以下、トレントごとに概要を報告する。

【１トレンチ】

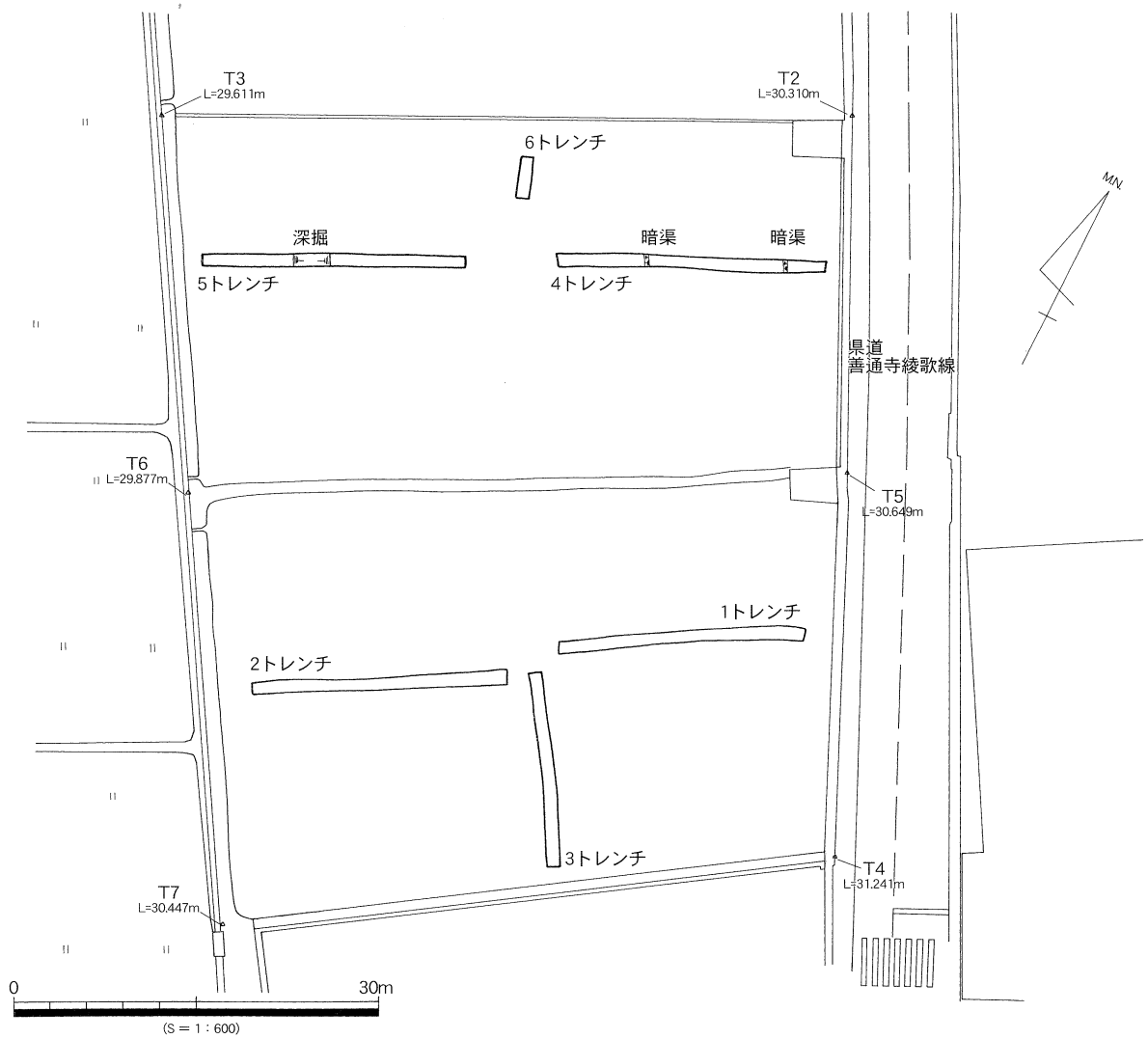
南の水田中央東半部に東西軸で設定。耕作土の下層には、灰黄色系の粘質細砂が堆積する。その下層に灰褐色系の粘土層及び灰色の砂層が堆積する。各層の堆積状況から旧流域であったことが予想される。堆積の傾斜は僅かであるが東に下っていることから、西の肩口に近いものと考えられる。粘土層及び砂層からは土師質の土器片及び須恵器片が少量ではあるが出土した。遺構の検出は無い。

【２トレンチ】

土層序は、１トレンチ同様である。粘土層及び砂層からは土師質の土器片及び須恵器片が少量ではあるが検出される。遺物１は陶器の灯明皿である。



第34図　出土遺物実測図



第35図　トレンチ配置図

【３トレンチ】

土層序は、１・２トレンチと同様であり、遺物の包含状況も同様である。遺構の検出は認められない。以上の状況からこの水田は旧流域内であることが予想される。遺物２は５層出土の須恵器坏の底部である。底径約１６．０㎝を測る。高台部分は短く、やや下方に張り出す。

【４トレンチ】【５トレンチ】

ともに土層序は、１・２・３トレンチと同様であり、遺物の包含状況も同様である。遺構の検出は認められない

５トレンチの西端付近は、他の調査箇所で見られる遺物を包含する粘土層や砂層が見られず、よく締まった安定地盤が見られることから、流域の肩口付近であることが考えられる。

【６トレンチ】

今回の調査区は、全体が旧流域内で遺構が所在しないことが分かったが、少量ではあるが遺物を包含することから、６トレンチを設定した。確認のための深堀トレンチで、更に下層の状況を確認することとした。

土層序は、他のトレンチと同様であり、下層の状況は、粘土層と砂層の連続であり沖積層であることが分かった。遺物は上層から土師質土器片が１点のみ出土した。遺構の検出は無かった。

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	1.1m×20.2m	不明	無し	土師質土器片、須恵器片
2トレンチ	1.1m×20.9m	不明	無し	土師質土器片、須恵器片
3トレンチ	1.1m×16.2m	不明	無し	土師質土器片、須恵器片
4トレンチ	1.1m×22.0m	不明	無し	土師質土器片、須恵器片
5トレンチ	1.1m×21.5m	不明	無し	土師質土器片、須恵器片
6トレンチ	1.1m×3.4m	不明	無し	土師質土器片

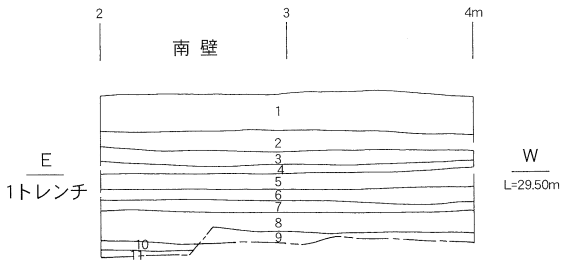
第6表　綾歌町栗熊東字下河西地区試掘調査　トレンチ概要

4．まとめ

調査の結果、対象地には土器片の包含が見られるが遺構は所在しないことが判明した。出土した遺物もローリングを受けているものが多く上流域からの流れ込みであると考えられる。少量ではあるが土師質土器片や須恵器片が包含される層がみられることから、古墳時代から中世にかけての遺跡が周辺に所在しているものと思われる。

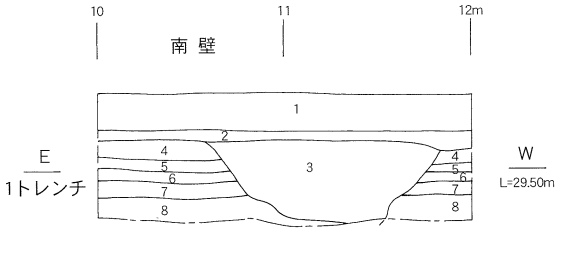
ことから、周辺に関連する遺構が展開する可能性が考えられる。また、計画地の西側には緩やかな微高地となっていることから『行末遺跡』『行末西遺跡』に関連する遺構が残されている可能性がある。

計画地には、遺物を包含する層は見られるが、流域の堆積による層に含まれており遺構を全く伴わないことから今後の保護措置は不要であると考えられる。



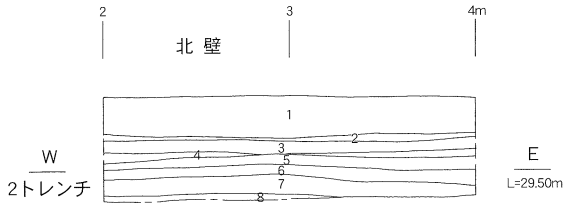
1トレ　南壁　2－4m

1. 耕作土
2. 2.5GY2/1黒色粘質細砂砂質強い
3. 2.5Y6/1黄灰色～5/4黄褐色粘質細砂粘質強い
4. 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y6/6明黄褐色～6/1黄灰色粘質細砂粘質強い（Ｍｎ少含）
6. 2.5Y6/1黄灰色～4/3オリーブ褐色粘質土＋粗砂少混
7. 2.5Y4/2暗灰黄色～3/2黒褐色粘質土＋粗砂少混
8. 2.5Y3/1黒褐色粘質土
9. 2.5Y3/1黒褐色～5/1黄灰色粘質土
10. 2.5Y5/1黄灰色粗～細砂
11. 2.5Y2/1黒色粘質土



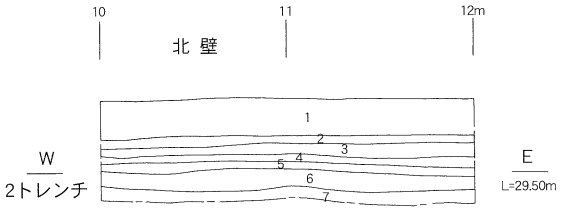
1トレ　南壁　10－12m

1. 耕作土
2. 2.5GY2/1黒色粘質細砂砂質強い
3. 撹乱
4. 2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y6/1黄灰色～5/4黄褐色粘質細砂粘質強い
6. 2.5Y6/6明黄褐色～6/1黄灰色粘質細砂粘質強い
7. 2.5Y4/2暗灰黄色～3/2黒褐色粘質土＋粗砂少混
8. 2.5Y3/1黒褐色粘質土



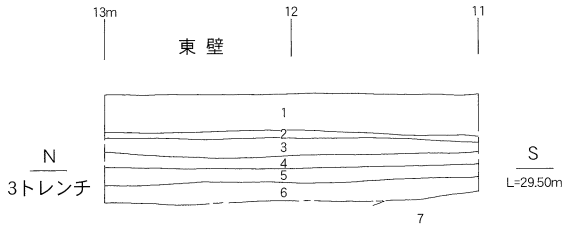
2トレ　北壁　2－4m

1. 耕作土
2. 2.5GY2/1黒色粘質細砂砂質強い
3. 2.5Y4/2暗灰黄色～4/6オリーブ褐色粘質細砂
4. 2.5Y5/1黄灰色～4/6オリーブ褐色粘質細砂
5. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂少混
6. 2.5Y4/1黄灰色～4/2暗灰黄色粘質細砂＋粗砂少混
7. 2.5Y3/1黒褐色粘質土＋粗砂少混
8. 2.5Y5/1黄灰色粗～細砂



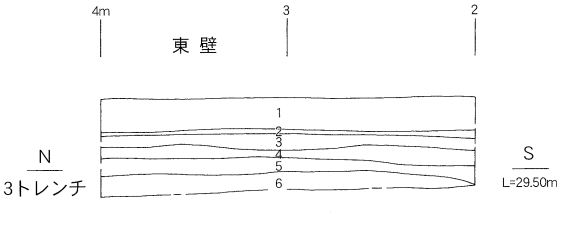
2トレ　北壁　10－12m

1. 耕作土
2. 2.5GY2/1黒色粘質細砂砂質強い
3. 2.5Y4/2暗灰黄色～4/6オリーブ褐色粘質細砂
4. 2.5Y5/1黄灰色～4/6オリーブ褐色粘質細砂
5. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂＋2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂少混
6. 2.5Y4/1黄灰色～4/2暗灰黄色粘質細砂＋粗砂少混
7. 2.5Y3/1黒褐色粘質土＋粗砂少混



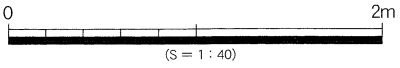
3トレ　東壁　11－13m

1. 耕作土
2. 2.5GY2/1黒色粘質細砂
3. 2.5GY2/1黒色～3/1暗オリーブ灰色粘質細砂＋粗砂少混
4. 2.5Y6/1黄灰色～6/6明黄褐色粘質土＋粗砂少混
5. 2.5Y5/1黄灰色～5/6明黄褐色粘質土＋粗砂少混
6. 2.5Y3/1黒褐色粘質土
7. 2.5Y5/1黄灰色粗～細砂

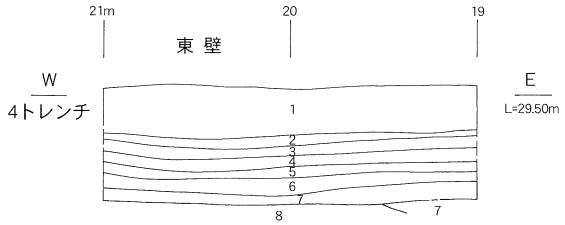


3トレ　東壁　2－4m

1. 耕作土
2. 2.5GY2/1黒色粘質細砂
3. 2.5GY3/1暗オリーブ灰色＋5Y5/4オリーブ色粘質細砂混
4. 2.5Y5/6黄褐色～5/1黄灰色粘質土＋粗砂少混
5. 2.5Y4/1黄灰色＋10YR4/6オリーブ褐色粘質土＋粗砂少混
6. 2.5Y3/1黒褐色粘質土

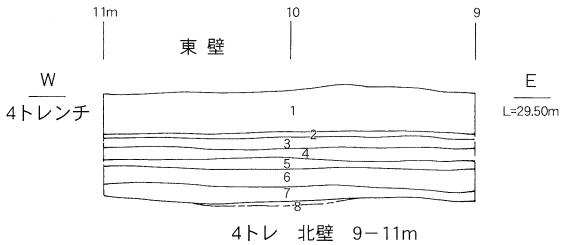


第36図　1～3トレンチ断面図



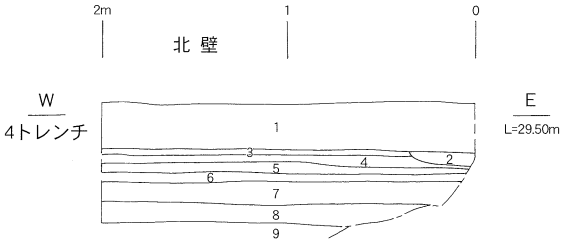
4トレ　北壁　19－21m

1. 耕作土
2. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3. 2.5Y5/4黄褐色～4/4オリーブ褐色粘質細砂粘質強い
4. 2.5Y6/2灰黄色～6/6明黄褐色粘質土
5. 2.5Y5/6黄褐色～6/2灰黄色粘質土
6. 2.5Y4/2暗灰黄色～4/6オリーブ褐色粘質土
7. 2.5Y3/2黒褐色粘質土＋粗砂少混
8. 2.5Y5/1黄灰色粗～細砂



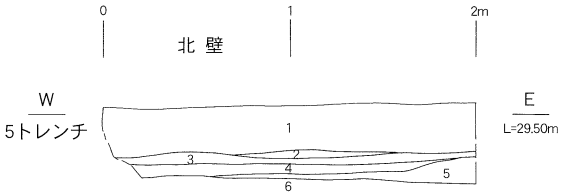
4トレ　北壁　9－11m

1. 耕作土
2. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3. 2.5Y5/4黄褐色～4/4オリーブ褐色粘質細砂粘質強い
4. 2.5Y6/2灰黄色～6/6明黄褐色粘質土
5. 2.5Y5/6黄褐色～6/2灰黄色粘質土
6. 2.5Y4/2暗灰黄色～4/6オリーブ褐色粘質土
7. 2.5Y3/2黒褐色粘質土＋粗砂少混
8. 2.5Y5/1黄灰色粗～細砂



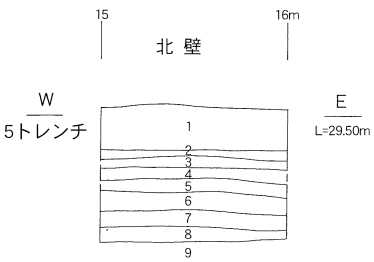
4トレ　北壁　0－2m

1. 耕作土
2. 撹乱
3. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
4. 2.5Y5/4黄褐色～4/4オリーブ褐色粘質細砂粘質強い
5. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/4黄褐色粘質細砂粘質強い
6. 2.5Y4/6オリーブ褐色～6/2灰黄色粘質土（Mn含）
7. 2.5Y4/2オリーブ褐色～3/2黒褐色＋粗砂少混（Mn含）
8. 2.5Y3/2黒褐色粘質土＋粗砂少混
9. 2.5Y5/1黄灰色粗～細砂



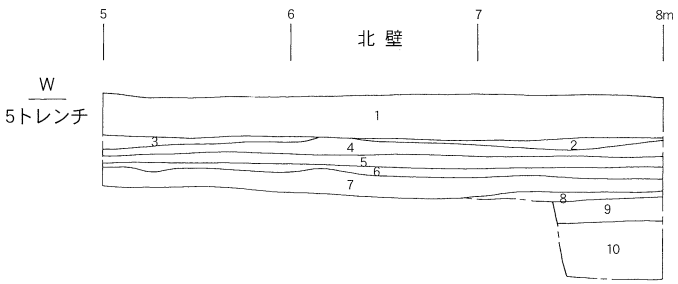
5トレ　北壁　0－2m

1. 耕作土
2. 花崗土
3. 2.5Y5/4～5/6黄褐色粘質細砂
4. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/6黄褐色粘質細砂（Mn多含）
5. 2.5Y6/1黄灰色～5/6黄褐色粘質細砂
6. 2.5Y5/1黄灰色粗砂



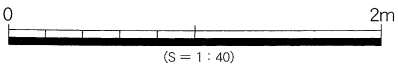
5トレ　北壁　15－16m

1. 耕作土
2. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3. 2.5Y6/1黄灰色～5/6黄褐色粘質土
4. 2.5Y5/6黄褐色～6/1黄灰色粘質土
5. 2.5Y6/1黄灰色～5/6黄褐色粘質細砂（Mn含）
6. 2.5Y4/2暗灰黄色～3/2黒褐色粘質土＋粗砂少混
7. 2.5Y3/2黒褐色粘質土＋粗砂少混
8. 2.5Y3/1黒褐色粘質土
9. 2.5Y3/1黒褐色粘質土＋粗砂少混



5トレ　北壁　5－8m

1. 耕作土
2. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3. 2.5Y5/6黄褐色＋5G5/1緑灰色粘質細砂混
4. 2.5Y5/4～5/6黄褐色粘質細砂（Mn含）
5. 2.5Y6/1黄灰色～5/6黄褐色粘質細砂
6. 2.5Y6/2灰黄色～5/6黄褐色粘質細砂粘質強い
7. 2.5Y3/2黒褐色粘質土＋粗砂少混
8. 2.5Y3/2黒褐色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
9. 2.5Y4/1黄灰色粘質土＋粗砂少混
10. 2.5Y3/1黒褐色粘質土（水分多含）



(S＝1：40)

第 37図　4・5トレンチ断面図

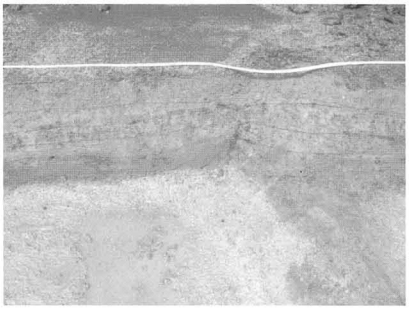
調査前風景：南から

調査風景

1トレンチ全景：東から

1トレンチ土層

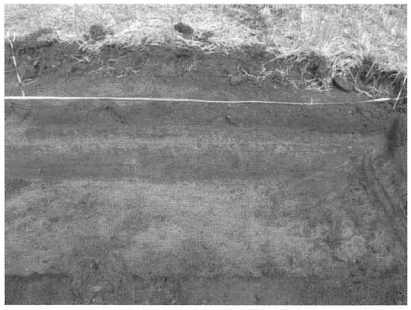
2トレンチ全景：東から


2トレンチ土層

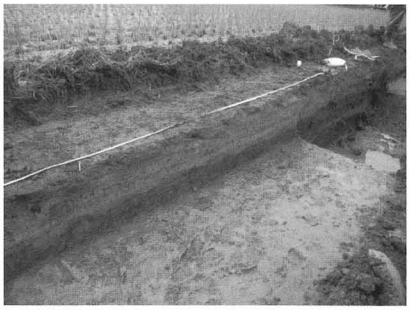
3トレンチ全景：南から

3トレンチ土層

4トレンチ全景：西から


4トレンチ土層

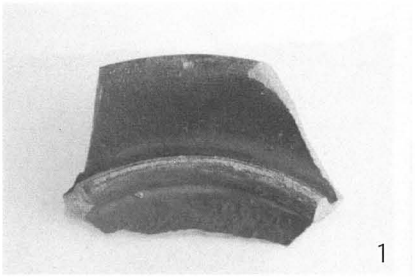
5トレンチ全景：東から


5トレンチ土層（流域の肩口付近）

5トレンチ土層

6トレンチ全景・土層：北から

図版12　綾歌町栗熊東字下河西地区試掘調査（1）



図版13　綾歌町栗熊東字下河西地区試掘調査(2)

飯山町東小川字前谷地区

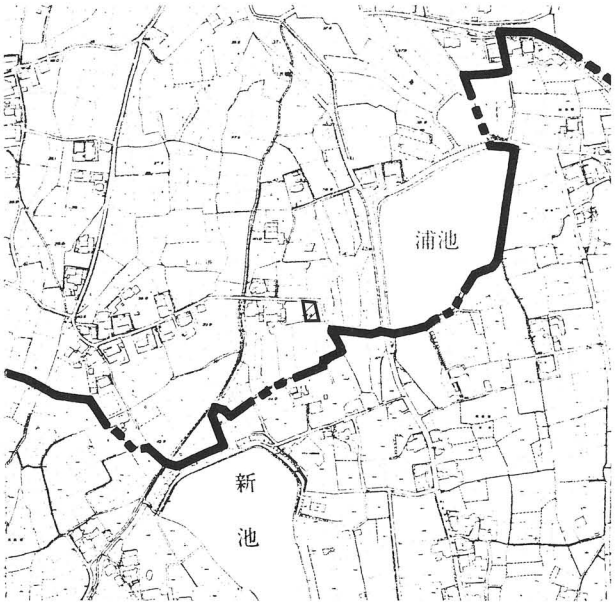
第Ⅷ章　飯山町東小川字前谷地区試掘調査

調査対象地　　飯山町東小川字前谷３１３－１
調査期間　　平成２０年１０月９日～１０月１０日
調査面積　　約２５㎡（調査対象地面積　３４８㎡）

１．立地と環境

計画地は、岡田台地の北端付近に位置する。付近には、古墳時代中期の古墳群である『岡田万塚（古墳：古墳)』の分布が知られている。多くの古墳は、古くからの開墾等により破壊されてしまっているようであるが、数基は残存している。

古墳群の大半は、新池を中心とした周辺に群集していたようであり、資料によると、今回の計画地の北東隅及び南西隅付近にも所在していたことが記されている。



第38図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

平成２０年９月１７日に個人住宅建設に伴い、埋蔵文化財の有無に関する照会が提出された。それに伴い現況は水田となっており、マウンド等は見られないが古墳の底部付近の残存があれば、貴重な資料を得ることができることから試掘調査を実施することとした。

調査は平成２０年１０月９日から２日間かけて実施した。調査の結果、１１月２１日付けで保護措置の必要のない事を回答した。

３．調査の概要

試掘調査は、重機掘削によるトレンチ調査とした。計画地内に５箇所の試掘トレンチを設定して調査を行った。以下、トレンチ毎に概要を報告する。

【１トレンチ】

耕作土の下層には整地層が重なっており、若干遺物を包含する。耕作土下４２㎝ほどでベース層に達する。遺構は認められなかった。

【２トレンチ】

土層序は、１トレンチと同様であるが、ベース層が西に向けて上がってくる。計画地が丘陵の頂部から東に位置することから地形を現しているものと考えられる。ベース上の整地層から遺物が少量出土する。

【３トレンチ】

トレンチ北端付近で土坑状の落ちを検出する。詳細は不明である。トレンチ中央付近で、トレンチに対して斜行する溝状落ちSD０１を検出する。

【４トレンチ】

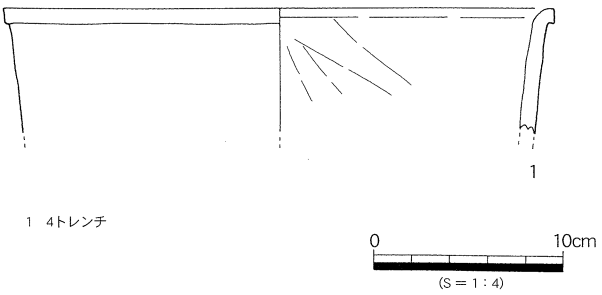
トレンチ東端で、トレンチに対して斜行する溝状落ち（SD０１）を検出する。埋土は、３トレンチの溝と類似しており、須恵器甕片を包含する。遺物１はSD０１出土の土鍋である。表面は剥落して不明であるが、内面は板ナデの後横ナデによる調整が見られる。口径約２９㎝を測り、口縁は短く折れ面を持ち終わる。

【５トレンチ】

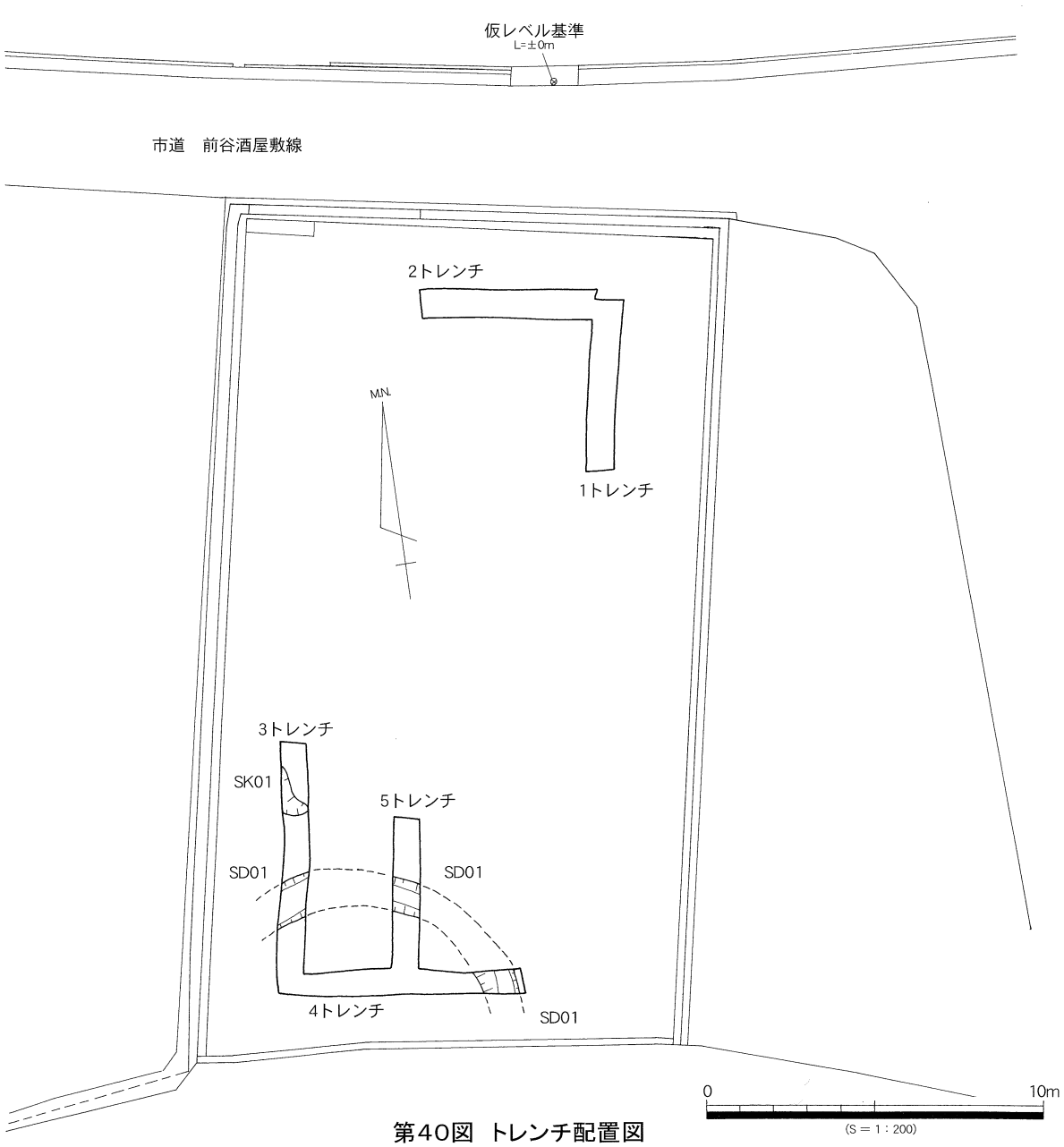
耕作土下に薄く整地土が認められるが、すぐベース層となる。トレンチ中央付近で、トレンチに対して斜

行する溝状落ちを検出する。

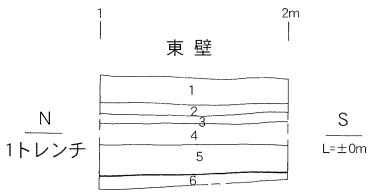
３本のトレンチから溝状の遺構を検出することができた。検出された配置をまとめると、内径８．５ｍ、外径１０．５ｍほどの径を描くことが分かった。３トレンチの溝からは、土師器の甕片が出土したことから古墳の周溝である可能性が高い。



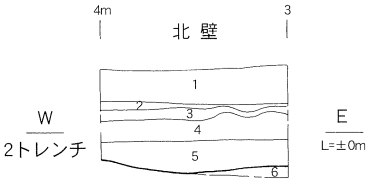
第39図　出土遺物実測図



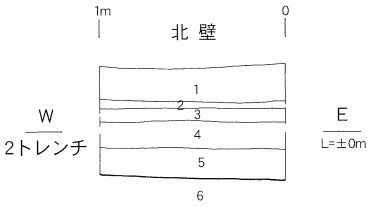
第40図　トレンチ配置図



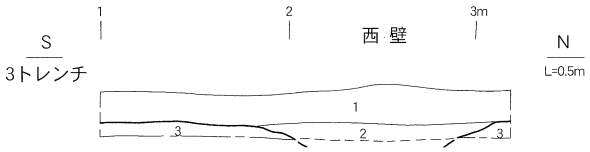
1トレンチ（東壁　1－2m）
1. 耕作土
2. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3. 2.5Y6/3にぶい黄色粘質細砂（Mn含）
4. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/3黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y6/6明黄褐色粘質土
6. 10YR7/6明黄褐色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂多混



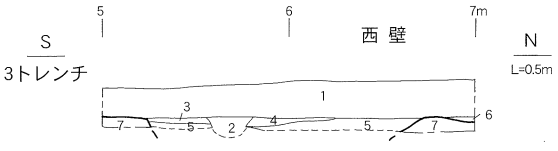
2トレンチ（北壁　3－4m）
1. 耕作土
2. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/3黄褐色粘質細砂
4. 2.5Y6/6明黄褐色粘質土粘質強い
5. 2.5Y6/6明黄褐色粘質土
6. 10YR7/6明黄褐色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂かなり多混



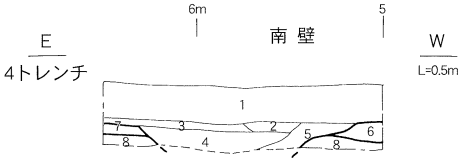
2トレンチ（北壁　0－1m）
1. 耕作土
2. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/3黄褐色粘質細砂
4. 2.5Y6/6明黄褐色粘質土粘質強い
5. 2.5Y6/6明黄褐色粘質土
6. 10YR7/6明黄褐色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂多混



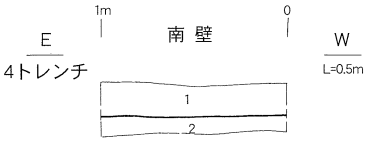
3トレンチ（西壁　1－3m）
1. 耕作土
2. 2.5Y6/3にぶい黄色～7/3浅黄色粘質細砂
3. 10YR7/6明黄褐色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂多混



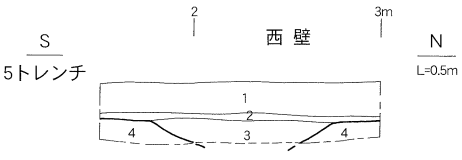
3トレンチ（西壁　5－7m）
1. 耕作土
2. 2.5Y4/3オリーブ褐色粘質細砂（炭含）
3. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
4. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂
5. 2.5Y5/6黄褐色～6/6明黄褐色粘質土
6. 2.5Y6/6明黄褐色粘質土
7. 10YR7/6明黄褐色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂多混



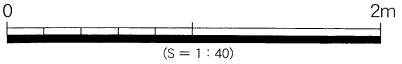
4トレンチ（南壁　5－6.5m）
1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂
4. 2.5Y6/4にぶい黄色～6/6明黄褐色粘質土
5. 2.5Y5/6黄褐色粘質土
6. 2.5Y6/6明黄褐色～5/4黄褐色粘質土（炭含）
7. 2.5Y6/6～6/8明黄褐色粘質土
8. 10YR7/6明黄褐色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂多混



4トレンチ（南壁　0－1m）
1. 耕作土
2. 10YR7/6明黄褐色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂多混



5トレンチ（西壁　1.5－3m）
1. 耕作土
2. 10YR5/6黄褐色粘質細砂
3. 2.5Y7/6明黄褐色～6/4にぶい黄色粘質土
4. 10YR7/6明黄褐色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂多混



第41図　1～5トレンチ断面図

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	0.9m×5.1m	不明	無し	土師器片
2トレンチ	0.9m×5.2m	不明	無し	土師器片、須恵器片
3トレンチ	0.9m×6.9m	不明	溝1条、土坑1基	無し
4トレンチ	0.8m×7.3m	不明	溝1条	土師器片、須恵器片
5トレンチ	0.8m×4.5m	不明	溝1条	無し

第7表　飯山町東小川字前谷地区試掘調査　トレンチ概要

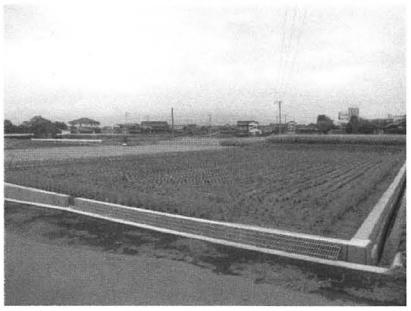
結果、計画地は開墾により掘削を受けており耕作土直下でベース層が現れることが分かった。しかし北東部は、本来の地形がやや下っており整地により地上げされていることが判明した。

計画地北東部の調査では、整地土中から若干の遺物が出土するものの、古墳の所在を立証する資料を得ることはできなかったが、南西部の調査では、古墳の周溝と思われる溝を確認することができた。

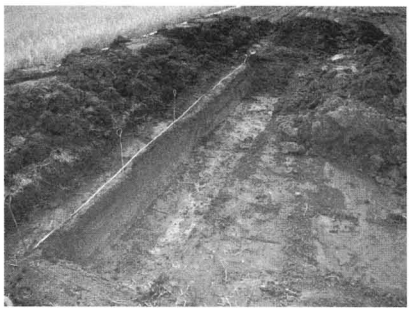
4．まとめ

今回の調査で、計画地内の南西隅付近に古墳の周溝である可能性の高い溝を確認することができた。残存状況が悪く、溝の底部約10㎝が残っていただけではあるが、古墳の所在した位置を特定できる貴重な資料を得ることができた。

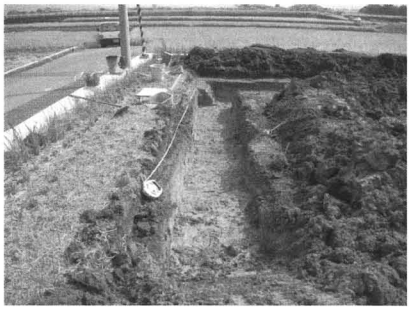
今回の調査で溝の配置は記録することができ、その他の遺構は残存していないことも併せて確認できた。遺構の残存状況が悪いことから、今回の調査で記録保存は十分であると考えられ、今後の保護措置は不要であるとの結論に至った。


調査前風景：北西から

調査風景


1トレンチ全景：北西から

1トレンチ土層

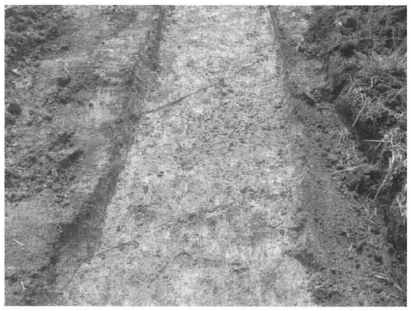

2トレンチ全景：西から

2トレンチ北壁土層

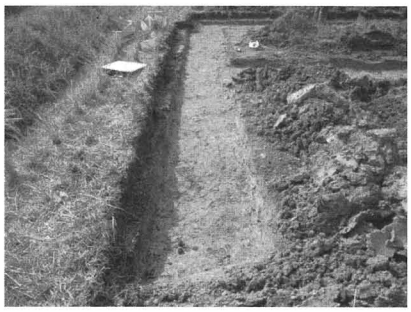
1・2トレンチ全景：東から

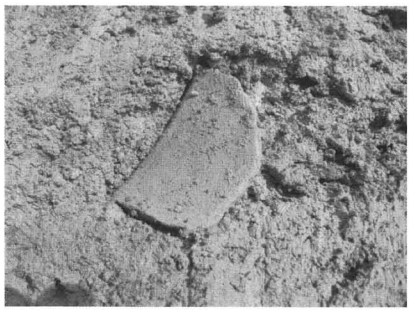
3トレンチ全景：南から

3トレンチ土坑検出状況

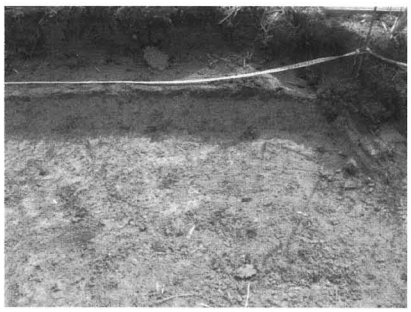

3トレンチ溝検出状況

3トレンチ溝埋土：西壁


4トレンチ全景：東から


4トレンチ遺物出土状況

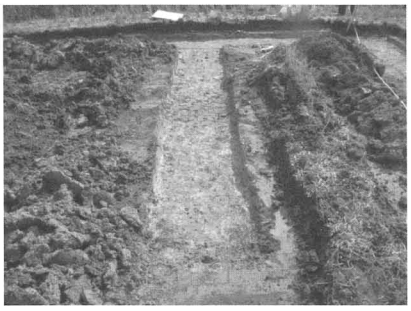
4トレンチ溝埋土：南壁


4トレンチ南壁土層

図版14　飯山町東小川字前谷地区試掘調査（1）

4トレンチ溝確認状況：西から

4トレンチ南壁土層



5トレンチ全景：北から

5トレンチ溝確認状況：南から

5トレンチ西壁土層

3・4・5トレンチ全景：南西から

図版15　飯山町東小川字前谷地区試掘調査（2）

金倉町字道下地区

第Ⅸ章　金倉町字道下地区試掘調査

調査対象地　　金倉町字道下１４８９、１４９０
調査期間　　平成２０年１０月２８日
調査面積　　約７４．０㎡（調査対象地面積２０９９㎡）

１．立地と環境

対象地は丸亀平野の北西部に位置し、金倉川の右岸付近にあたる。

周辺の埋蔵文化財包蔵地状況は、計画地に接するように北部一帯が『道下遺跡（弥生～近世：包含地）』、南部一帯が『中の池遺跡（弥生：集落跡）』に指定されている。

また、道下遺跡の東には、『新田橋本遺跡（弥生・古墳：集落跡）』や『今津中原遺跡（古代～中世：集落跡）』の所在が近年の調査によって明らかになってきている。

第42図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

平成２０年９月２９日付けで宅地分譲計画に伴う埋蔵文化財の有無に関する照会がなされた。このことを基に検討した結果、対象地付近にも遺跡の所在のあることが十分予想されるため、試掘調査を実施することとした。１０月２３日に事前踏査を行い検討した結果、重機によるトレンチ調査を実施することとした。

調査は１０月２８日に実施した。今回の調査で遺構、遺物ともに希薄であることが確認できたため、計画区域全域での保護措置は不要である旨の回答を平成２１年２月５日に行った。

３．調査の概要

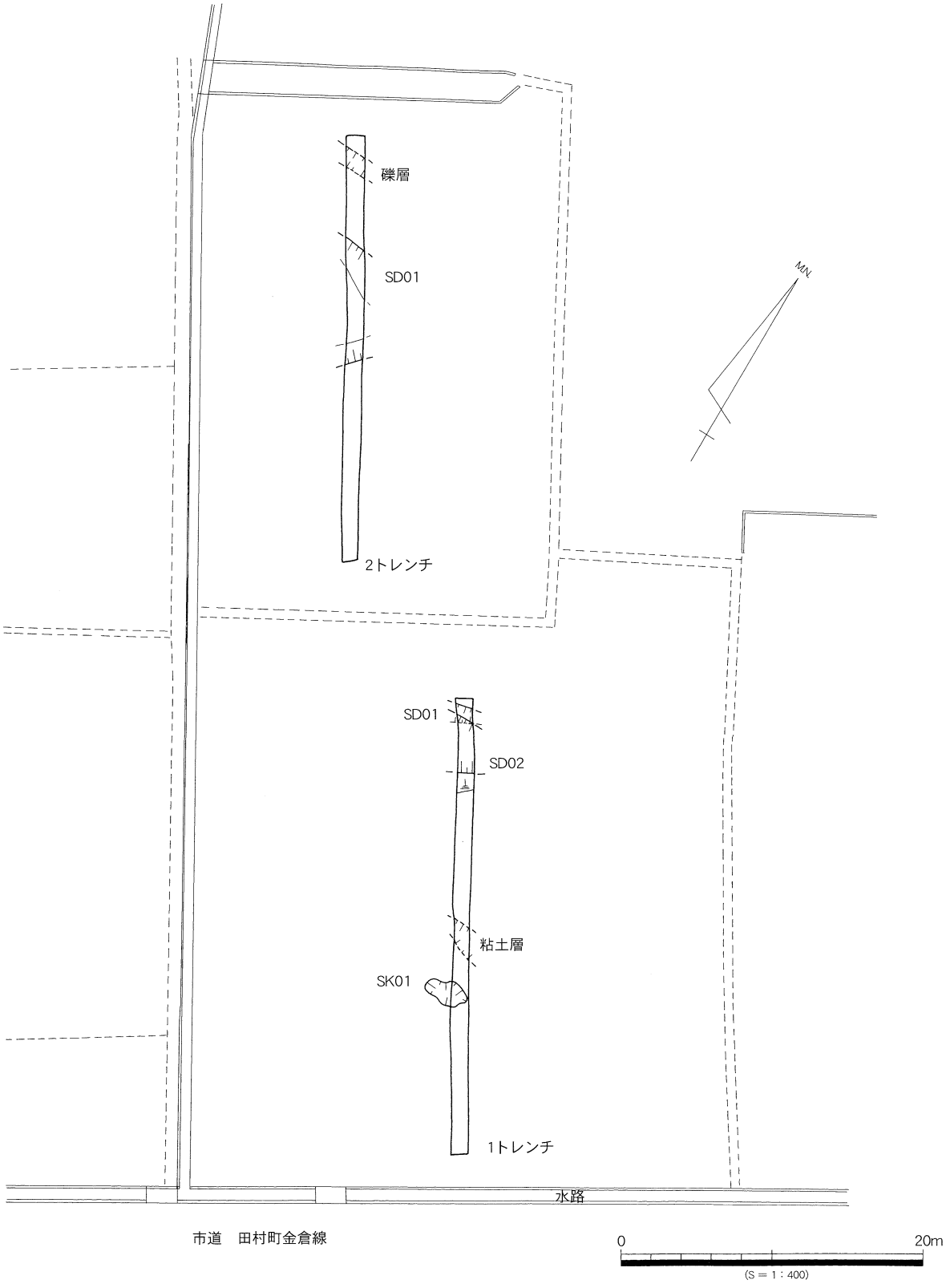
調査対象地は南北に長く２筆で構成されており、そのそれぞれにトレンチを設定し調査を行った。以下、トレンチ毎に概要を報告する。

【１トレンチ】

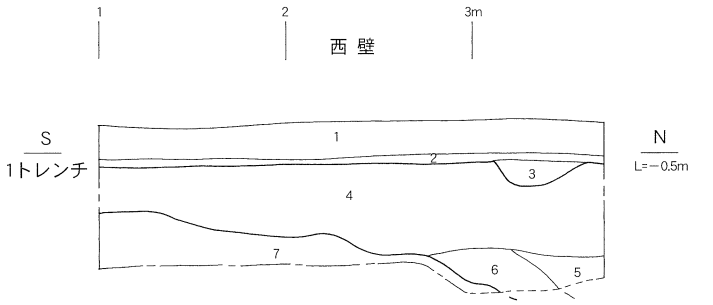
トレンチ南端から１０m 地点付近で土坑を検出。検出面は、耕作土直下である。断面観察しても肩ラインはそれほど明瞭ではなく、遺構でない可能性もある。北端において溝を２条検出した。２条共に検出面は耕作土直下である。SD０１は暗灰黄色系の粘質土で中世期に属すると思われるが遺物は出土していない。SD０２は灰黄色系の粘質土の埋土で中央部は黒褐色系の粘質土が堆積する。SD０２は、切り合い状況からSD０１よりは先行することが分かるが、遺物の包含も見られず詳細については不明である。底部がトレンチ以北に向けて下っていくことから、更に規模が大きくなることは確実であり旧河道である可能性が高い。耕作土中から少量の遺物が採取されるが、下層からの遺物は認められない。

【２トレンチ】

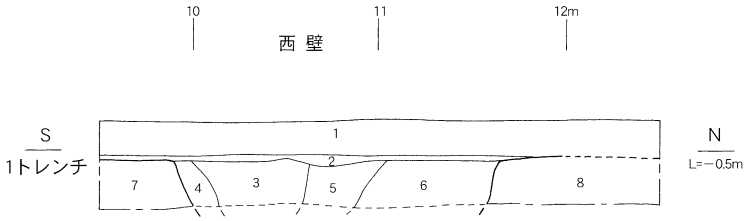
中央で西方に開く溝状の落ちを検出。検出面は、耕作土直下である。埋土状況は、灰黄色系の粘質土で中央部に暗褐色系の粘質土が薄く堆積する。肩口のラインが緩く、溝というよりは窪地への堆積のように思える。中央の暗褐色土からは少量のサヌカイト片が出土するが製品は無い。耕作土中から少量の土師器片等が採取されるが、下層から他の遺物は出土していない。



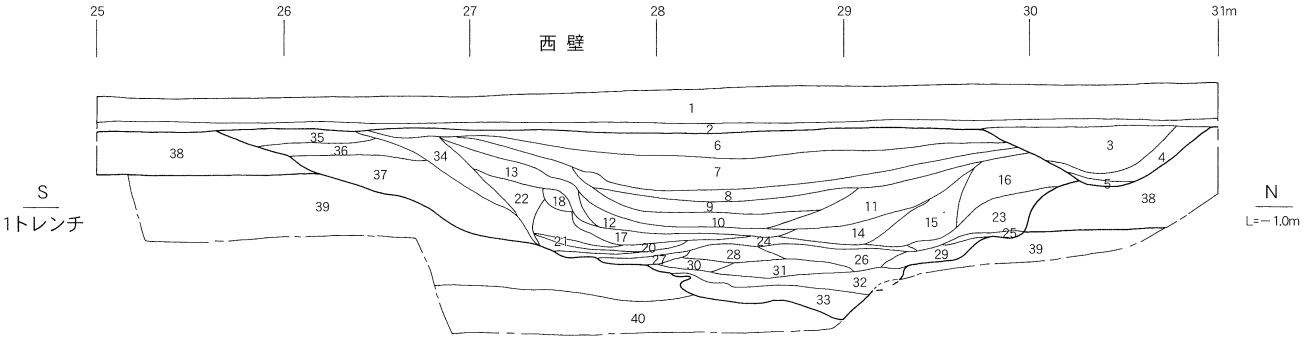
第43図 トレンチ配置図



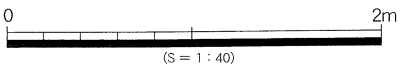
1トレンチ西壁（1－3m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y4/1黄灰色～3/1黒褐色粘質細砂
4. 2.5Y4/3オリーブ褐色～5/6黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y4/3オリーブ褐色シルト質細砂やや粘質強い
6. 2.5Y5/1黄灰色～4/3オリーブ褐色粘質細砂
＋2.5Y5/6期褐色細砂スジ状混
7. 2.5Y5/6黄褐色～5/2暗灰黄色粘質極細砂



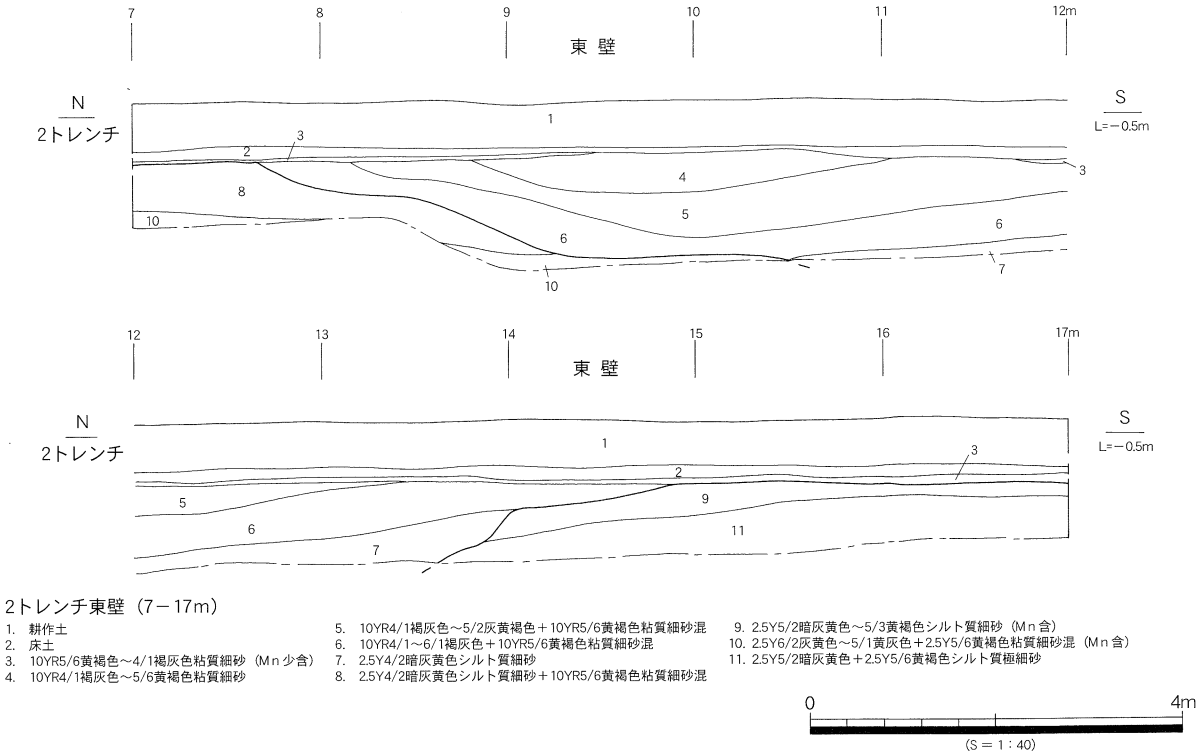
1トレンチ西壁（9.5－12.5m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y3/2黒褐色～3/3暗褐色粘質細砂
4. 2.5Y4/1黄灰色粘質細砂
5. 2.5Y4/2暗灰黄色～3/2黒褐色粘質細砂
6. 2.5Y5/2暗灰黄色～4/3オリーブ褐色シルト質細砂やや粘質強い
7. 2.5Y4/3オリーブ褐色～5/6黄褐色粘質細砂
8. 2.5Y6/2灰黄色シルト質細砂



1トレンチ西壁（25－31m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/1黄灰色粘質細砂
＋10YR4/6褐色細砂混（Mn含）
4. 2.5Y4/2暗灰黄色～3/2黒褐色粘質細砂
5. 2.5Y4/2暗灰黄色細砂～粗砂
6. 2.5Y3/2黒褐色粘質細砂＋10YR4/6褐色粘質細砂混
7. 10YR3/2黒褐色粘質細砂＋10YR4/6褐色粘質細砂混
8. 10YR2/1黒色粘質土（炭化物少混）
9. 10YR2/2黒褐色粘質土（炭化物少混）
10. 10YR3/2黒褐色～2/1黒色粘質細砂（炭化物少混）
11. 2.5Y3/2黒褐色粘質細砂粘質強い（炭化物混）
12. 10YR3/2～2/2黒褐色粘質細～粗砂（炭化物少混）
13. 10YR6/1褐灰色～6/2灰黄褐色粘質細砂砂質強い（炭化物混）
14. 10YR3/2黒褐色粘質細砂（炭化物混）
15. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂砂質強い
16. 10YR5/1褐灰色～5/6黄褐色シルト質細砂
17 10YR4/2灰黄褐色シルト質細砂（炭化物少混）
18. 10YR6/1褐灰色粘質細砂砂質強い
＋10YR6/6明黄褐色粘質細砂ブロック状混
19. 10YR5/1褐灰色～5/6黄褐色粘質極細砂
20. 10YR4/1褐灰色シルト質細砂砂質強い
21. 10YR6/2～5/2灰黄褐色粘質極細砂
22. 10YR4/2灰黄褐色シルト質細砂
23. 10YR6/2灰黄褐色～5/6黄褐色シルト質細砂
24. 10YR6/1褐灰色～5/2灰黄褐色粘質粗砂
25. 10YR4/1褐灰色粘質細砂粘質強い
26. 2.5Y7/3浅黄色～6/6明黄褐色細～粗砂（小石混）
27. 10YR6/2～5/2灰黄褐色シルト質細砂やや粘質強い
28. 10YR7/2にぶい黄橙色～6/2灰黄褐色細～粗砂
29. 10YR4/1褐灰色細～粗砂
30. 10YR6/1褐灰色～5/2灰黄褐色細～粗砂
31. 2.5Y7/3浅黄色～6/6明黄褐色細砂
32. 10YR6/2灰黄褐色シルト質細砂（粗砂混）
33. 10YR4/1褐灰色粘質細砂粘質強い
34. 10YR6/2灰黄褐色シルト質細砂
35. 10YR5/1褐灰色～5/2灰黄褐色粘質細砂（Mn含）
36. 10YR6/1褐灰色～5/3にぶい黄褐色シルト質細砂
37. 2.5Y6/1黄灰色～5/4黄褐色粘質極細砂
38. 2.5Y5/1黄灰色～5/4黄褐色粘質細砂
39. 10YR5/1褐灰色～5/2灰黄褐色極細砂＋10YR6/6明黄褐色極細砂混
40. 10YR6/1褐灰色極細砂



第44図　1トレンチ断面図



2トレンチ東壁（7－17m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 10YR5/6黄褐色～4/1褐灰色粘質細砂（Mn少含）
4. 10YR4/1褐灰色～5/6黄褐色粘質細砂
5. 10YR4/1褐灰色～5/2灰黄褐色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
6. 10YR4/1～6/1褐灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
7. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質細砂
8. 2.5Y4/2暗灰黄色シルト質細砂＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
9. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/3黄褐色シルト質細砂（Mn含）
10. 2.5Y6/2灰黄色～5/1黄灰色＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂混（Mn含）
11. 2.5Y5/2暗灰黄色＋2.5Y5/6黄褐色シルト質極細砂

第45図　2トレンチ断面図

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	1.2m×30.0m	不明	溝2、土坑1	土師器片、陶器片、サヌカイト片
2トレンチ	1.2m×28.1m	弥生	溝1	サヌカイト片、土師器片、土師質土器片

第8表　金倉町字道下地区試掘調査　トレンチ概要

調査の結果、最大限解釈して土坑1基、溝3条を検出した。1トレンチのSD01以外は遺構として取り扱うには難しい状況であることは否めない。

また、いずれも検出面が耕作土直下であり、上部に包含層も認められないことからも検出面が旧状を留めているとは考えられない。少量ではあるが、サヌカイト片を包蔵することから遺構の一部若しくは周辺に遺跡の展開する可能性は残されるが、現況としてそれを証明する資料は残されていないと考えられる。

4．まとめ

今回の調査で、僅かに遺構を検出することができたが、確実な遺構として捉えられるのは1トレンチのSD01だけである。

当該地については、既に削平を受けており、本来の遺構面は残存していないことも確認された。

これらのことから検討すると、計画区域の一部で遺構は検出されたがそれらの詳細をつかめる資料を得られるまでには至らず、遺構密度も非常に薄いことから、計画区域全域について保護措置が不要であるとの結論に至った。

調査前風景：南から

調査風景

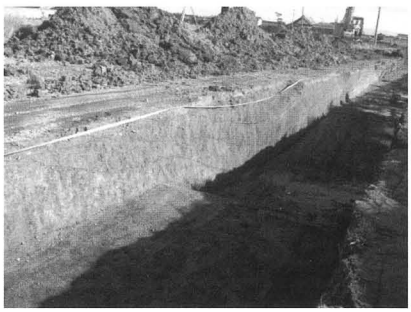
1トレンチ全景：北から

1トレンチSK01検出状況

1トレンチSD01・02

1トレンチSD01

2トレンチ全景：北から



2トレンチSD01

図版16　金倉町字道下地区試掘調査

田村町字橋の坪地区

第Ｘ章　田村町字橋の坪地区試掘調査

調査対象地　　田村町字橋の坪１２８１、１２８２－１、１２８３－３、１２８４－２
調査期間　　平成２０年１１月４日～１１月６日
調査面積　　約２４２．８㎡（調査対象地面積１８１１㎡）

１．立地と環境

計画区域付近では、これまでに調査を実施した経緯が無く埋蔵文化財の包蔵状況は不明となっている。

しかし、西方の先代池や平池の周辺には『中の池遺跡（弥生：集落跡）』『道下遺跡（弥生～近世：包含地）』『平池西遺跡（縄文・弥生：包含地）』『平池南遺跡（縄文・弥生：包含地）』『平池東遺跡（弥生：包含地）』など広い範囲で遺跡の分布が確認されている。

また、南方の田村池には『田村池遺跡（弥生～古代：包含地）』が確認されている。更に、北方には『田村廃寺（奈良：寺院）』や『田村遺跡（古代：寺院）』などが所在しており、時代の遺跡が集中している地域であることが分かる。

第46図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

平成２０年９月８日付けで宅地分譲建設に伴い、埋蔵文化財に関する有無の照会がなされた。対象地周辺では埋蔵文化財に関する調査を実施した経緯が無く、埋蔵状況は不明なため、調査を実施することとした。調査は、１１月４日から６日までの期間で実施した。

調査の結果、計画区域内で遺構の分布が確認された。確認された遺構は、ほとんどが溝で遺物も希薄であったことから詳細は不明である。よって保護措置は不要であるとの旨を１月２３日、事業者に対して回答した。

３．調査の概要

【１トレンチ】

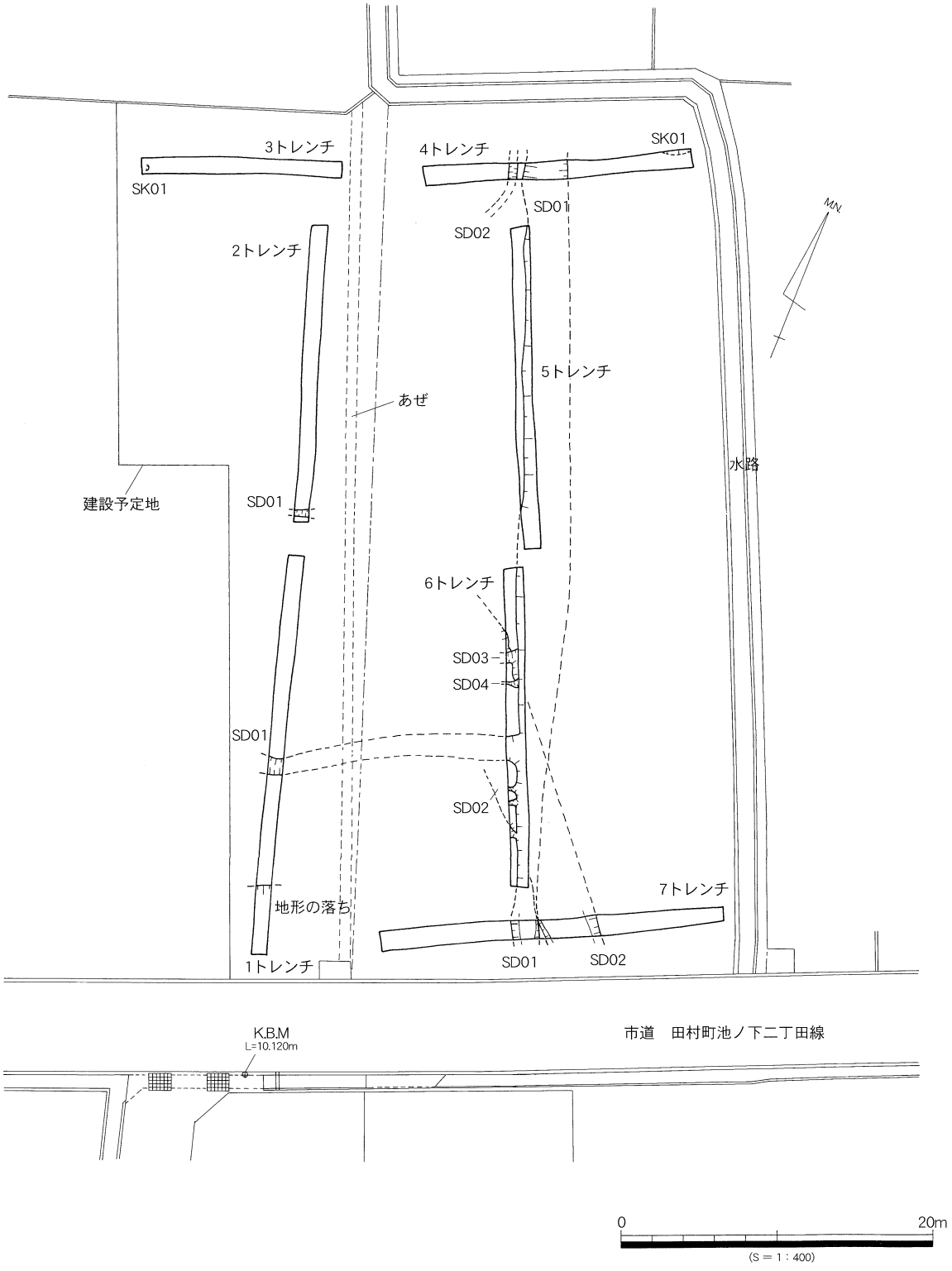
トレンチ南端から 5m付近で南に下る落ちを検出する。検出面は耕作土下面より２３㎝ほど下部である。ベース層の上面層がそのまま下っていくことから地形が落ちているものと考えられる。トレンチ中央部で東西軸の溝（SD０１）を検出。検出面は南の地形の落ち検出面より１層高い。溝の埋土は黄灰色系の細砂で土師器鉢片が出土した。古代～中世に属すると思われる。遺物１～３は、５層から出土した。地山直上の包含層である。遺物１は、土師質の土釜である。鍔下を指で押さえ張り付ける。２は、丁寧なナデによる貼付け高台である。３は、サヌカイト片である。折損により不明であるが、僅かに調整痕が見られる。

【２トレンチ】

南端で東西軸の溝（ＳＤ０１）を検出。検出面は、耕作土下面より１３㎝ほど下部である。埋土は暗灰黄色のシルト質細砂で、非常に浅く土師器小皿片が出土した。上位の層から少量の遺物を確認するが、伴う遺構は認められない。遺物４～６は、３層から出土した。中世の土鍋と土釜である。４、５はゆるやかに内傾する口縁を持つ。６は長く延びる胴部持つ土釜である。７は、SD０１出土の碗で、口縁が僅かに残る。

【３トレンチ】

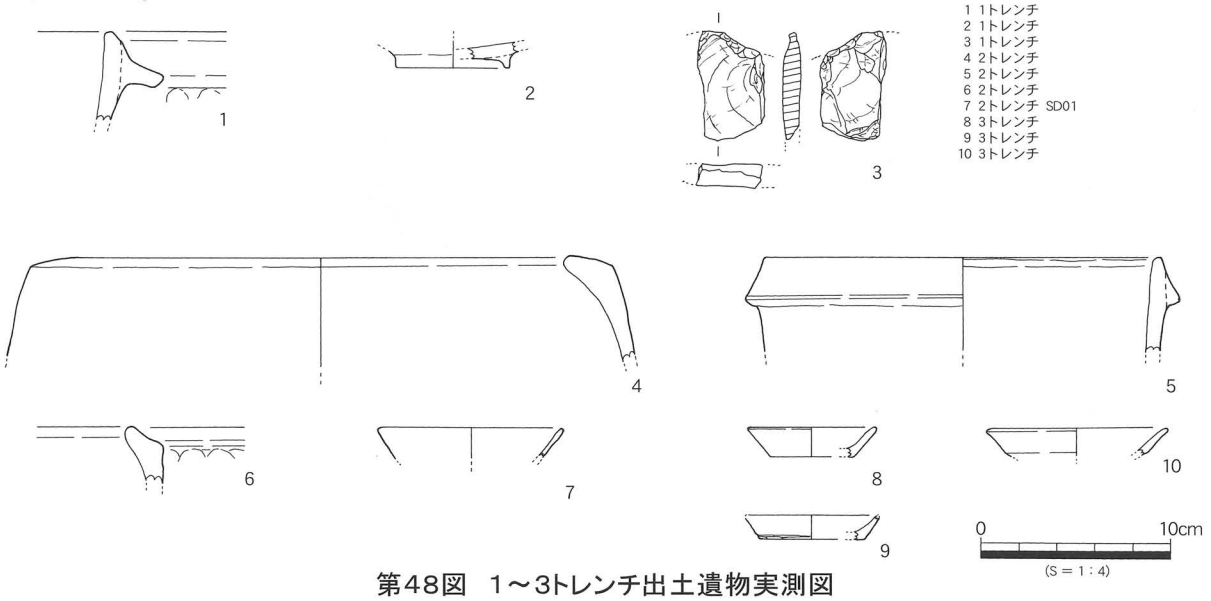
西端で土坑状の落ちを検出した。検出面は、耕作土下面より２８㎝ほど下部である。埋土は黒褐色系の粘



第47図　トレンチ配置図

質土で遺物の包含は認められなかった。上位の層から少量の遺物を確認するが、伴う遺構は認められない。

８、９は３層から出土した小皿片である。１０は、４層から出土した土師質の小皿である。外面には墨の付着が見られる。



第48図　1～3トレンチ出土遺物実測図

【４トレンチ】

東端部で土坑状の落ちを検出した。検出面は、耕作土直下である。埋土は黄灰色系の細砂である。撹乱によるものである可能性が高い。

トレンチ中央部で大小の溝２条を検出した。SD０１は幅２．８５m、SD０２は幅０．５５mを測る。検出面は、いずれも同一で耕作土下面より１３cmほど下部である。埋土は、灰褐色系の細砂で遺物は出土していない。上位の層から少量の遺物を確認するが、伴う遺構は認められない。

【５トレンチ】

東半部でほぼトレンチ軸と並行するような溝を検出。検出面は、４トレンチのSD０１、SD０２検出面と同様である。４トレンチのSD０１に対応するものと考えられる。

【６トレンチ】

東半部でトレンチ軸と並行する溝（SD０１）を検出。４トレンチのSD０１、５トレンチのSD０１に対応するものと考えられる。SD０１は、トレンチ中央付近及び以南で西へ分岐する箇所が見られる。トレンチ中央付近の分岐する溝は、１トレンチのSD０１に対応するものと考えられる。検出面は耕作土下面より１４cmほど下部である。SD０１からは土師器碗片が出土している。トレンチ北半部ではSD０１より先行する溝（SD０４）が検出された。検出面はSD０１と同様で遺物の包含は認められなかった。

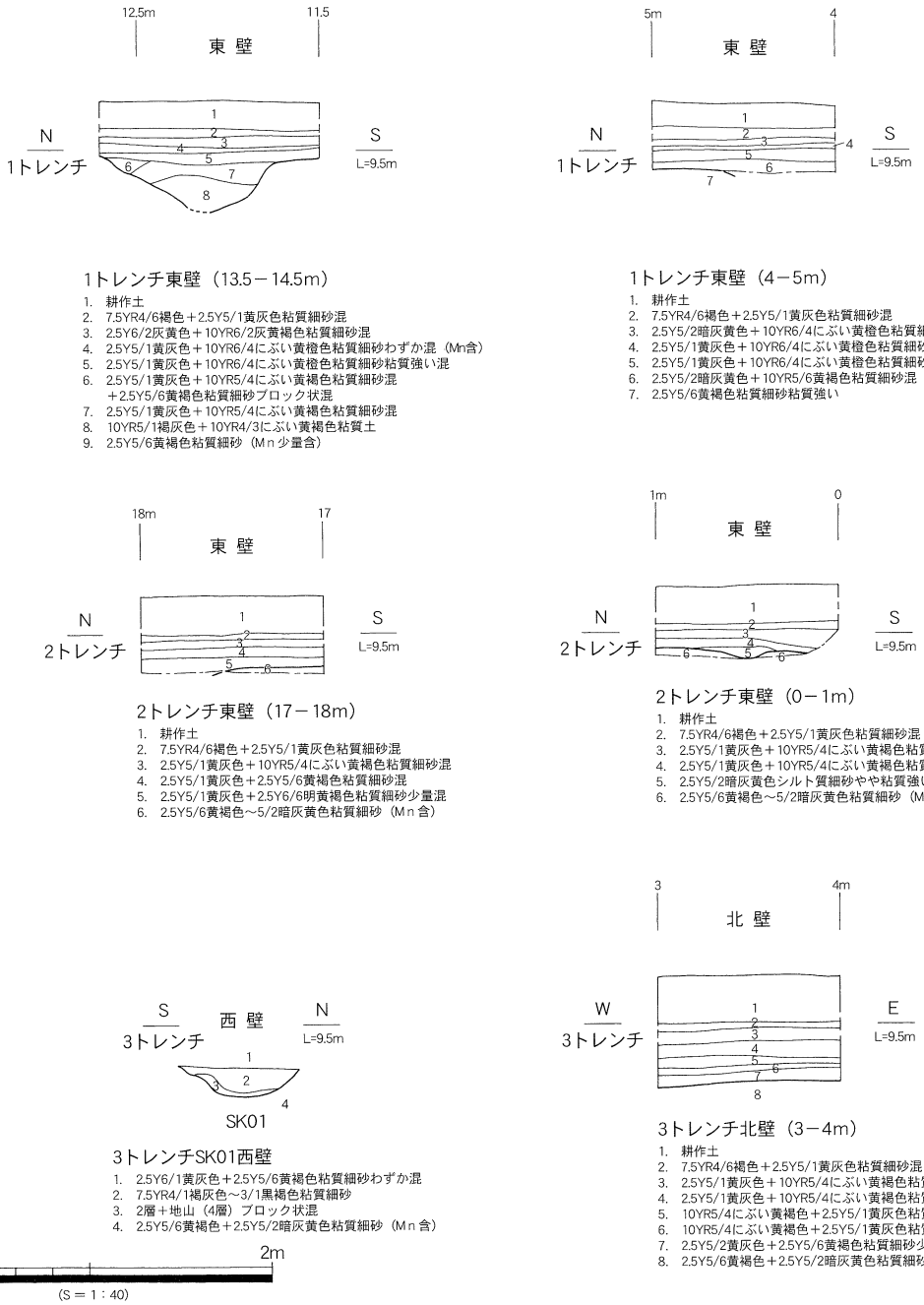
更に、SD０４より先行するSD０３を検出した。検出面は、SD０１と同様である。最底から弥生土器片が出土した。

トレンチ中央付近でトレンチに対して斜行するSD０２を検出。SD０２は他の溝より先行しており、少量のサヌカイト片や土師器片などが見られるが、土師器片などについては他の溝の遺物等が混入してしまっている可能性が高い。SD０２は周辺の地形調査から旧河道の一部である可能性が高いが、他の遺跡で検出されたものと類似しており、弥生時代後期～古墳時代初頭に属する溝である可能性も残される。

遺物１１～１４は、２層出土の土器である。１１は中世の土鍋である。１２は小皿である。底部はヘラ切りされ内面にススが付着する。１３は瓦質土器の碗片である、外面に黒化処理を行っている。１４は６層出土の土鍋である。口縁部下まで指オサエを施し、胴部外面にはハケ目が見られる。１５は、SD０１出土の底部である。摩滅のため調整は不明である。

【７トレンチ】

中央部付近で溝２条を検出。SD０１は６トレンチのSD０１に対応し、SD０２は６トレンチのSD０２に



第49図　1～3トレンチ断面図

対応するものと思われる。

SD０１からの出土遺物は無かったが、SD０２の最底から弥生土器片が出土した。遺構検出面より上位層からは、遺物１６～１８が出土しているが、出土層は後世の整地土であると思われる。１６は土釜、１７は青磁の壷である。１８は色および胎土から中国製の青花碗で１６C後半のものと思われる。

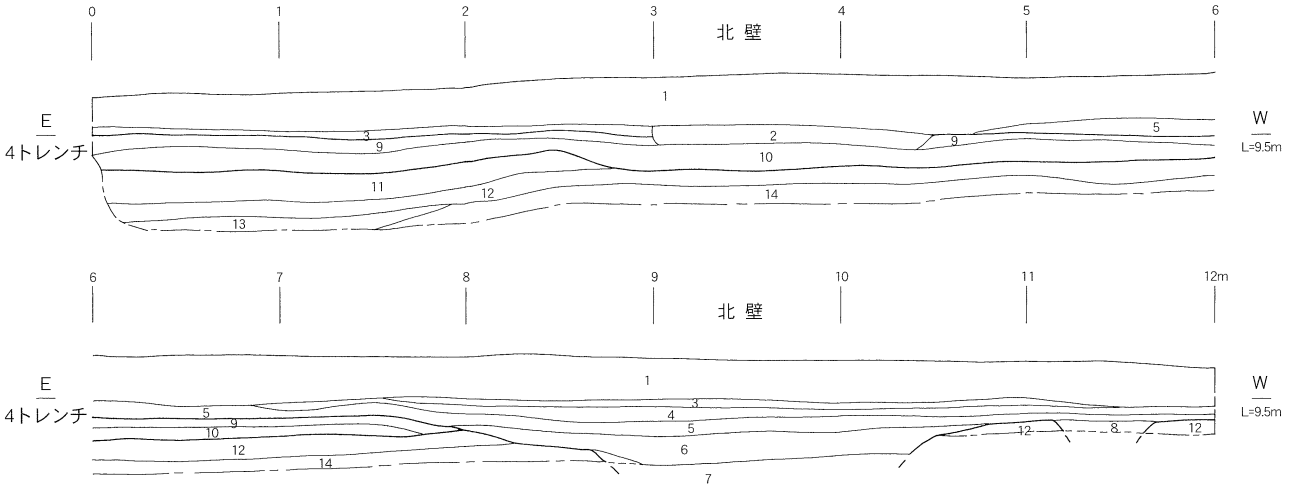
以上、計画区域内に７箇所の試掘トレンチを設定して調査を行った。

結果、計画地の東部で現在の地形に沿った南北軸の溝が延びることが確認された。途中から西方へ直角に分岐する溝も認められる。これは、条里に伴うものである可能性が高い。

これに先行して溝が切り合っているが、詳細は不明である。更に、先行する溝が調査区を斜行している。これは、周辺の地形調査から谷地形もしくは旧河道の堆積の痕跡である可能性を秘めているが、新田橋本遺跡で見られる弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての溝である可能性もある。

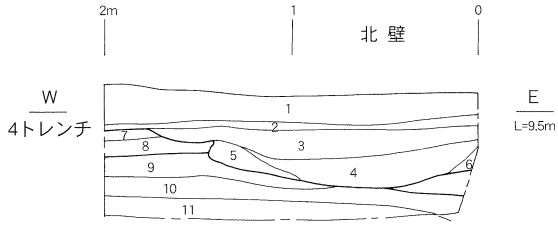
住居址等の遺構は発見されていない。調査を通じて出土した遺物も非常に少ない。

断面観察から、本来の遺構面は削平等によって完全に消失してしまっているものと考えられる



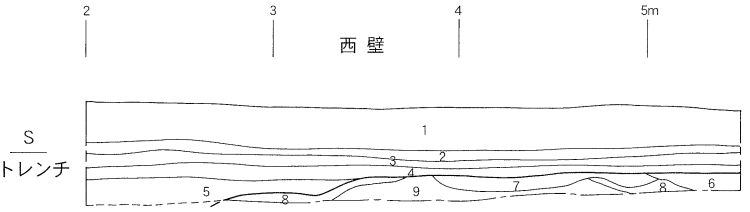
4トレンチ南壁（0－12m）

1. 耕作土
2. 撹乱
3. 10YR4/6褐色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
4. 2.5Y5/2暗灰黄色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
5. 2.5Y6/2灰黄色～6/3にぶい黄色粘質細砂＋2.5Y7/4浅黄色粘質細砂混（Mn含）
6. 2.5Y5/1黄灰色＋10YR5/1褐灰色＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂混
7. 2.5Y4/1黄灰色＋7.5YR3/1黒褐色粘質細砂ブロック状混
8. 10YR4/1褐灰色粘質細砂（Mn含）
9. 2.5Y7/6明黄褐色＋2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂混（Mn多含）
10. 2.5Y7/6明黄褐色粘質シルト（Mn含）
11. 2.5Y6/6明黄褐色＋2.5Y7/2灰黄色粘質土（Mn含）
12. 2.5Y4/2～5/2暗灰黄色粘質細砂（褐色粒混）
13. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂
14. 2.5Y7/1灰白色～6/1灰黄色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂混



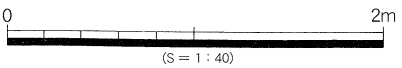
4トレンチ北壁（0－2m）

1. 耕作土
2. 10YR4/6褐色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
3. 礫混2.5Y5/1黄灰色＋10YR4/6褐色粘質細砂わずか混（φ1cm以下小石・Mn含）
4. 2.5Y5/1黄灰色＋10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂混
5. 2.5Y6/1黄灰色～7/2灰黄色粘質細砂
6. 2.5Y7/2灰黄色～7/6明黄褐色粘質シルト（Mn含）
7. 2.5Y7/6明黄褐色粘質シルト
8. 2.5Y6/6明黄褐色＋2.5Y7/2灰黄色粘質土混
9. 2.5Y5/2暗灰黄色＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂混（褐色粒含）
10. 2.5Y7/1灰白色～6/1黄灰色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂混

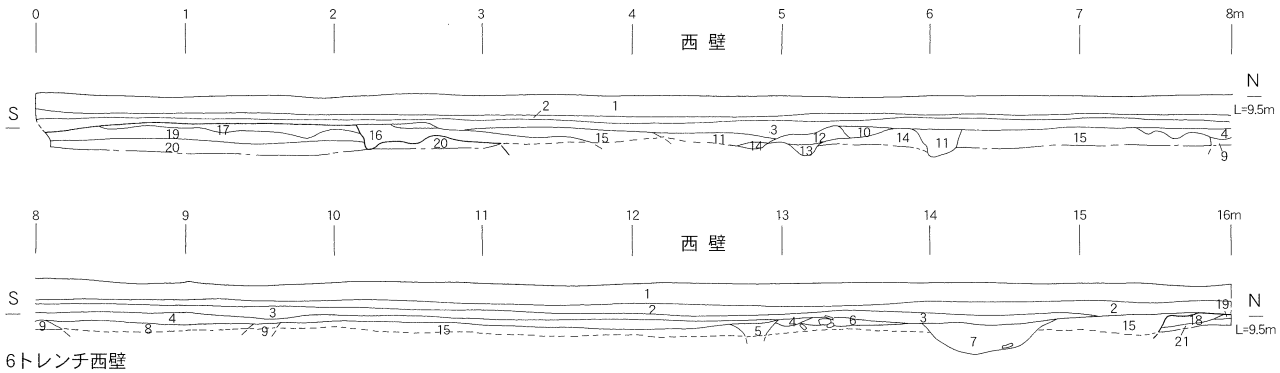


5トレンチ西壁（2－5m）

1. 耕作土
2. 10YR4/6褐色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
3. 2.5Y7/2灰黄色＋2.5Y7/4浅黄色粘質細砂混（Mn含）
4. 2.5Y6/2灰黄色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂混
5. 5Y5/1灰色粘質シルト
6. 2.5Y7/3浅黄色～6/8明黄褐色粘質細砂
7. 2.5Y5/1黄灰色＋2.5Y6/4にぶい黄色＋10YR4/2灰黄褐色粘質粗砂混（Mn少含）
8. 2.5Y7/2灰黄色＋2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂混（Mn含）
9. 10YR5/2灰黄褐色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂少混（Mn φ1cm以下多含）

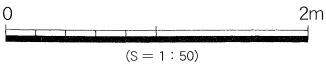


第50図　4・5トレンチ断面図

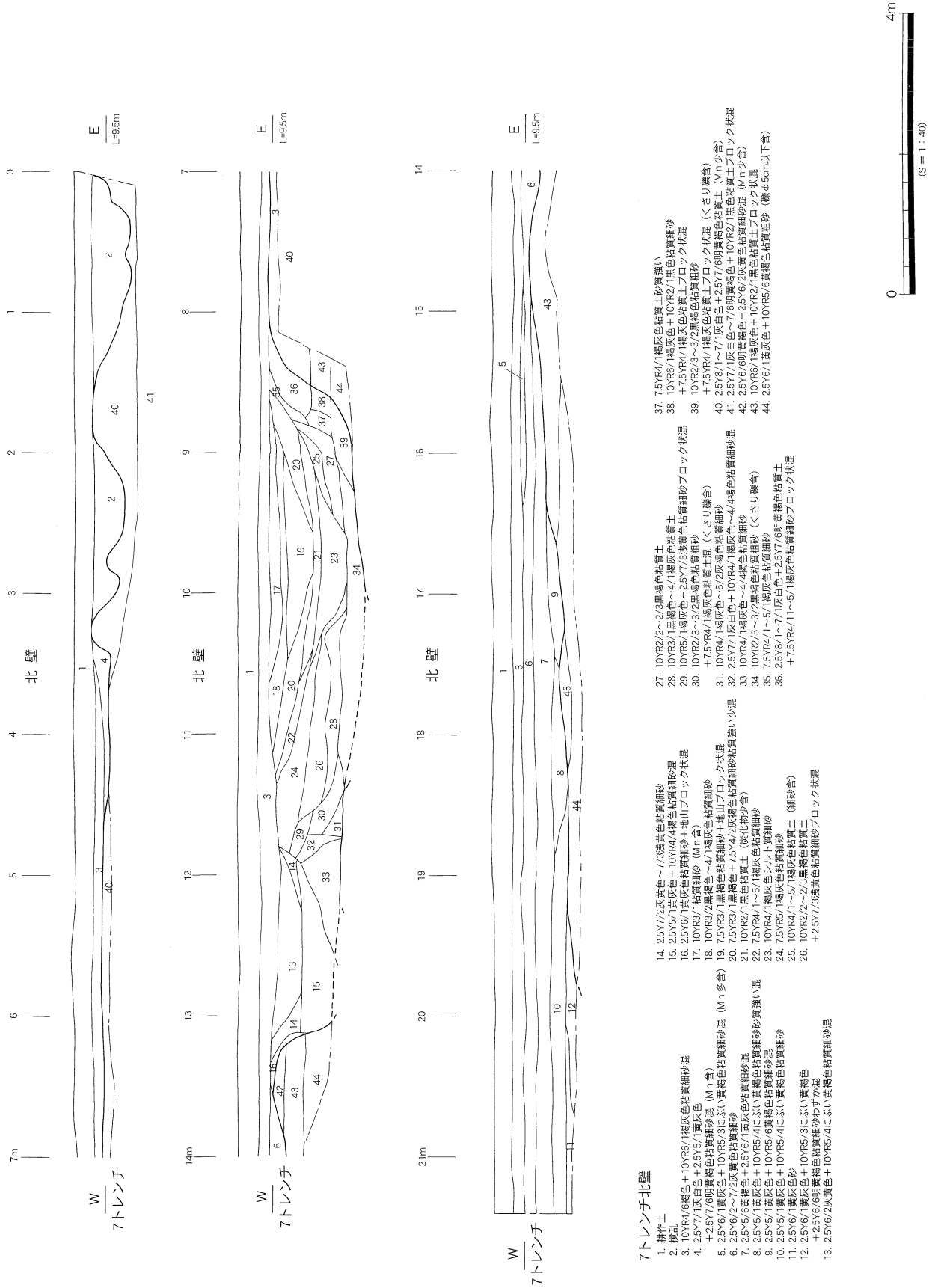


6トレンチ西壁

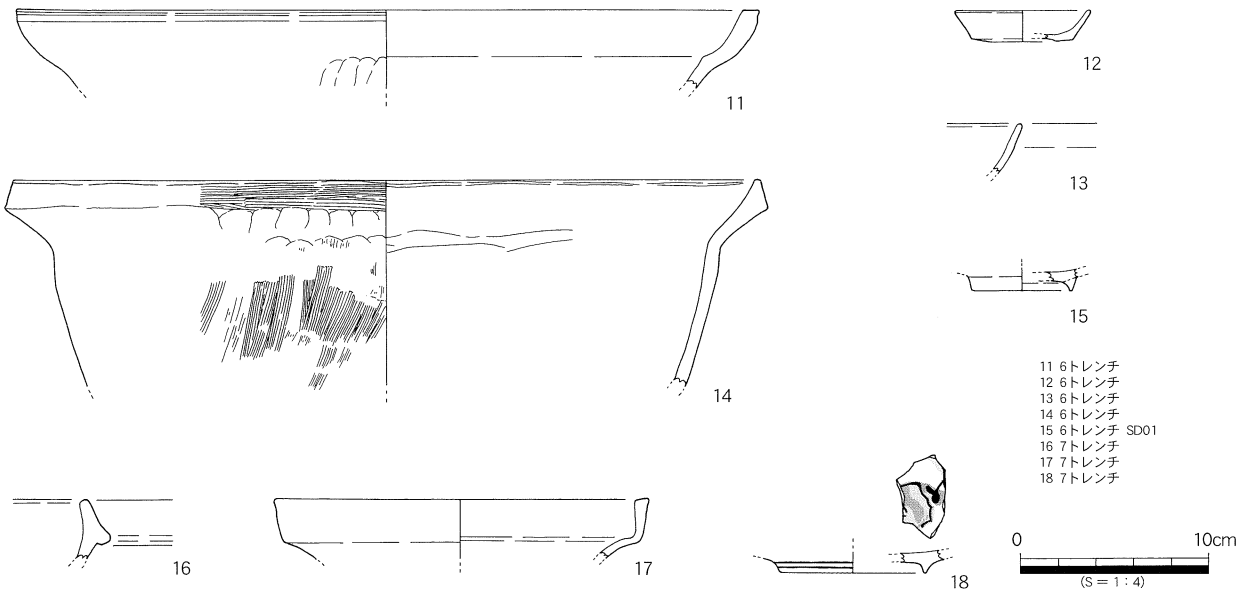
1. 耕作土
2. 7.5YR4/6褐色＋2.5Y6/2灰黄色粘質細砂混
3. 2.5Y6/2灰黄色＋2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂混（Mn少含）
4. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂わずか混
5. 2.5Y7/1灰白色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混（SD04埋土）
6. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混
7. 10YR3/1黒褐色＋10YR4/3にぶい黄褐色粘質細砂混＋3層ブロック状混（SD03埋土）
8. 2.5Y7/1灰白色＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混
9. 2.5Y7/1灰白色＋2.5Y6/6明黄褐色＋10YR4/1褐灰色粘質細砂混
10. 2.5Y6/2灰黄色～6/3にぶい黄色＋2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂混
11. 2.5Y6/2灰黄色～6/3にぶい黄色粘質細砂
12. 2.5Y7/3浅黄色～7/6明黄褐色粘質土
13. 2.5Y6/2灰黄色～6/3にぶい黄色粘質細砂
14. 2.5Y7/3浅黄色＋2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂少混
15. 10YR3/1黒褐色～4/1褐灰色粘質細砂粘質強い（SD02埋土）
16. 10YR4/1～5/1褐灰色粘質細砂（SD02埋土）
17. 10YR6/2灰黄褐色＋10YR4/1褐灰色粘質細砂ブロック状混
18. 2.5Y7/3浅黄色＋2.5Y7/6明黄褐色粘質細砂少混（Mn少含）
19. 2.5Y7/6明黄褐色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂混（Mn含）
20. 2.5Y7/2灰黄色＋2.5Y7/6明黄褐色粘質土混
21. 2.5Y7/3～7/4浅黄色粘質細砂（φ1cm以下Mn含）



第51図　6トレンチ断面図



第52図　7トレンチ断面図



第53図　6･7トレンチ出土遺物実測図

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	1.1m×25.6m	古代～中世	溝1	サヌカイト、土師器片、土師質土器片、須恵器片
2トレンチ	1.1m×19.0m	古代～中世	溝1	土師器片、土師質土器片、須恵器片、磁器片
3トレンチ	1.1m×12.8m	不明	土坑1	弥生土器片、土師器片
4トレンチ	1.1m×17.2m	古代～中世	溝2、土坑1	サヌカイト、土師器片、土師質土器片、須恵器片
5トレンチ	1.2m×20.5m	古代～中世	溝1	土師器片、土師質土器片、須恵器片、磁器
6トレンチ	1.3m×20.4m	弥生～中世	溝4	弥生土器片、サヌカイト、土師器片 土師質土器片、須恵器片、瓦器片
7トレンチ	1.4m×22.0m	弥生～中世	溝2	弥生土器片、土師器片、須恵器片、陶器片

第9表　田村町字橋の坪地区試掘調査　トレンチ概要

４．まとめ

今回の調査で、計画区域内で遺構の分布が確認された。確認された遺構は、ほとんどが溝で遺物がほとんど遺物を包含しないことから詳細は不明である。時代観は、他の遺跡から得られる情報等から弥生時代から中世に属するものと考えられる。

出土遺物も含めて希薄であることから、遺構の内容についても不明な点が多い。

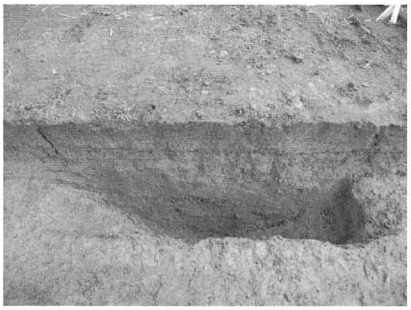
これらのことから検討すると、遺構の分布は見られるもののひとつは条里区画内の溝でもうひとつは旧河道もしくは谷地形である可能性があり、他に住居址等の遺構が見つかっていないことからも計画区域全域について保護措置は不要であるとの結論に至った。

調査前風景：南東から

調査風景

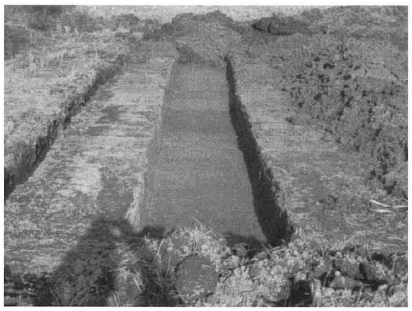
1トレンチ全景：北から

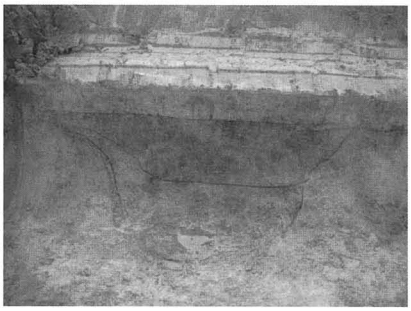
1トレンチ地形の落ち確認状況


1トレンチSD01

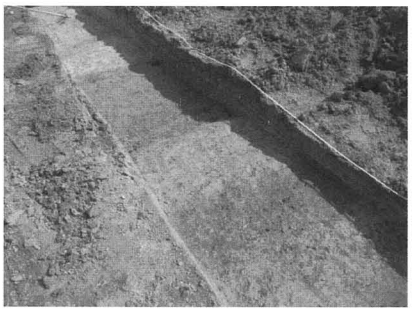
2トレンチ全景：北から

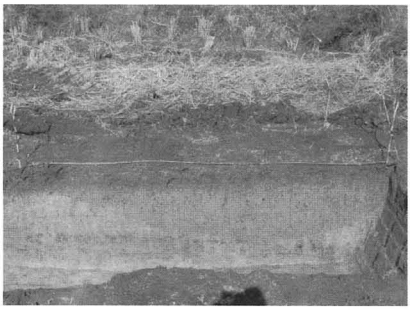
2トレンチSD01


3トレンチ全景：西から


3トレンチSK01確認状況

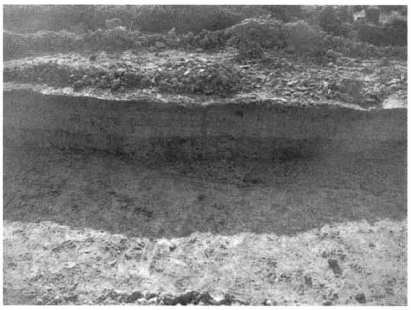
4トレンチ全景：東から


4トレンチSD01・02検出状況

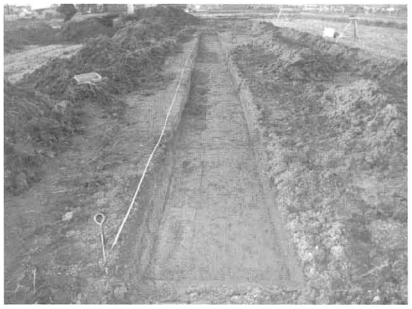

4トレンチSK01確認状況

5トレンチ全景：北から

5トレンチSD01検出状況


5トレンチSD01埋土

図版17　田村町字橋の坪地区試掘調査（1）

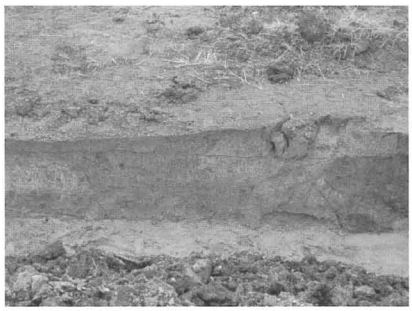


6トレンチ全景：南から

6トレンチSD群切り合い

6トレンチSD群切り合い

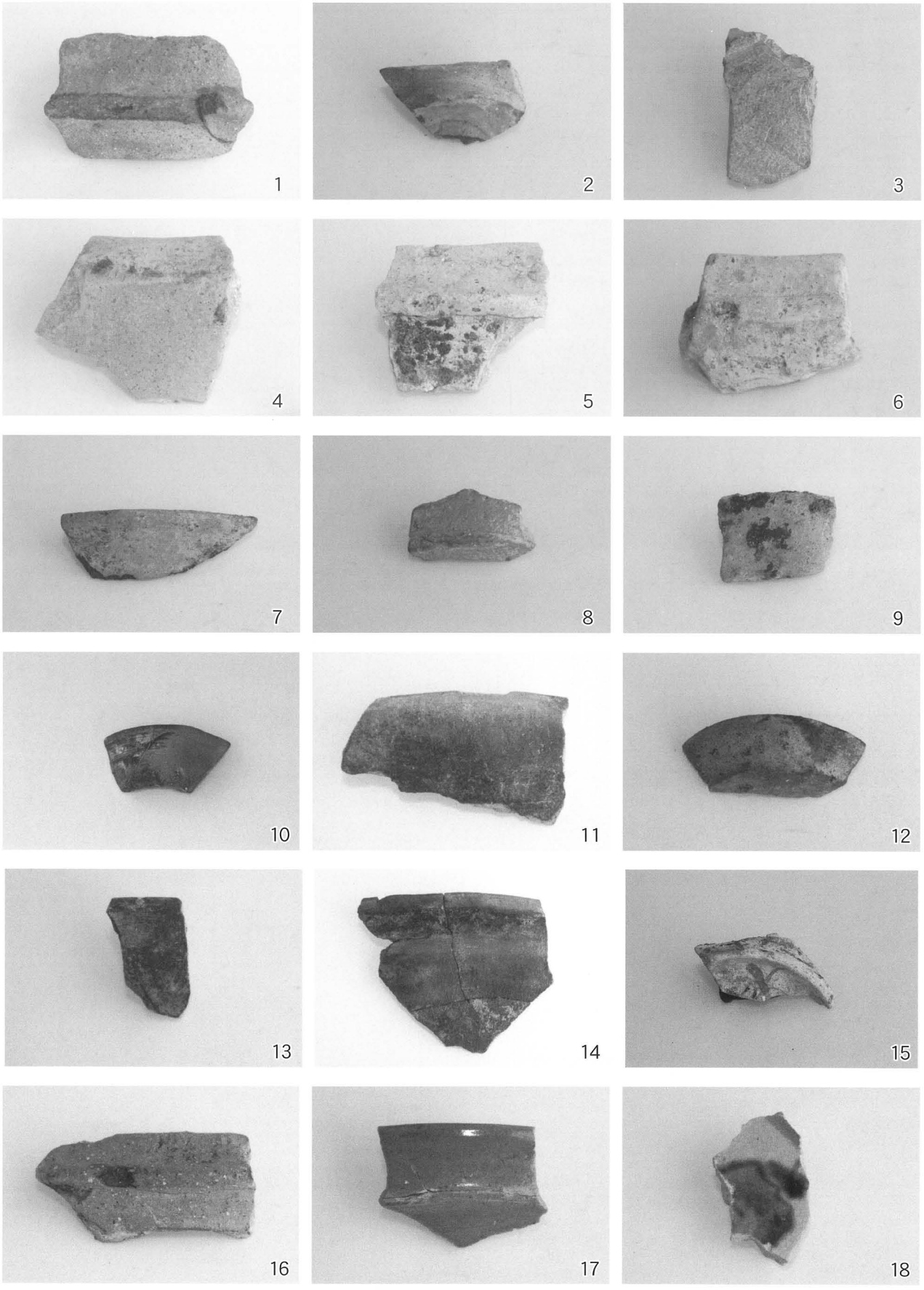
7トレンチ全景：南東から



7トレンチSD01土層

7トレンチSD02土層

図版18　田村町字橋の坪地区試掘調査（2）



図版19　田村町字橋の坪地区試掘調査(3)

飯野町東二字中代地区

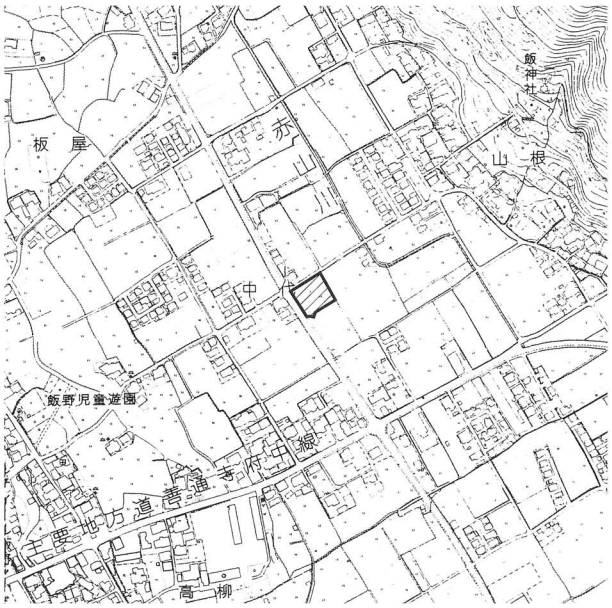
第XI章　飯野町東二字中代地区試掘調査

調査対象地　　飯野町東二字中代甲２５８－１、２６０－１、２６１－１、２５９－１、２５９－４
調査期間　　平成２０年１１月２５日～１１月２７日
調査面積　　約７６．０㎡（調査対象地面積２２１３．５６㎡）

１．立地と環境

計画区域は、丸亀平野中央より東寄りの飯野山西裾部に位置する。周辺の遺跡分布状況は南３００ｍ地点に『西坂元内板遺跡（弥生・古墳・中世：集落跡）』が所在している。また、北北東５００ｍ付近の飯野山の麓には『飯野山西麓散布地（弥生～古代：散布地）』が広範囲に渡り広がっている。この中には、数基の古墳や箱式石棺も含まれている。古墳の所在が確認されていることから、飯野山南西部に古墳時代の集落遺跡が展開していると考えられるが､未だ発見されていない。

対象地の東側は、周辺の土地より一段高くなっており、微高地であったことが考えられる。西側の田と併せて東面が曲線を描いており、東の田からレベルも下がることから旧河道である事が考えられる。



第54図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

店舗建設事業に伴い、平成２０年１１月１４日付けで埋蔵文化財の有無に関する照会文書が提出された。それに伴い周辺の状況を考慮し推察すると、古墳集落の分布候補地のひとつにあげることができる。このことを基に検討した結果、試掘調査を実施することとした。１１月１９日に踏査を行った結果、耕作土中に土器の細片の散布を確認した。１１月２５日から３日間かけて調査を行った。結果、弥生時代の土器片を含む包含層が見られるが、明確な遺構が伴わず遺構密度も非常に薄いことから、県と協議し、計画区域全域について保護措置は不要と考えられる事を１１月２３日付けで事業者に回答した。

３．調査の概要

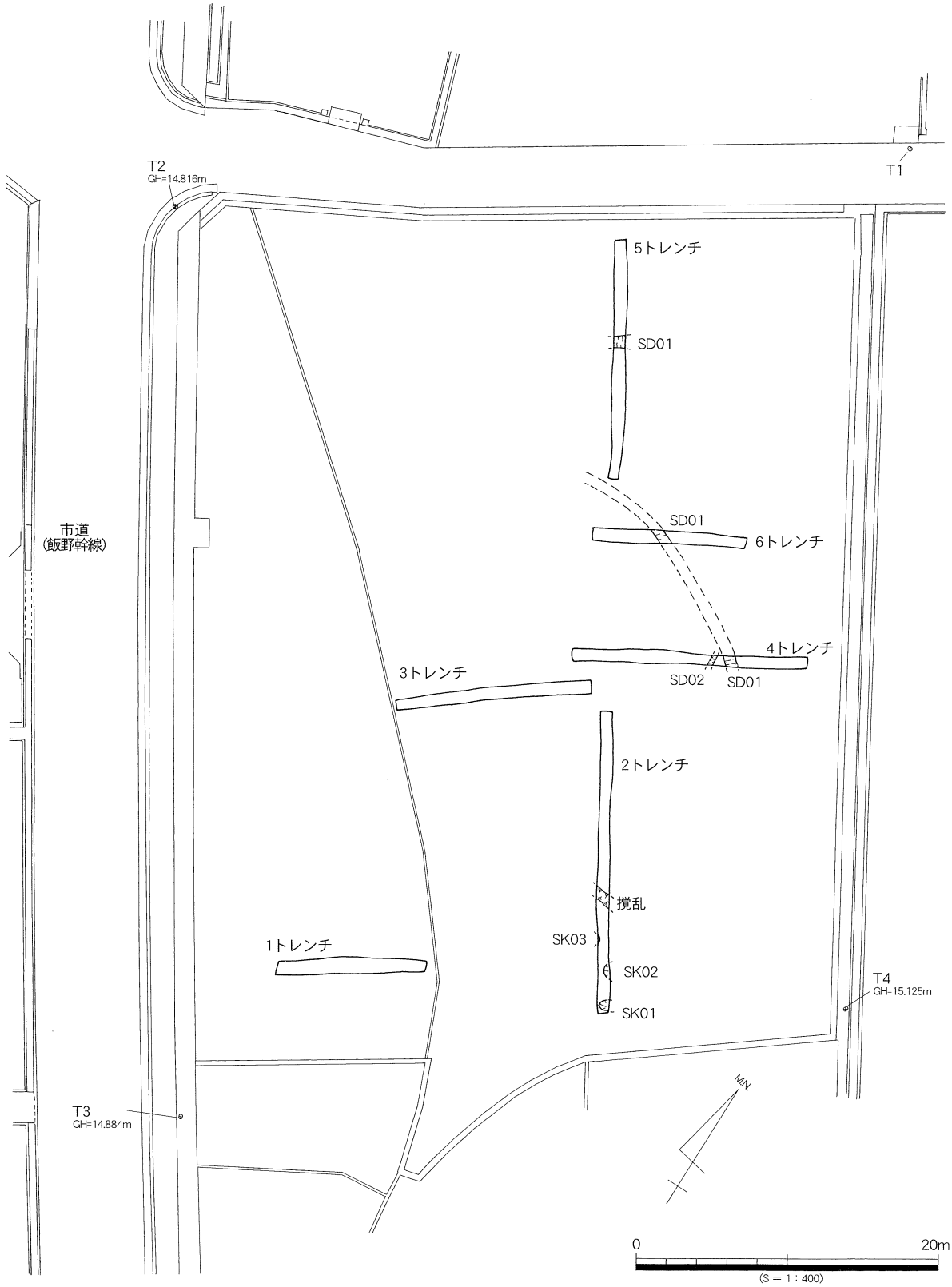
調査は、重機掘削によるトレンチ調査とした。以下、トレンチ毎の概要を報告する。

【１トレンチ】

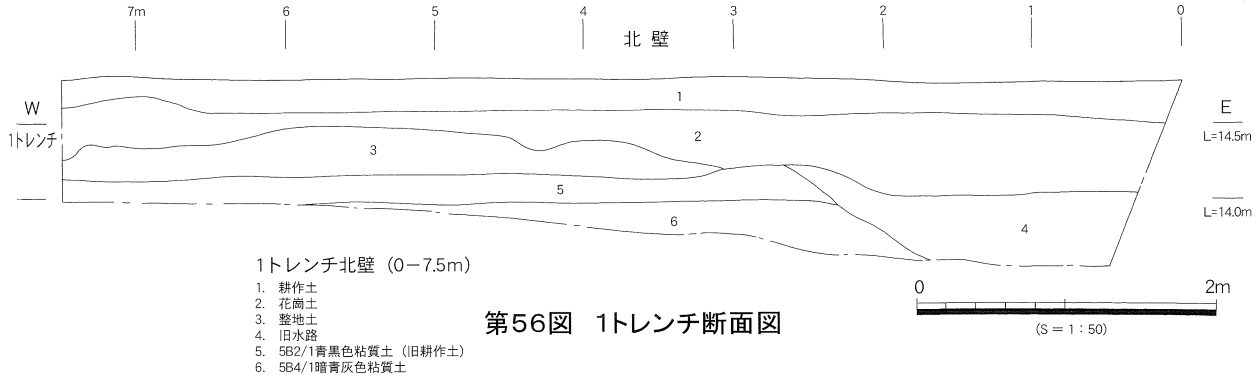
計画地西端の一段低い田に東西軸で設定した。聞き取り及び地形調査から旧河道域である可能性が非常に高いことがわかっていたので、それを確認するためのトレンチとした。田の東端で、聞き取りで判明していた最近まで使用していた水路跡が確認され、水路の埋土から弥生土器片が出土した。水路の肩口のレベルに合うように旧水田の耕作土が認められる。旧耕作土の下面が現況から８０㎝ほど下がっていることから、東からの連続する微高地は存在しないと考えられる。

【２トレンチ】

南端付近で３基の土坑を検出した。検出面は、耕作土下面より４０㎝ほど下層で、その間は砂質の強い層が堆積する。床土直下の層は、整地土である可能性が高い。土坑の埋土は、灰黄色系で弥生土器や土師器を少量包含する。ベース層の上層には、弥生土器片を多く包含する（遺物１、２）が遺構は伴わない。遺物３はSK０２出土の弥生時代後期の壷である。

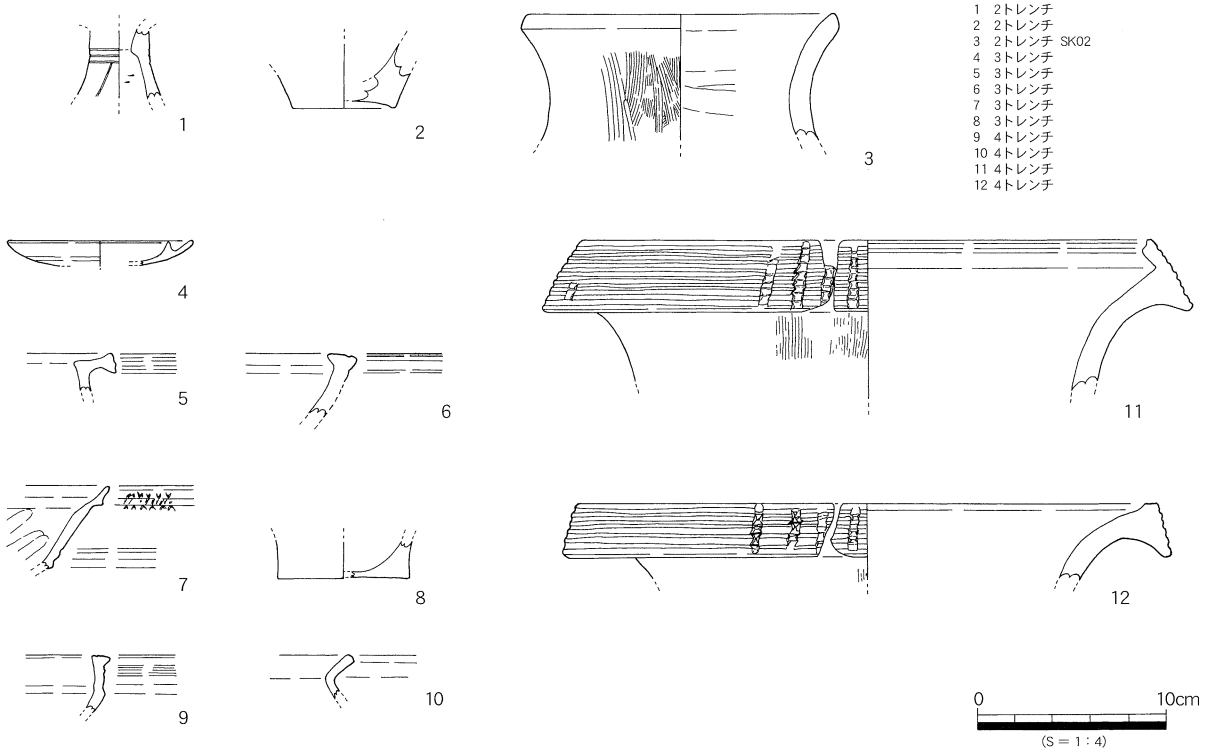


第55図　トレンチ配置図



1トレンチ北壁（0－7.5m）
1. 耕作土
2. 花崗土
3. 整地土
4. 旧水路
5. 5B2/1青黒色粘質土（旧耕作土）
6. 5B4/1暗青灰色粘質土

第56図　1トレンチ断面図



1　2トレンチ
2　2トレンチ
3　2トレンチ SK02
4　3トレンチ
5　3トレンチ
6　3トレンチ
7　3トレンチ
8　3トレンチ
9　4トレンチ
10　4トレンチ
11　4トレンチ
12　4トレンチ

第57図　出土遺物実測図

【３トレンチ】

東端から０～７ｍ付近にかけては、耕作土下面より２５㎝ほど下層で黒褐色の包含層が堆積し、遺物５～８が出土した。その上層でも弥生土器片は包含されるが、耕作土直下付近では土師器土鍋片や鉢片が出土する。遺構は認められない。７ｍ地点から西は大きく掘削を受けているようで、溝状に下りトレンチ西端まで継続する。撹乱を受けているのか旧河道域の肩口であるのかの判断はできないが、２トレンチの遺構面と比べると検出レベルがかなり高いことから、撹乱である可能性が高い。ここから４の備前の灯明皿が出土している。

【４トレンチ】

中央で溝２条を検出する。遺構面は、２トレンチのものと対応するものと考えられる。遺構面の直上付近の層からは弥生土器の鉢９、甕１０が出土した。形状から弥生時代中期に属するものと考えられる。溝からは遺物の出土が無く、詳細は不明である。９層からは貼付け突帯文の口縁を持つ弥生中期の壷１１、１２が出土した。

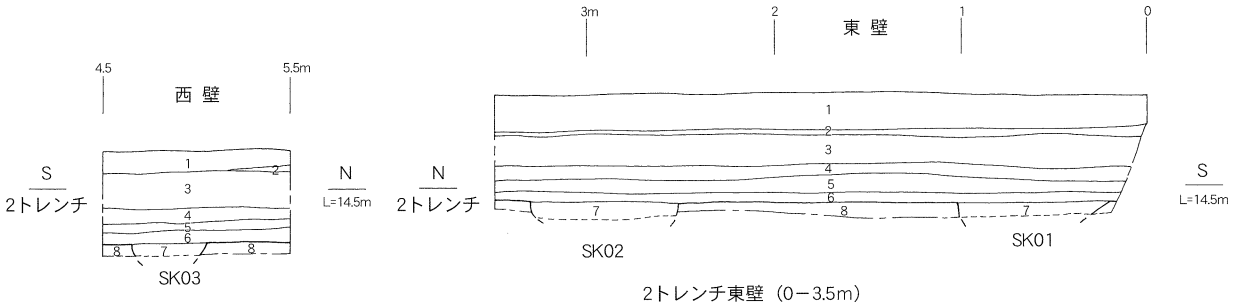
【５トレンチ】

東西軸の溝を検出した。検出面は、他のトレンチと対応すると思われる。埋土からの遺物は認められなかったが、上面の層から弥生土器甕片が出土した。

【６トレンチ】

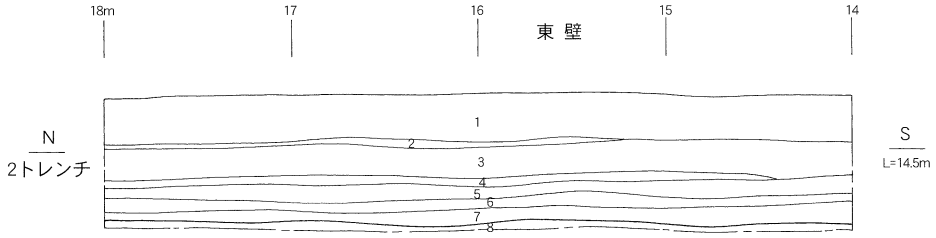
４トレンチで検出した溝の方向を探るために４トレンチの北側に並行するよう、東西軸で設定した。トレ

ンチ中央で南東から北西に斜行する溝を検出した。検出面は、他のトレンチより僅かに高い。溝から遺物は検出されていない。

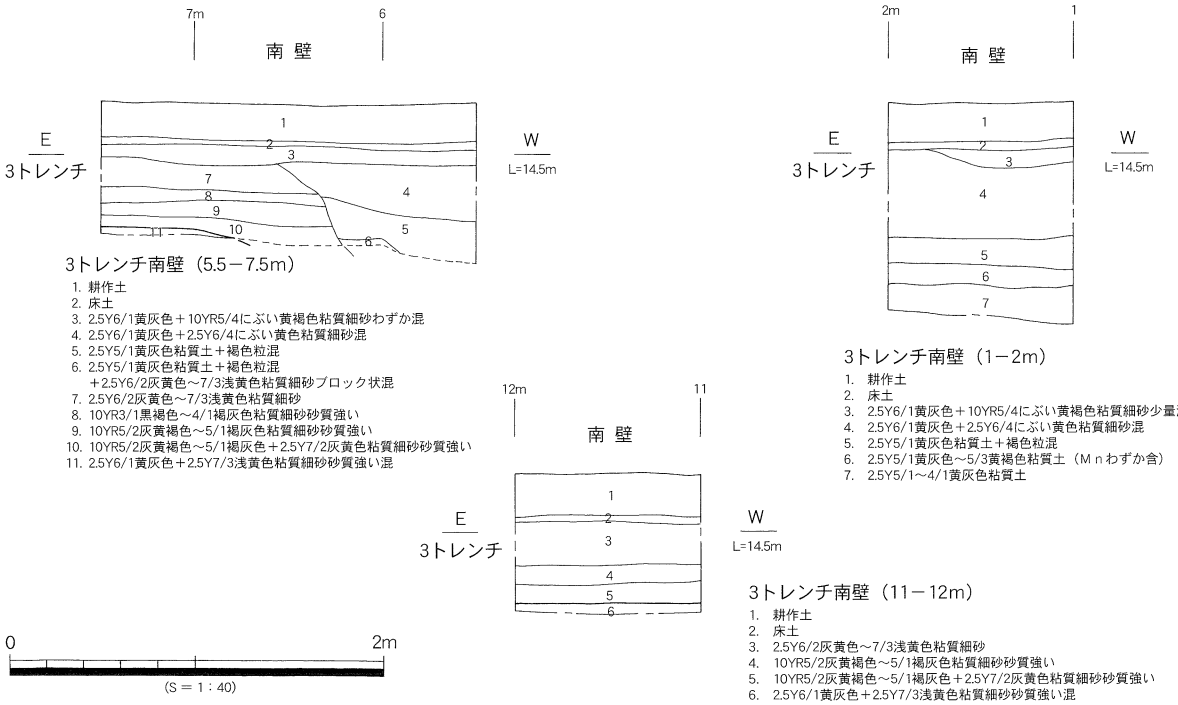


2トレンチ西壁（4.5－5.5m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/4にぶい黄色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
4. 10YR3/1黒褐色～4/1褐灰色粘質細砂砂質強い
5. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色粘質細砂砂質強い
6. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色
＋2.5Y7/2灰黄色粘質細砂砂質強い混
7. 10YR4/2～5/2灰黄褐色粘質細砂
＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂砂質強い＋2.5Y4/1黄灰色粘質土わずか混
8. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂砂質強い混

2トレンチ東壁（0－3.5m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/4にぶい黄色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
4. 10YR3/1黒褐色～4/1褐灰色粘質細砂砂質強い
5. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色粘質細砂砂質強い
6. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色＋2.5Y7/2灰黄色粘質細砂砂質強い
7. 2.5Y7/2～6/2灰黄色粘質細砂砂質強い（Mn・炭化物含）
8. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂砂質強い混



2トレンチ東壁（14－18m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/4にぶい黄色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
4. 2.5Y4/2暗灰黄色粘質細砂粘質強い（Mn多含）
5. 10YR3/1黒褐色～4/1褐灰色粘質細砂砂質強い
6. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色粘質細砂砂質強い
7. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色＋2.5Y7/2灰黄色粘質細砂砂質強い
8. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂砂質強い混

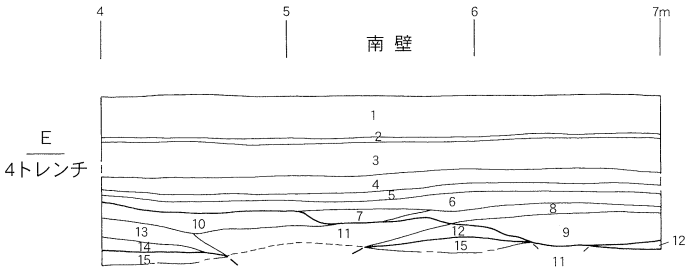


3トレンチ南壁（5.5－7.5m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂わずか混
4. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂混
5. 2.5Y5/1黄灰色粘質土＋褐色粒混
6. 2.5Y5/1黄灰色粘質土＋褐色粒混
＋2.5Y6/2灰黄色～7/3浅黄色粘質細砂ブロック状混
7. 2.5Y6/2灰黄色～7/3浅黄色粘質細砂
8. 10YR3/1黒褐色～4/1褐灰色粘質細砂砂質強い
9. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色粘質細砂砂質強い
10. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色＋2.5Y7/2灰黄色粘質細砂砂質強い
11. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂砂質強い混

3トレンチ南壁（1－2m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂少量混
4. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂混
5. 2.5Y5/1黄灰色粘質土＋褐色粒混
6. 2.5Y5/1黄灰色～5/3黄褐色粘質土（Mnわずか含）
7. 2.5Y5/1～4/1黄灰色粘質土

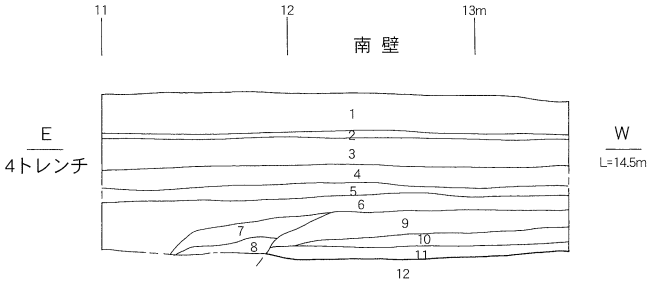
3トレンチ南壁（11－12m）
1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/2灰黄色～7/3浅黄色粘質細砂
4. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色粘質細砂砂質強い
5. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色＋2.5Y7/2灰黄色粘質細砂砂質強い
6. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y7/3浅黄色粘質細砂砂質強い混

第58図　2・3トレンチ断面図



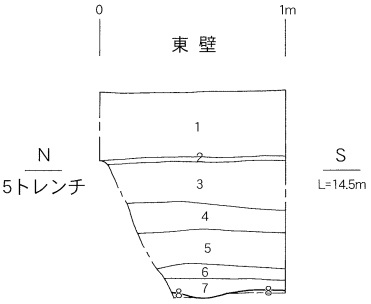
4トレンチ南壁（4－7m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混
4. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混（Mn少量含）
5. 10YR4/1～5/1褐灰色粘質細砂
6. 10YR3/1黒褐色～4/1褐灰色粘質細砂砂質強い
7. 2.5Y3/1～3/2黒褐色粘質細砂
8. 10YR3/2黒褐色粘質細砂
9. 2.5Y3/2黒褐色～4/3オリーブ褐色粘質細砂砂質強い
10. 10YR2/2～2/3黒褐色粘質細砂粘質強い
11. 10YR2/1黒色粘質細砂砂質強い
12. 10YR4/2灰黄褐色粗砂
13. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色
＋2.5Y4/3オリーブ褐色粘質粗砂混
14. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粗砂
＋2.5Y6/2灰黄色粗砂ブロック状混
15. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粗砂



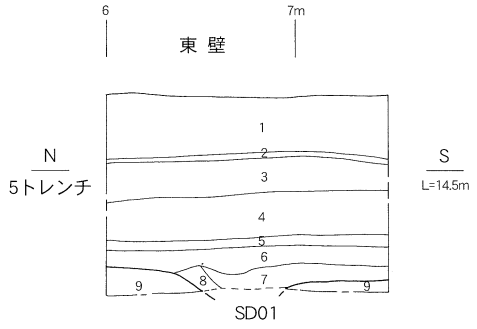
4トレンチ南壁（11－13.5m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混
4. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混（Mn少量含）
5. 10YR4/1～5/1褐灰色粘質細砂
6. 2.5Y3/2黒褐色粘質細砂
＋10YR5/6黄褐色粘質細砂粘質強い混（炭化物含）
7. 10YR3/1～3/2黒褐色粘質細砂粘質強い
8. 10YR4/2灰黄褐色粗砂
9. 10YR3/1黒褐色～4/1褐灰色粘質細砂砂質強い
10. 10YR5/2灰黄褐色～5/1褐灰色粘質細砂砂質強い
11. 10YR4/2灰黄褐色細砂
12. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粗砂



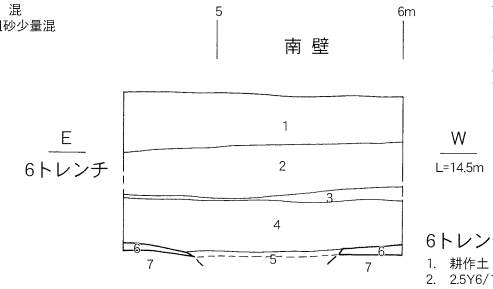
5トレンチ東壁（0－1m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混
4. 2.5Y6/1黄灰色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混（Mn少含）
5. 2.5Y4/1黄灰色＋10YR4/4褐色粘質細砂混
6. 10YR3/1黒褐色粘質細砂＋砂粒（φ1mm）混
7. 2.5Y4/1黄灰色＋2.5Y6/3にぶい黄色粘質粗砂少量混
8. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粗砂



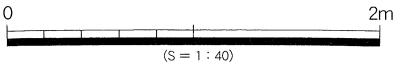
5トレンチ東壁（6－7.5m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混
4. 2.5Y6/1黄灰色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混（Mn少含）
5. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
6. 10YR3/1黒褐色～5/1褐灰色粘質細砂＋10YR4/6褐色粘質細砂混
7. 2.5Y3/1黒褐色～4/1黄灰色粘質粗砂
8. 2.5Y2/1黒色粘質粗砂
9. 2.5Y4/1黄灰色＋2.5Y6/3にぶい黄色粘質粗砂少量混



6トレンチ南壁（4.5－6m）

1. 耕作土
2. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混
3. 2.5Y6/1黄灰色粘質土＋10YR5/6黄褐色粘質細砂少量混（Mn少含）
4. 2.5Y4/1黄灰色＋10YR4/4褐色粘質細砂少量混
5. 2.5Y2/1黒色粘質粗砂
6. 2.5Y4/1黄灰色＋2.5Y6/3にぶい黄色粘質粗砂少量混
7. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粗砂



第59図　4～6トレンチ断面図

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
1トレンチ	1.1m×9.9m	弥生	無し	弥生土器片
2トレンチ	0.8m×20.0m	弥生～中世	土坑3	弥生土器片、サヌカイト片、土師器片、土師質土器片
3トレンチ	0.9m×12.9m	弥生～中世	無し	弥生土器片、サヌカイト片、土師器片
4トレンチ	0.9m×15.6m	弥生	溝2	弥生土器片
5トレンチ	0.9m×15.8m	弥生	溝1	弥生土器片
6トレンチ	0.9m×10.2m	弥生	溝1	弥生土器片

第10表　飯野町東二字中代地区試掘調査　トレンチ概要

以上調査区域内の東寄りの数箇所で溝を検出することができた。南端付近では土坑群が検出されたが詳細は不明である。ほぼ全域において、遺物包含層が認められるが、検出される遺構の同様の埋土から弥生土器と土師器が出土することから、遺構としては中世に属するものと思われる。今回の調査で得られた資料が少ないことから詳細な内容を掴み取ることは不可能であった。

弥生土器の包含層には砂が多く混じっていることから、飯野山の表土が降雨等によって流れてきたものと思われる。飯野山山塊には、弥生時代中期の遺跡が展開していることから、この遺物が土砂と一緒に流れ込んだものと見た方がいいと思われる。

確認できた遺構の種別は、溝3条と土坑3基であり、全てにおいてその詳細を掴み取れる内容ではなかった。立地条件から考えると集落遺跡の一部であると思われる。

4．まとめ

今回の調査で、計画区域東半部で遺構を検出することができた。遺構面の上層には弥生時代の土器片を含む包含層が見られるが、明確な遺構が伴わない。同一面の遺構から土師器の出土も見られることから、後世の影響を受けているものである可能性も否定できない。

これらのことから検討した結果、計画区域の一部で遺構は検出されたがそれらの詳細をつかめる資料を得られるまでには至らず、遺構密度も非常に薄いことから、計画区域全域について保護措置は不要であるとの結論に至った。

調査前風景：北西から

調査風景

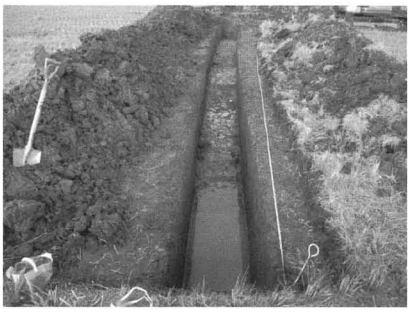
1トレンチ全景：東から

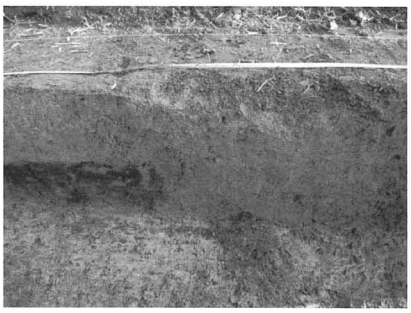
1トレンチ旧水路

2トレンチ全景：南から

2トレンチSK01検出状況

2トレンチSK02検出状況

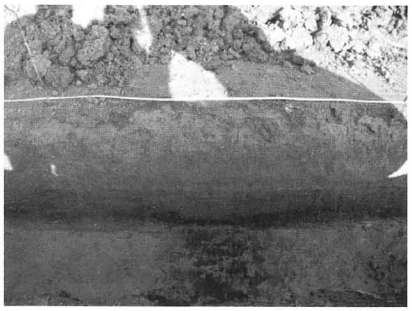

3トレンチ全景：西から

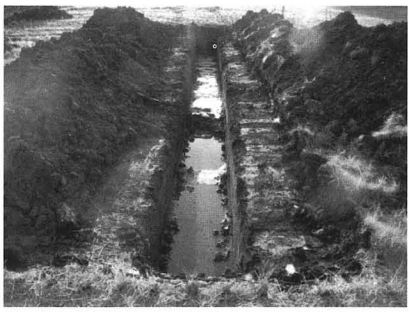

3トレンチ中央の段落ち部

4トレンチ全景：東から

4トレンチSD01・02検出状況

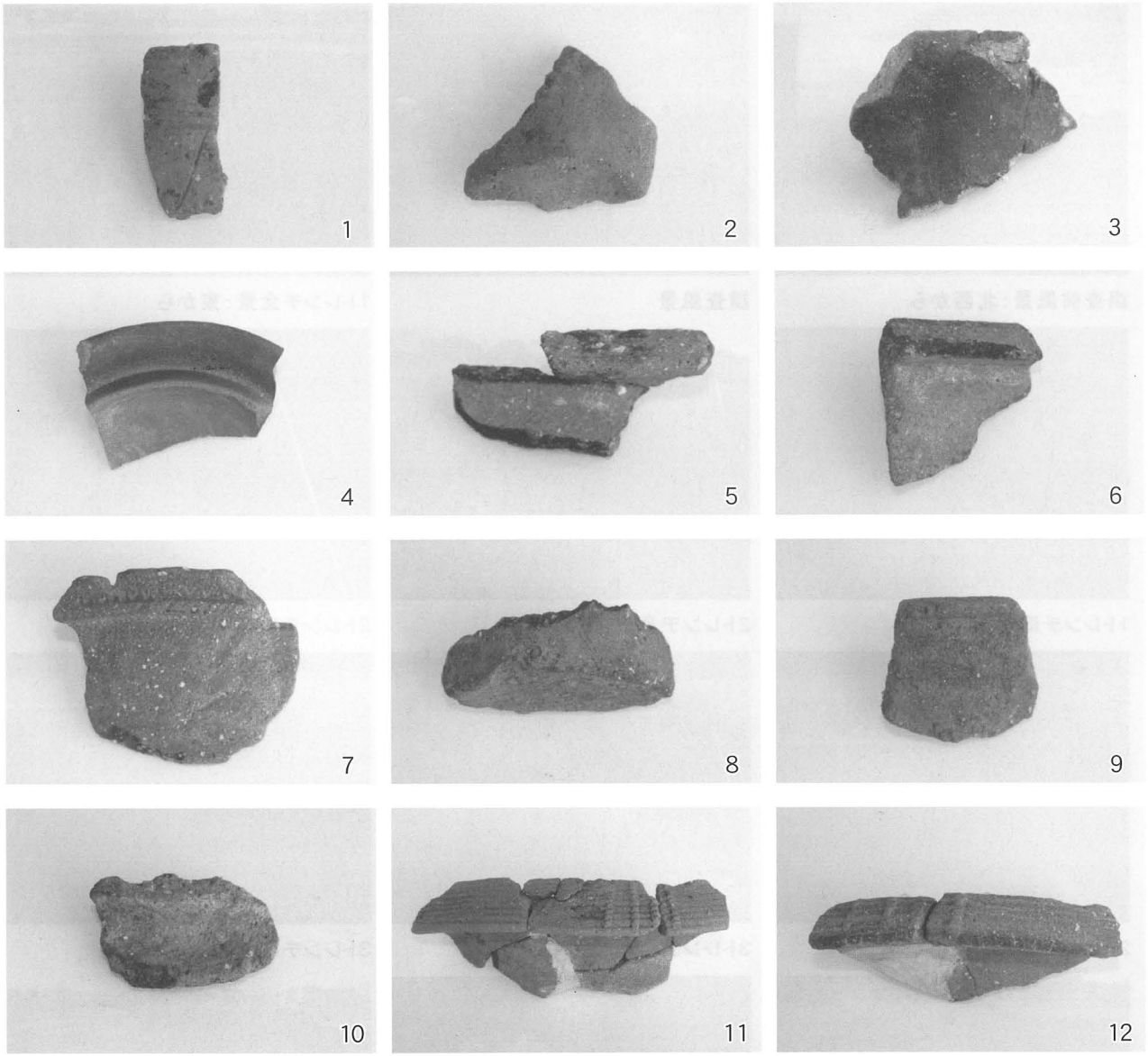
5トレンチ全景：北から


5トレンチSD01検出状況


6トレンチ全景：東から

6トレンチSD01検出状況

図版20　飯野町東二字中代地区試掘調査（1）



図版21　飯野町東二字中代地区試掘調査(2)

綾歌町富熊字蔵ノ内地区
【蔵ノ内遺跡】

第Ⅻ章　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査

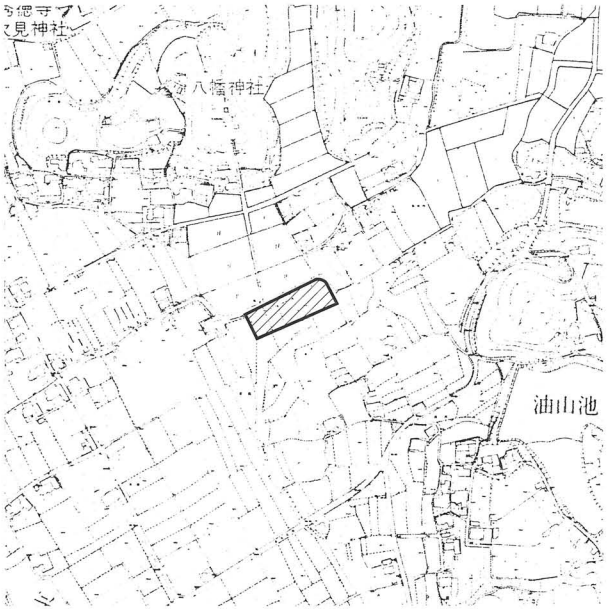
調査対象地　　綾歌町富熊字蔵ノ内２５００－１、２５００－２、２５００－３、２５０１、２５０２
調査期間　　平成２０年１２月１６日～１２月１８日
調査面積　　約１２９㎡（調査対象地面積４０３９㎡）

１．立地と環境

計画区域は、丸亀平野南部の東端付近に位置する。北には横山から西に派生する丘陵、南西には岡田台地がそれぞれ迫っており、平野としては若干絞り込まれている。周辺には、富士見坂団地のある丘陵部に『地神山古墳群（古墳：古墳）』が所在し、平野部では北側１００ｍ地点に『庄遺跡（弥生～中世：集落跡）』、南１５０ｍ 地点に『塔寺遺跡（不明：包含地）』が所在している。また、北の正八幡神社のある丘陵上には『宮前八幡神社古墳（古墳：古墳）』が、更に西に延びる尾根斜面部には『次見遺跡（弥生：集落跡）』が所在する。東方に聳える横山丘陵には、『横山経塚古墳群（古墳：古墳）』をはじめとする積石塚前方後円墳が多く築かれている。

これらのことから、この付近は弥生時代から古墳時代にかけて特に活発な地域であったことが読み取れる。

計画区域は、南の塔寺遺跡のある付近から緩やかに延びる微高地の先端部付近にあたる。



第60図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

平成２０年１２月１日付けで、事業者より分譲住宅開発に伴う埋蔵文化財の有無に関する照会が提出された。当該地は、立地としては非常に安定しており、北側の谷部を挟んだ北対岸部に庄遺跡が所在することからも同様の遺跡が所在する可能性は極めて高いと考えられる。このことを基に検討した結果、試掘調査を実施することとした。試掘調査は、重機掘削によるトレンチ調査とした。

調査の結果まとまって遺構の分布が見られるエリアが認められたことから保護措置が必要であると考えられた。その他の範囲については、遺物包含層は見られるものの旧河道域であり遺構の分布が考えられないことから、今後の保護措置は不要であるとの結論に至った。この旨を平成２１年１月１９日付けで回答した。

３．調査の概要

【１トレンチ】

耕作土下２５㎝程で須恵器甕片等を包含する層が見られるが、遺構は認められない。

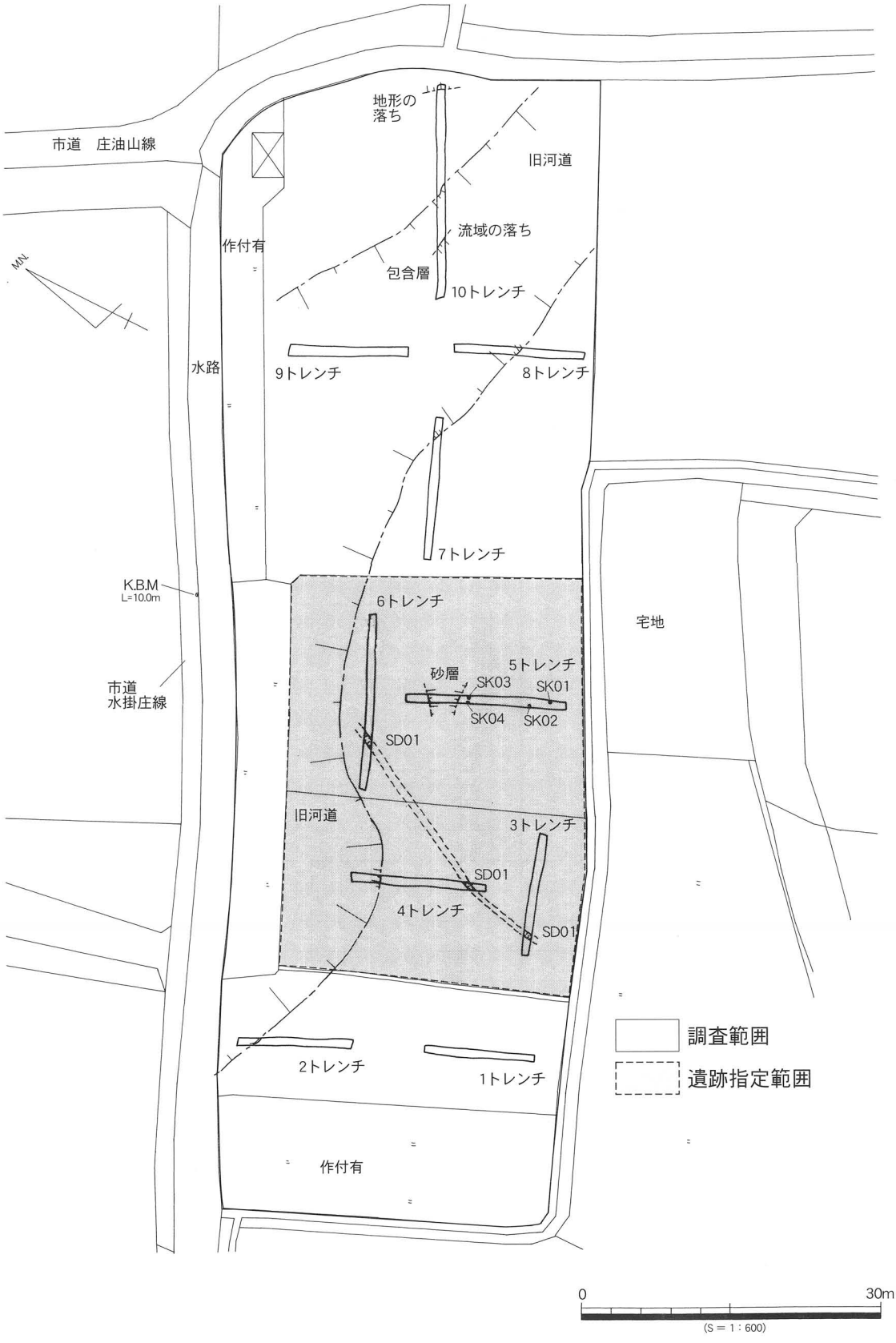
【２トレンチ】

トレンチ北端付近で撹乱を受ける箇所を確認する。包含層が認められ９層からは、遺物１が出土した。十瓶産の１２Ｃ後半期の捏鉢である。遺構は検出されなかった。撹乱部と同じあたりでベース層が北に下る。北の田が一段低く谷地形の肩部分と考えられる。２、３は３層から出土した。陶器の鍋が出土している。

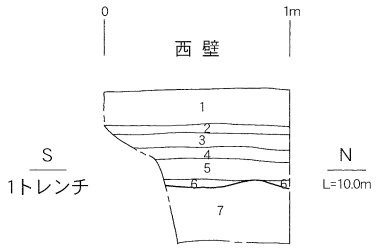
【３トレンチ】

西端付近でトレンチに対して斜行する溝を検出するが遺物の包含は認められない。包含層からは、５土師器の小皿、６内側を炭化処理した黒色土器碗、７、８底部などが出土する。弥生土器の壺底部４や、須恵質

の口縁片、端部に炭化処理が見える。他に陶器の壺１０なども見られる。出土量は比較的多い

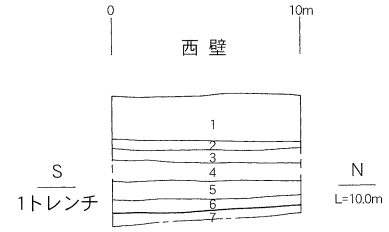


第61図　トレンチ配置図



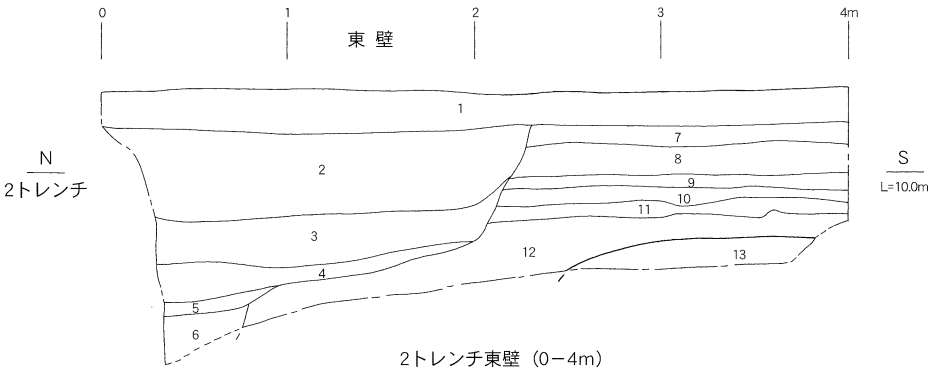
1トレンチ西壁（0－1m）

1. 耕作土
2. 花崗土
3. 2.5Y5/2暗灰黄色＋2.5Y5/3黄褐色
   粘質細砂マーブル状混
4. 2.5Y5/2暗灰黄色＋2.5Y5/3黄褐色
   粘質細砂マーブル状混（Mn多含）
5. 2.5Y6/1黄灰色～2.5Y5/4黄褐色
   粘質細砂砂質強い（Mn少含）
6. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂粘質強い
7. 2.5Y6/2灰黄色～5/4黄褐色
   粘質土マーブル状混（Mn含）



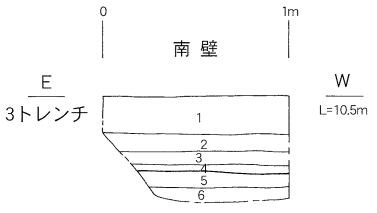
1トレンチ西壁（9－10m）

1. 耕作土
2. 花崗土
3. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/3黄褐色粘質細砂
4. 2.5Y5/4黄褐色～6/1黄灰色粘質細砂砂質強い
5. 2.5Y6/2灰黄色～5/4黄褐色粘質細砂
6. 2.5Y6/3にぶい黄色＋6/2灰黄色粘質細砂粘質強い
   ブロック状混（Mn多含）
7. 2.5Y6/3にぶい黄色～6/6明黄褐色粘質土（Mn含）



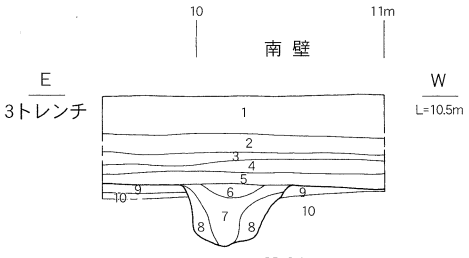
2トレンチ東壁（0－4m）

1. 耕作土
2. 撹乱
3. 2.5Y5/2暗灰黄色砂（φ1～5mm砂粒含・遺物含）
4. 10YR6/1褐灰色＋10YR5/3にぶい黄褐色粘質細砂混
5. 10YR5/1褐灰色＋5B4/1暗青灰色粘質土混
6. 5B4/1暗青灰色粘質土
7. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂混
8. 2.5Y6/1黄灰色～5/4黄褐色粘質細砂砂質強い（Mn少含）
9. 2.5Y6/1黄灰色～5/4黄褐色粘質細砂砂質強い
   ＋10YR4/4褐色粘質細砂混（Mn少含）
10. 10YR6/1黄灰色＋10YR4/4褐色粘質細砂（Mn含）
11. 10YR6/1褐灰色＋10YR3/3暗褐色粘質細砂少混砂質強い
12. 10YR3/4暗褐色＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂少混（Mn多含）
13. 2.5Y6/2灰黄色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混



3トレンチ南壁（0－1m）

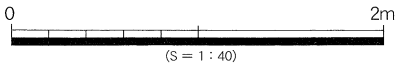
1. 耕作土
2. 2.5Y5/1黄灰色～5/6黄褐色粘質細砂砂質強い
3. 2.5Y5/6黄褐色～6/1灰黄色粘質細砂（Mn含）
4. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
5. 2.5Y5/3～5/4黄褐色粘質土（Mn多含）
6. 2.5Y5/3～5/4黄褐色粘質土（Mn多含）
   ＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂ブロック状混



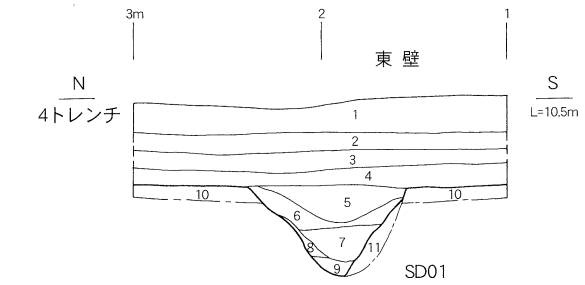
SD01

3トレンチ南壁（9.5－11m）

1. 耕作土
2. 2.5Y5/1黄灰色～5/6黄褐色粘質細砂砂質強い
3. 2.5Y5/6黄褐色～6/1灰黄色粘質細砂（Mn含）
4. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
5. 2.5Y5/4黄褐色～6/6明黄褐色粘質細砂
6. 2.5Y5/1～4/1黄灰色粘質細砂（Mn多含）
7. 2.5Y3/1黒褐色～2/1黒色粘質土
8. 2.5Y4/1黄灰色＋2.5Y4/6オリーブ褐色
   粘質細砂砂質強い＋小石まばら混
9. 2.5Y5/3～5/4黄褐色粘質土（Mn多含）
10. 2.5Y5/3～5/4黄褐色粘質土（Mn多含）
    ＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂ブロック状混

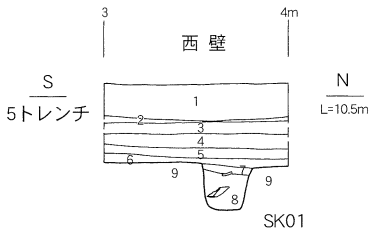


第62図　1～3トレンチ断面図



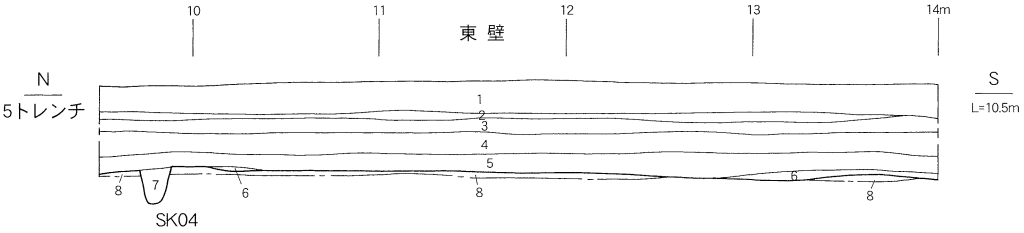
4トレンチ東壁（1－3m）

1. 耕作土
2. 2.5Y5/6黄褐色～6/1黄灰色粘質細砂砂質強い
3. 2.5Y6/1黄灰色～5/6黄褐色粘質細砂砂質強い（Mn多含）
4. 2.5Y5/4黄褐色～6/6明黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y5/1～6/1黄灰色粘質細砂
   ＋2.5Y4/6オリーブ褐色粘質細砂ブロック状混
6. 2.5Y3/1黒褐色＋2.5Y4/6オリーブ褐色
   粘質細砂ブロック状混
7. 2.5Y3/1黒褐色～2/1黒色粘質土
8. 2.5Y4/1黄灰色＋3/1黒褐色
   ＋2.5Y4/6オリーブ褐色粘質土ブロック状混
9. 2.5Y6/1黄灰色粘質極細砂
10. 2.5Y5/3～5/4黄褐色粘質土（Mn多含）
11. 2.5Y5/3～5/4黄褐色粘質土（Mn多含）
    ＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂ブロック状混



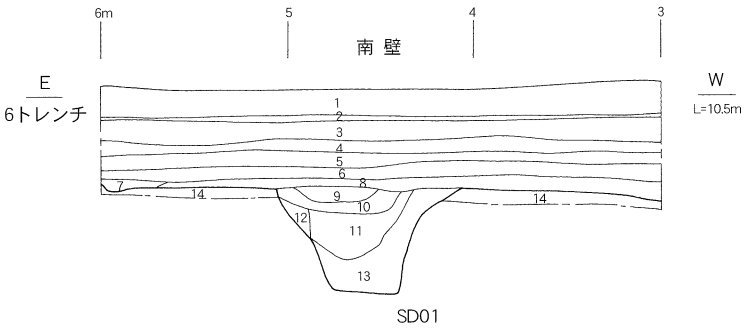
5トレンチ西壁（3－4m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
4. 10YR5/6黄褐色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
5. 10YR4/6褐色＋2.5Y5/1黄灰色
   粘質細砂少混（Mn含）
6. 2.5Y5/1黄灰色＋10YR4/6褐色粘質細砂（Mn含）混
7. 10YR4/1褐灰色粘質細砂（Mn含）
8. 10YR4/1～5/1褐灰色粘質細砂（Mn少含）
9. 2.5Y7/2灰黄色～6/4にぶい黄色粘質細砂（Mn含）



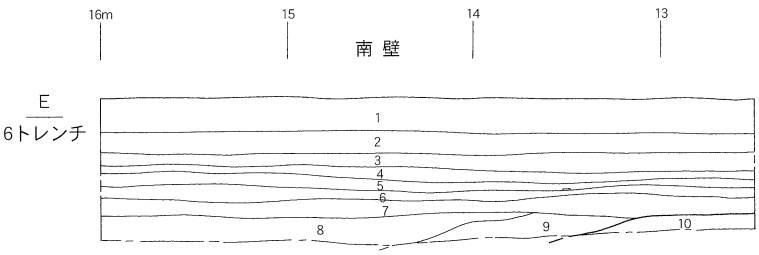
5トレンチ西壁（9.5－14m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
4. 10YR5/6黄褐色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
5. 10YR4/6褐色＋2.5Y5/1黄灰色
   粘質細砂少混（Mn含）
6. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂砂質強い（Mn少含）
7. 10YR5/1褐灰色粘質細砂（Mn含）
8. 2.5Y7/2灰黄色～6/4にぶい黄色粘質細砂（Mn含）



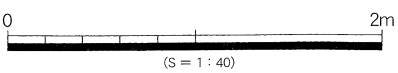
6トレンチ南壁（3－6m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂
4. 2.5Y5/4～5/6黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y5/4～5/6黄褐色粘質細砂
   ＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂混
6. 2.5Y6/2灰黄色＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂混
7. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
8. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂（Mn混）
9. 2.5Y5/1黄灰色＋10YR2/2黒褐色
   粘質細砂ブロック状混
10. 10YR3/1～3/2黒褐色粘質細砂（くさり礫含）
11. 10YR2/1黒色粘質土
12. 10YR4/1褐灰色粘質細砂
13. 10YR3/1黒褐色粘質細砂
    ＋2.5Y7/2灰黄色～6/4にぶい黄色粘質細砂混（Mn含）
14. 2.5Y7/2灰黄色～6/4にぶい黄色粘質細砂（Mn含）

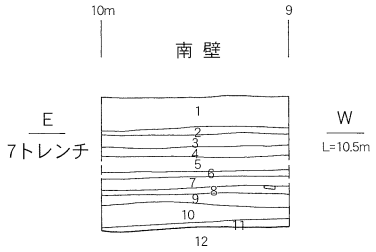


6トレンチ南壁（12.5－16m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂
4. 2.5Y5/4～5/6黄褐色粘質細砂
5. 2.5Y5/4～5/6黄褐色粘質細砂
   ＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂混
6. 2.5Y6/2灰黄色＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂混
7. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
8. 10YR6/1～5/1褐灰色粗砂
9. 10YR4/1褐灰色粗砂
10. 2.5Y7/2灰黄色～6/4にぶい黄色粘質細砂（Mn含）

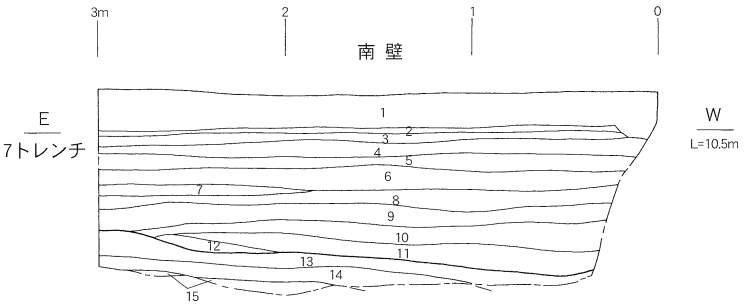


第63図　4～6トレンチ断面図



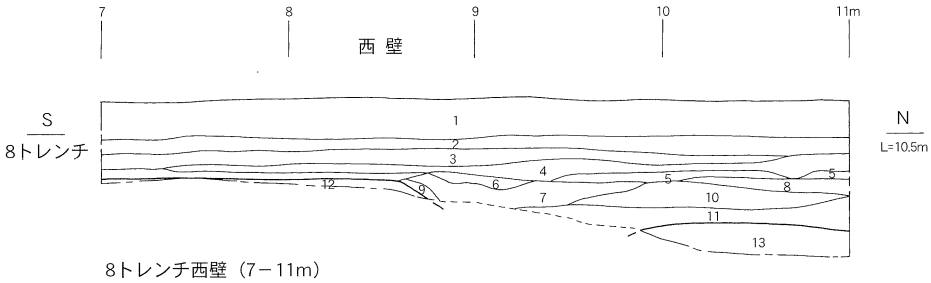
7トレンチ南壁（9--10m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂混
4. 2.5Y6/4にぶい黄色＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂混
5. 2.5Y5/1黄灰色＋2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂混
6. 2.5Y6/4にぶい黄色＋2.5Y5/1黄灰色粘質細砂混
7. 2.5Y5/1黄灰色＋2.5Y6/4にぶい黄色
   粘質細砂砂質強い混
8. 10YR5/4にぶい黄褐色＋10YR5/1褐灰色粘質細砂混
9. 10YR5/1褐灰色＋10YR4/3にぶい黄褐色
   粘質細砂砂質強い混
10. 10YR5/1～4/1褐灰色粘質土（Mn多含）
11. 10YR5/1～4/1褐灰色粘質細砂（Mn多含）
12. 10YR6/1褐灰色＋5/6黄褐色細砂（Mn含）



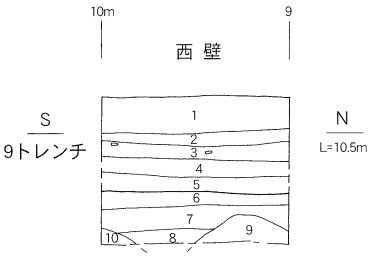
7トレンチ南壁（0－3m）

1. 耕作土
2. 床土
3. 10YR5/4にぶい黄褐色＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂混
4. 10YR5/6黄褐色＋2.5Y6/1黄灰色
   粘質細砂混（Mn少含）
5. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/4にぶい黄色
   粘質細砂少混（Mn含）
6. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色
   粘質細砂混（Mn含）
7. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂
8. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂＋粗砂混
9. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂砂質強い
10. 10YR4/4褐色＋2.5Y5/1黄灰色
    粘質細砂砂質強い混
11. 2.5Y4/1黄灰色粘質細砂砂質強い
    ＋10YR3/1黒褐色砂質土混
12. 5Y7/2灰白色＋10YR5/4にぶい黄褐色砂質土混
13. 2.5Y5/1黄灰色粗砂＋10YR4/2灰黄褐色粗砂混
14. 5Y6/1灰色～6/2灰オリーブ色細砂
    ＋10YR5/4にぶい黄褐色細砂混
15. 5Y6/2灰オリーブ色細砂



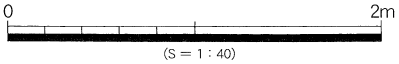
8トレンチ西壁（7－11m）

1. 耕作土
2. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y5/6黄褐色
   粘質細砂砂質強いまばら混
3. 2.5Y6/1黄灰色＋2.5Y6/6明黄褐色
   粘質細砂粘質強い
4. 2.5Y5/1～6/1黄灰色
   ＋2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂混
5. 2.5Y5/6黄褐色～6/6明黄褐色粘質細砂
   ＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂まばら混
6. 2.5Y6/6明黄褐色粘質細砂
   ＋2.5Y6/2灰黄色細砂～粗砂ブロック状混
7. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/3にぶい黄褐色
   粘質細砂混（Mn含）
8. 2.5Y7/1灰白色砂質土
   ＋2.5Y6/4にぶい黄色粘質細砂わずかに混
9. 2.5Y7/1灰白色細砂
10. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/3にぶい黄褐色
    粘質細砂～粗砂（Mn含）
11. 2.5Y6/2灰黄色＋10YR5/6黄褐色
    粘質土ブロック状わずか混（Mn多含）
12. 2.5Y6/6明黄褐色＋2.5Y6/1黄灰色
    粘質細砂砂質強いまばら混（Mn多含）
13. 10YR6/6明黄褐色～5/6黄褐色粘質土
    ＋2.5Y7/2灰黄色粘質土混

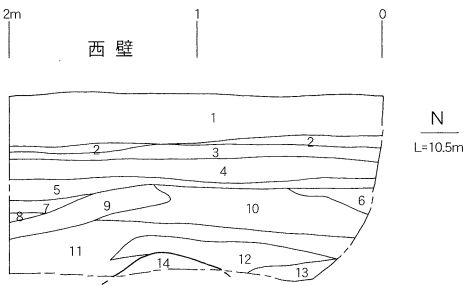


9トレンチ西壁（9－10m）

1. 耕作土
2. 床土１（土器片含）
3. 床土２（土器片含）
4. 2.5Y6/3にぶい黄色
   ＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂砂質強い混
5. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂（炭化物少含）
6. 10YR5/6黄褐色＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂まばら混
7. 10YR6/2灰黄褐色粗砂
   ＋10YR3/3～3/1黒褐色細砂混
8. 10YR6/2灰黄褐色細砂
9. 10YR6/2灰黄褐色粗砂
10. 5Y6/3オリーブ黄色粘質土＋2.5Y6/1黄灰色粘質細砂
    ＋10YR4/6褐色粘質細砂混



(S＝1：40)



9トレンチ西壁（0－2m）

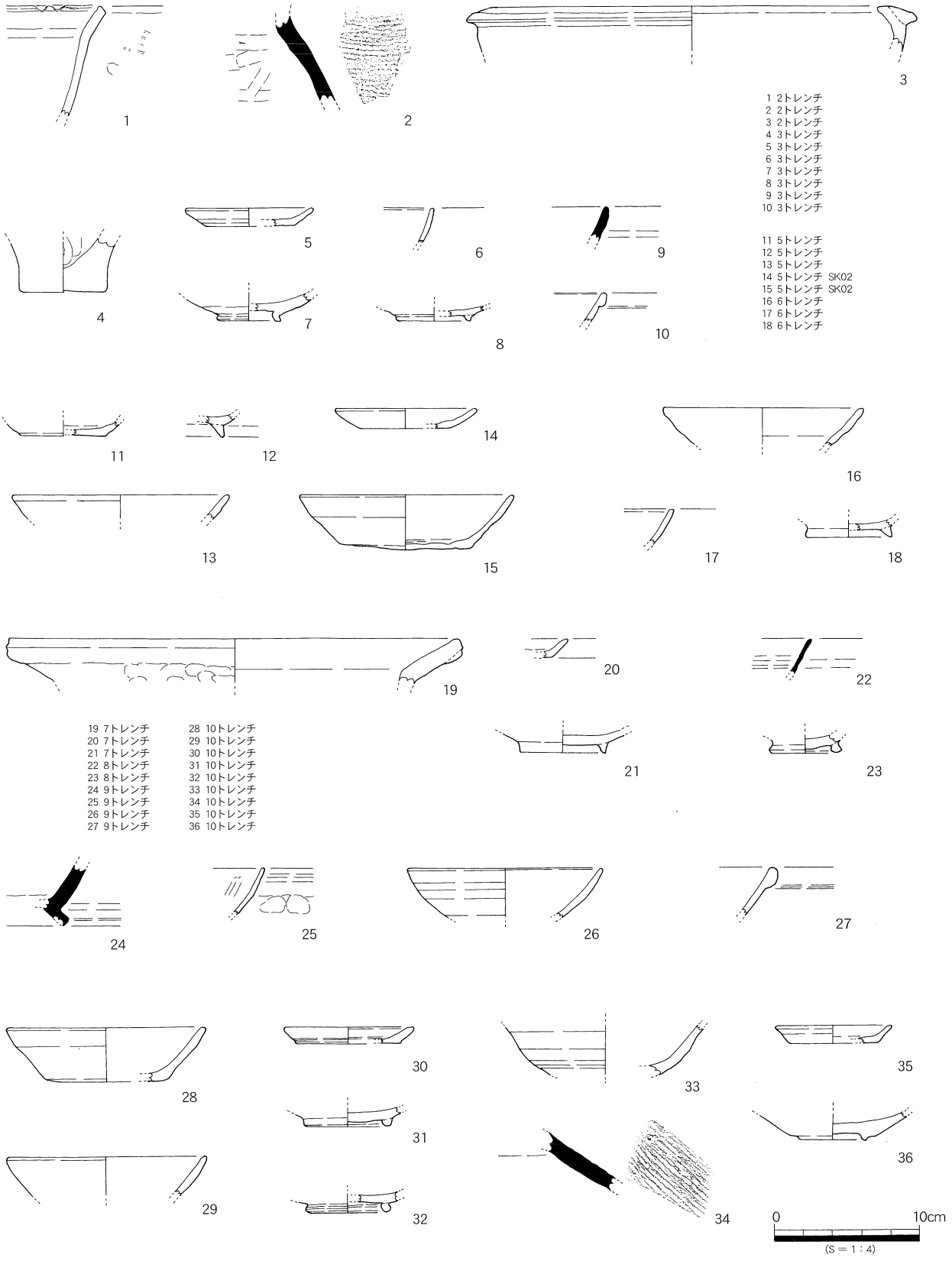
1. 耕作土
2. 床土１（土器片含）
3. 床土２
4. 2.5Y6/3にぶい黄色
   ＋2.5Y5/6黄褐色粘質細砂砂質強い混
5. 10YR5/6黄褐色～4/6褐色粘質細砂（Mn含）
6. 10YR5/6黄褐色＋10YR6/1褐灰色粘質細砂まばら混
7. 2.5Y6/2灰黄色＋10YR4/6褐色粘質細砂混
8. 10YR6/2灰黄褐色粘質細砂砂質強い
9. 粗砂
10. 細砂
11. 粗砂
12. 細砂
13. 粗砂
14. 10YR5/2灰黄褐色シルト質細砂
    ＋10YR4/6褐色粘質細砂ブロック状少混

第64図　7～9トレンチ断面図

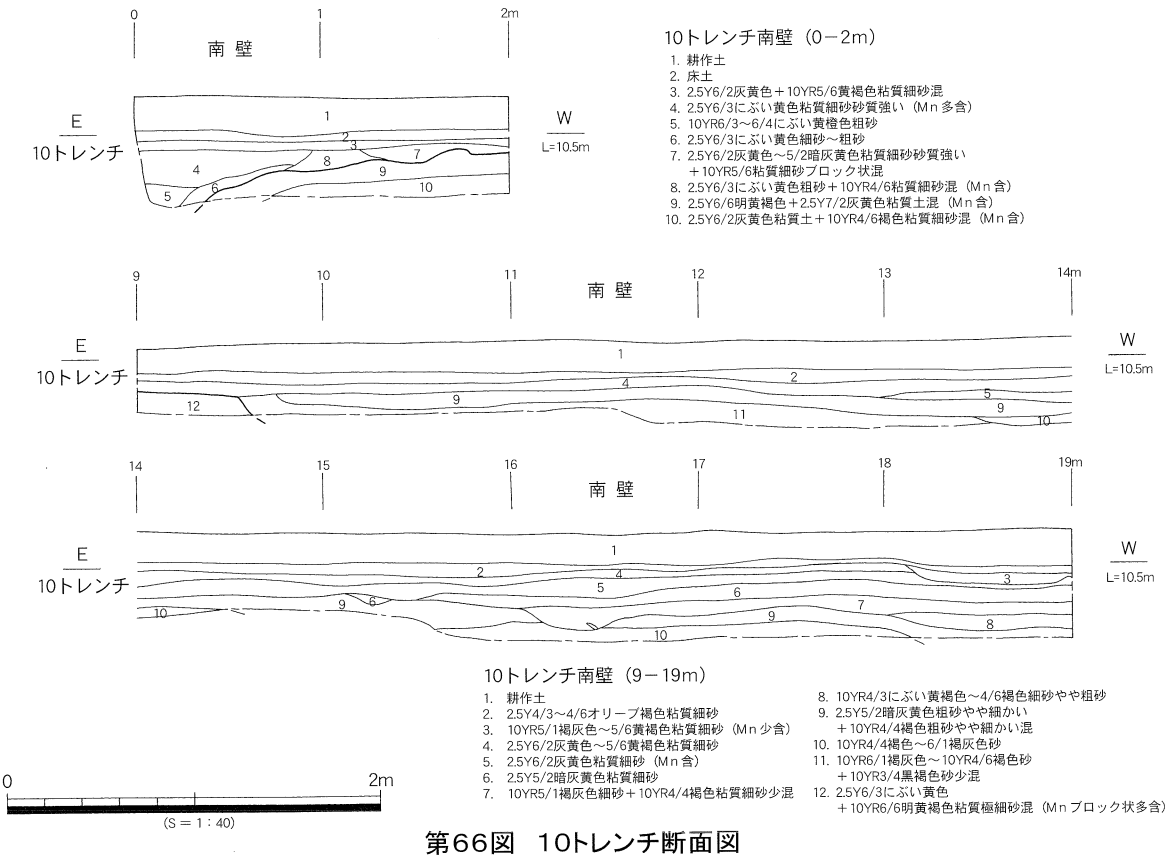
【４トレンチ】
南端付近でトレンチ軸に対して斜行する溝を検出したが、遺物の包含は認められない。３トレンチの溝と同一の溝と考えられる。包含層からは、少量の土器片が出土する。トレンチ北部で北に下る落ちを検出する。２トレンチの谷地形肩部分と対応すると考えられる。
【５トレンチ】
包含層から遺物１１～１３の土師器の皿・小皿などが出土する。トレンチ中央部付近から南端部にかけて土坑を検出した。SK０２からは、１４小皿、１５坏が出土した。この坏は１３～１４Ｃの所産と考えられる。
トレンチ北部では、東西軸の砂層の堆積部が認められるが、遺構であるかどうかは不明である。
【６トレンチ】
西部でトレンチに対して斜行する溝を検出した。３・４トレンチの溝と同一であると考えられる。包含層からは、遺物１６、１７の土師質の碗が、９層からは１８の黒色土器底部が出土した。１８は１２Ｃ代のものと考えられる。
【７トレンチ】
東端付近で北東に下る落ち部分を検出した。2・4トレンチの谷地形肩部分に対応するものと考えられる。包含層９層は東にいくと１０層に変わり、土師質の甕１９、小皿２０、底部２１などが出土した。遺構は認められない。
【８トレンチ】
中央部で北東に下る落ち部分を検出。２・４・７トレンチの谷地形肩部分に対応するものと考えられる。包含層からは、土器片が多く出土した。遺物２２は須恵器の碗、２３は土師質の底部である。
【９トレンチ】
４層からは、２４須恵器の台付壷の底部、２５瓦器碗片が出土した。ほぼ全体に砂堆積が見られる。砂層中から鉄刀と思われる鉄製品が出土したが保存状態が悪く崩壊した。
他に遺物２６、１２Ｃ前半と考えられる黒色土器碗や２７の白磁の口縁片が出土した。
【１０トレンチ】
トレンチ東端で東に落ちる地形を確認した。トレンチ中央では、南西に落ちる地形が認められ、２・４・７・８トレンチで確認した谷地形の肩の対岸にあたるものと考えられる。包含層から遺物２８～３４の土器が出土した。２８、２９は土師質の碗である。摩滅が著しく調整は不明であった。３０、３５は土師質の小皿、３１、３２は底部である。３３は瓦質の碗の胴部である。外側に屈曲して開いていく。３４は須恵器の胴部片、内外に自然釉が残る。３６は陶器の底部である。外側は無釉で、内側にはオリーブ灰色の釉薬がかかり、見込みには砂目が残る。

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
１トレンチ	0.9m×11.0m	不明	無し	土師質土器片、陶器片、須恵器片
２トレンチ	0.8m×11.6m	不明	旧河道	土師器片、土師質土器片 サヌカイト片、陶器片
３トレンチ	1.0m×12.1m	不明	溝１	土師質土器片、須恵器片 土師器片、陶器片、弥生土器片
４トレンチ	0.9m×13.4m	不明	溝１、旧河道	土師質土器片、陶器片
５トレンチ	0.9m×16.0m	13～14 世紀	土坑４	土師質土器片、土師器片
６トレンチ	0.8m×17.3m	12 世紀	溝１	須恵器片、黒色土器片 土師器片、土師質土器片
７トレンチ	1.0m×14.0m	不明	旧河道	土師器片、土師質土器片、サヌカイト片
８トレンチ	0.8m×12.9m	不明	旧河道	須恵器片、瓦器片、黒色土器片 土師器片、土師質土器片、磁器片
９トレンチ	1.0m×11.9m	不明	旧河道	土師質土器片、瓦器片、陶器片、鉄製品
１０トレンチ	1.0m×21.2m	不明	旧河道	土師質土器片、須恵器片、サヌカイト片 磁器片、黒色土器片、土師器片、瓦器片

第11表　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査　トレンチ概要



第65図　出土遺物実測図



第66図　10トレンチ断面図

以上、計画区域内に１０箇所の試掘トレンチを設定して調査を行った。

結果、調査区域内の中央部からやや西寄りにかけて密度は薄いが遺構の分布を確認することができた。確認できた遺構は、南西から北東に延びる溝１条と溝の東側に展開する土坑群である。土坑群については、一部遺物を包含し、１３～１４世紀に比定できるものの柱穴であるかどうかの確認はとれなかった。

調査区域の南東端から北西にかけては、現在の地形から想像できるが谷地形が延びていることが確認できた。旧河道として機能していたものと考えられる。地形の落ちは、計画区域の東端部でも確認できたことから計画区域南東端付近で分岐する旧河道が北方にも延びていたものと考えられる。

遺構の分布は、旧河道の南側で確認することができる。

遺構が認められない部分でも、包含層は認められるので、現地形から考えると、計画区域の南部にはもう少し密度の濃い遺跡が展開していることが考えられる。

調査後、トレンチは埋め戻し原状に復した

４．まとめ

今回の調査で、計画区域内において一部で遺構の分布が見られることがわかった。遺物を包含する層はほぼ全域で認められるが、遺構を伴う区域は一部に限定される。

計画区域の南東端から北西方向にかけては、旧河道が延びており遺構の分布は見られない。計画区域の西部は、一部野菜の作付けにより未調査の部分があるが１・２トレンチの結果からは遺構の展開は考え難い。

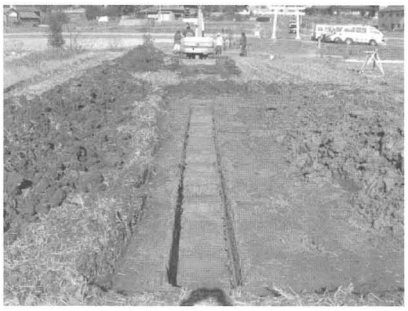
これらのことから、別図に示した範囲についてはまとまって遺構の分布が見られることから保護措置が必要であるとの結論に至った。その他の範囲については、遺物包含層は見られるものの旧河道域であり遺構の分布が考えられないことから今後の保護措置は不要とした。

保護措置を必要とした範囲については、『蔵ノ内遺跡』として新たに周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されることとなった。

調査前風景：西から

北端の一段落ちた土地

調査風景


1トレンチ全景：南から

1トレンチ西壁土層

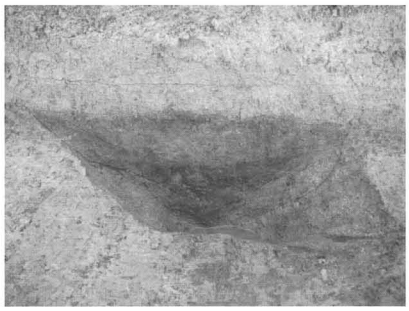
2トレンチ全景：北から

2トレンチ東壁土層

3トレンチ全景：西から

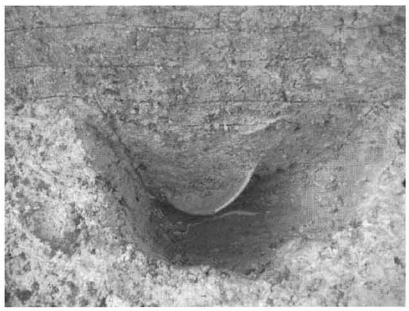
3トレンチSD01完掘状況

4トレンチ全景：南から


4トレンチSD01断ち割り状況

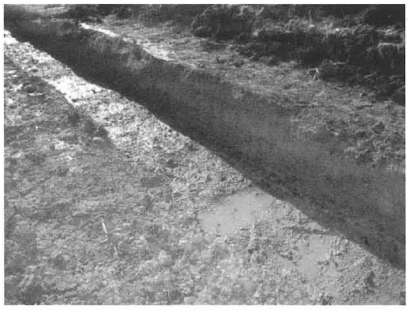
4トレンチ砂層堆積状況

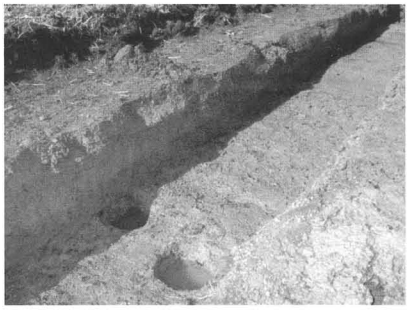
5トレンチ全景：北から


5トレンチSK02完掘状況

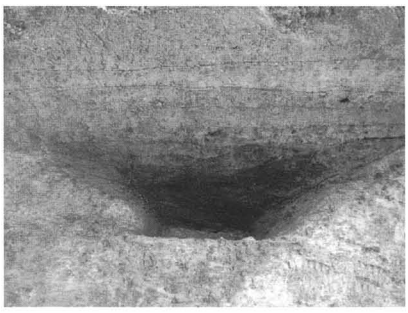
5トレンチSK04完掘状況

図版22　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査（1）


5トレンチ西壁土層

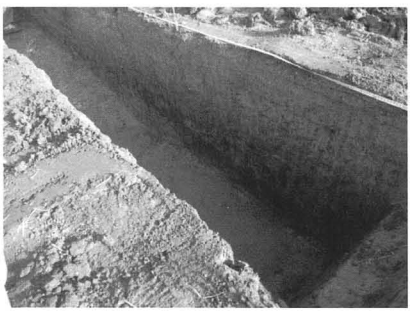

5トレンチ西壁土層

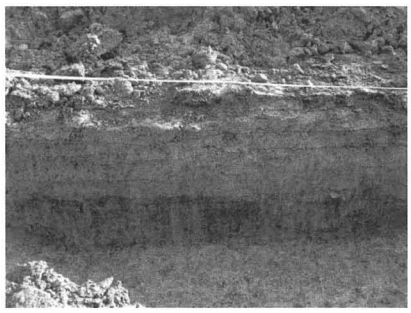
6トレンチ全景：西から

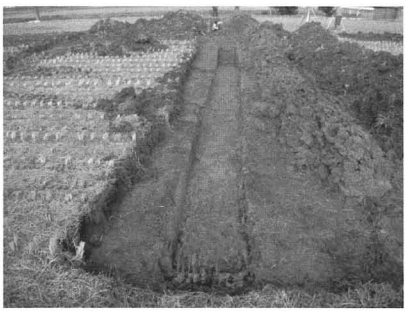

6トレンチSD01断ち割り状況

6トレンチ南壁土層

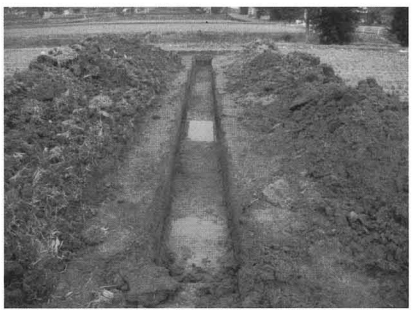
7トレンチ全景：西から


7トレンチ南壁土層


7トレンチ南壁土層

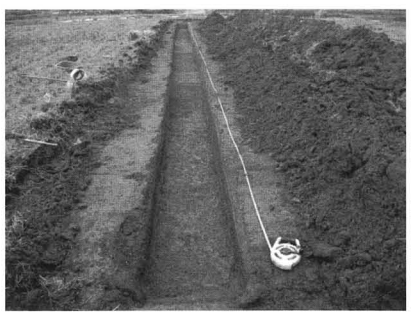

8トレンチ全景：南から

8トレンチ土層


9トレンチ全景：南から

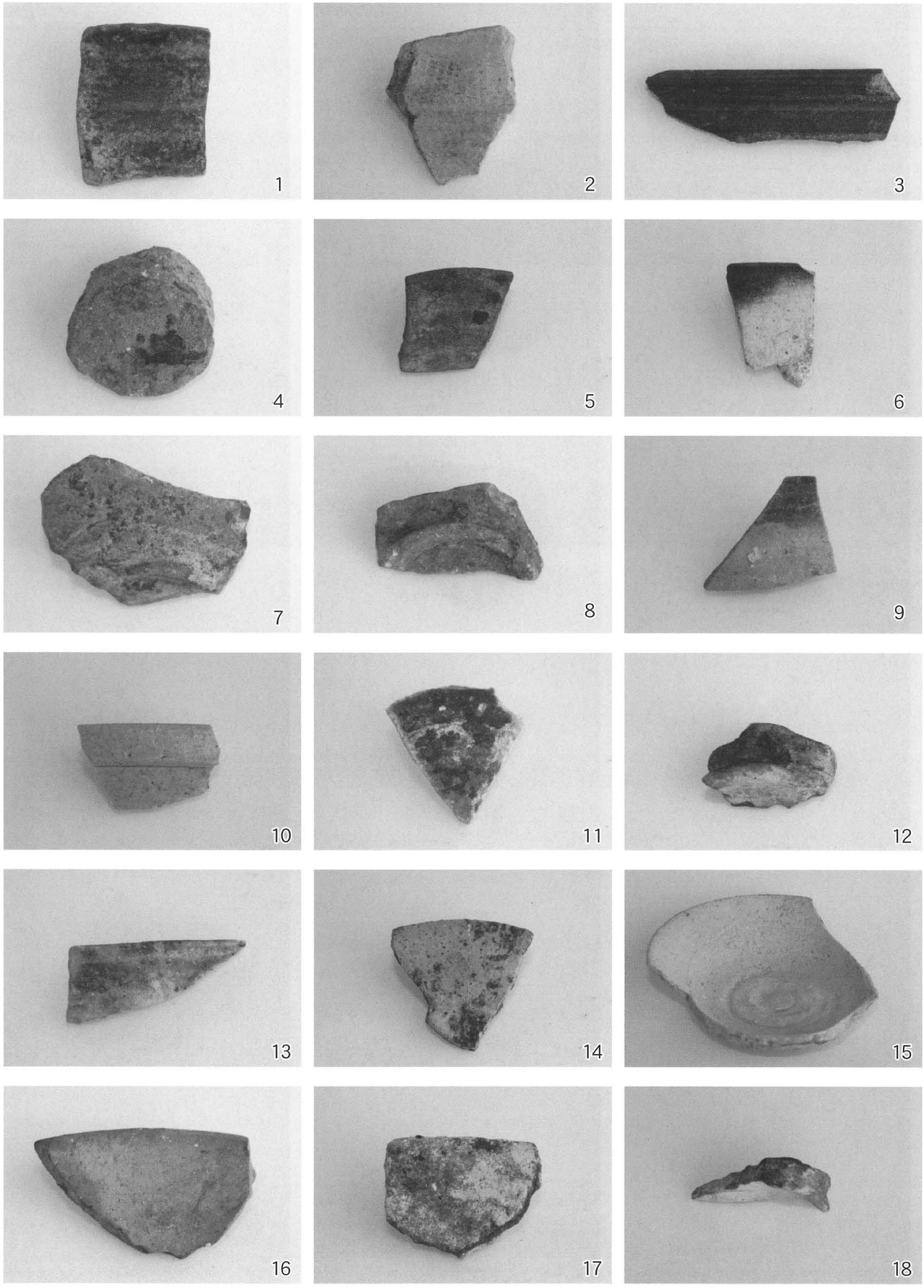
9トレンチ西壁土層

9トレンチ砂層部鉄製品出土状況

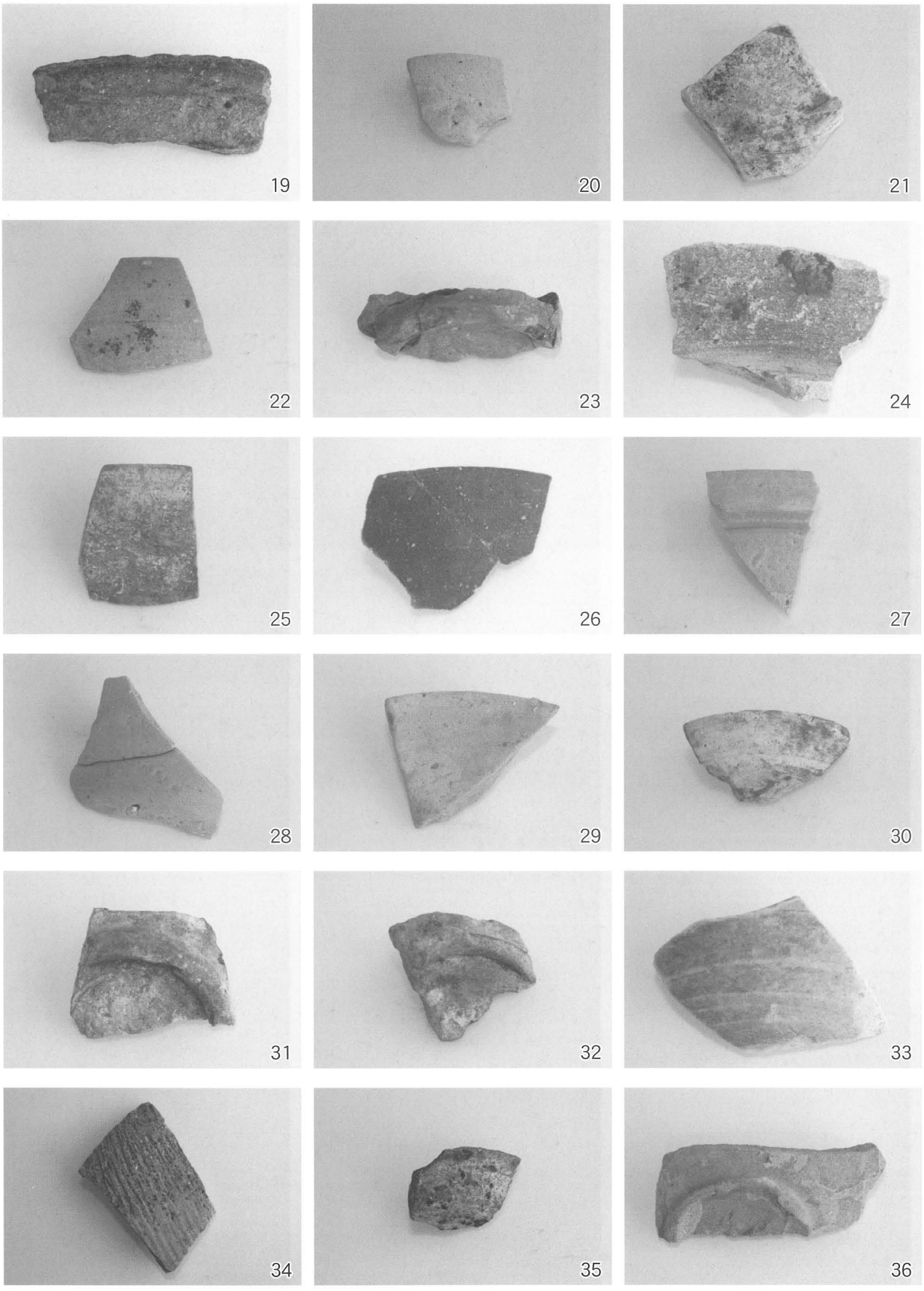

10トレンチ全景：西から

10トレンチ南壁土層

図版23　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査（2）



図版24　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査(3)



図版25　綾歌町富熊字蔵ノ内地区試掘調査(4)

綾歌町富熊字沖地区
【行末西遺跡】

第XIII章　綾歌町富熊字沖地区試掘調査

調査対象地　　綾歌町富熊字沖８５８－１
調査期間　　平成２１年１月１９日～１月２１日
調査面積　　約１０５．５㎡（調査対象地面積２８２５㎡）

１．立地と環境

計画区域は、丸亀平野南東部に位置する。対象地の南西部は岡田台地（洪積台地）となっている。東の羽床盆地から続く平野の絞り込まれた地域である。

周辺の遺跡分布状況をみると、対象地南東には『行末西遺跡（弥生・古墳：集落跡）』、『行末遺跡（弥生：集落跡）』が所在する。これらは遺構の密度も濃く、拠点集落として栄えていたものと考えられる。

遺跡の分布区域としては、中大束川の右岸地域と考えられている。

第67図　調査地位置図

２．調査に至る経緯と調査の経過

平成２１年１月７日付けで、宅地分譲建設に伴い埋蔵文化財に関する有無の照会が提出された。

計画地は、行末西遺跡の隣地でもあることから遺跡の分布可能性が相当高いと考えられる。このことを基に検討した結果、試掘調査を実施することとした。

１月９日立入り申請がなされ、１月１９日～２１日で重機掘削による調査を実施した。

調査の結果、計画地全域において遺跡が発見された。これにより、保護措置が必要である旨の回答を２月５日付けで提出した。

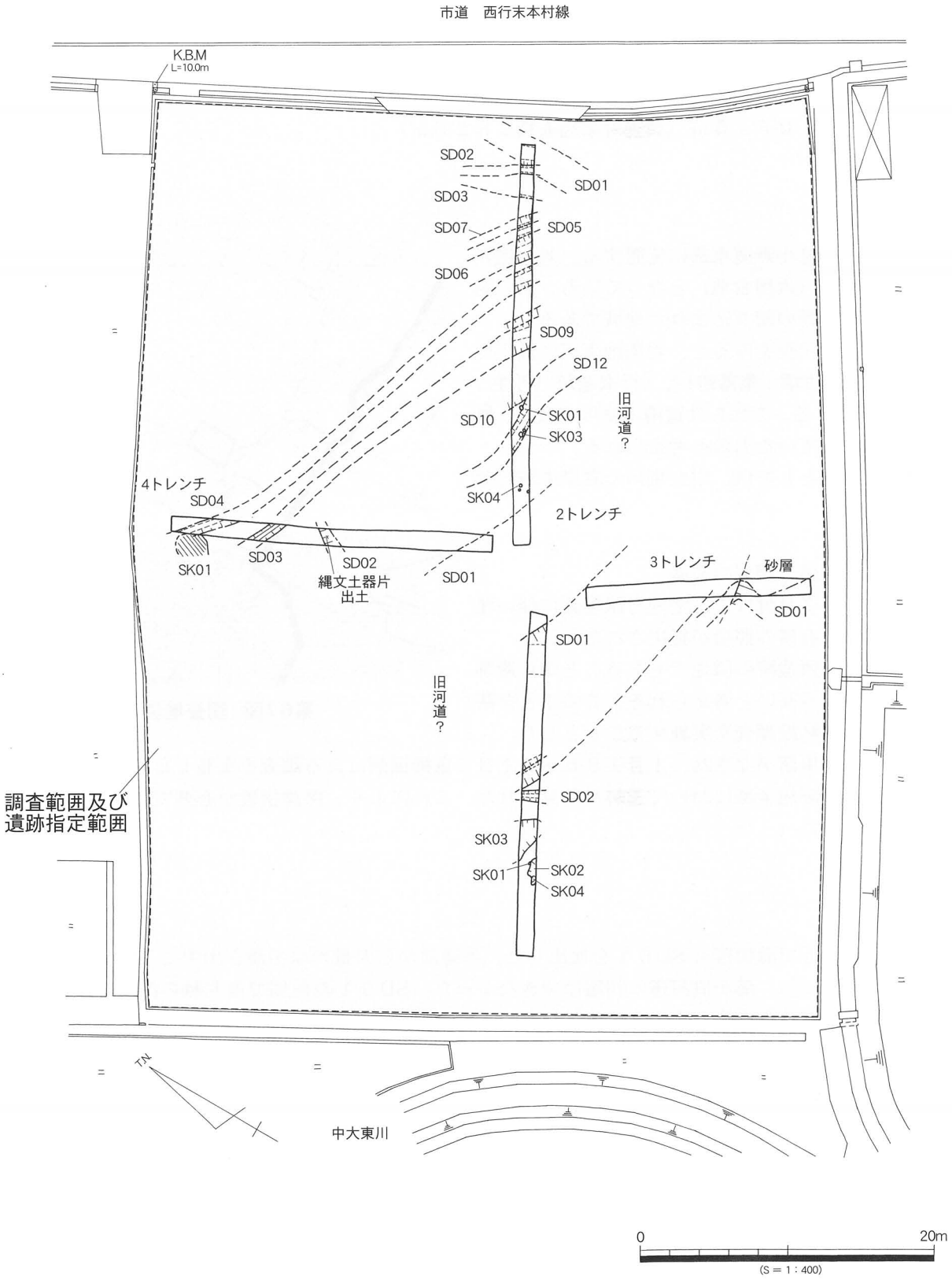
３．調査の概要

【１トレンチ】

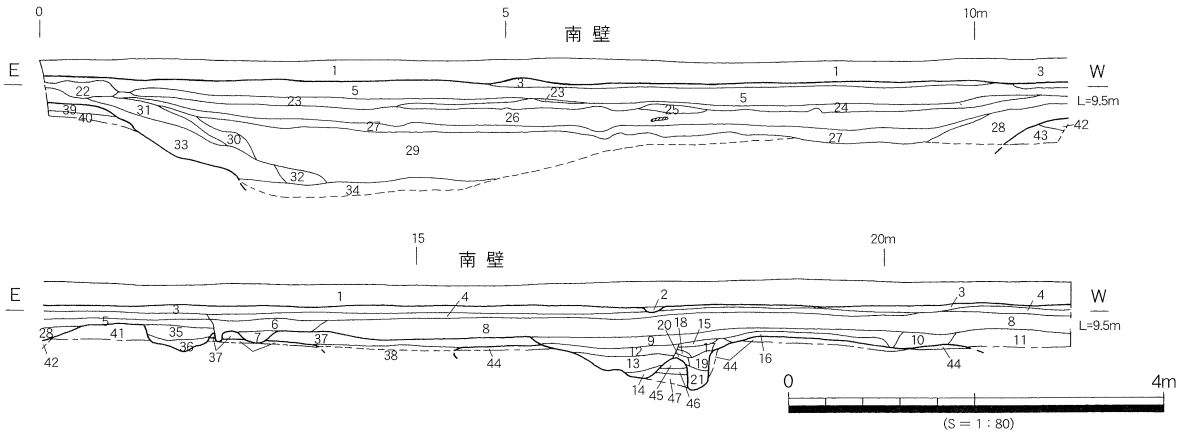
トレンチ東端付近で溝状落ちSD０１を検出した。下層部から大量の水が湧き出すことにより底部までの確認は不可能であった。溝か旧河道の判定はできなかった。SD０１の西側で南北軸の溝SD０２を検出し、トレンチの西半部では土坑群を検出するが詳細は不明。遺物１～４は包含層から出土した。弥生時代後期の土器と考えられる。１は弥生の甕、２、３は鉢である。内面にハケ目後叩きの調整がみられる。４は摩滅が著しいが、段を持つ高坏口縁と思われる。５はSK０１から出土した古代の須恵器質の平瓦である。凸面は格子叩き、凹面は布目の後ナデ消しているのがわかる。６はSK０２より出土した口径約３５．４㎝を測る土師質の土鍋である。焙烙タイプのもので薄い器壁を有し、中世の所産と推定される。SD０１からは７の弥生高坏脚部が出土した。

【２トレンチ】

耕作土直下で土坑群を検出した。埋土の違いから中世及び古墳～古代頃に分類できる。一部の土坑からは土師器片が出土した。全体を深く掘り下げると、多くの溝が検出された。断面観察から９条以上になると考えられる。トレンチ西端部付近は大きく下がっており、旧河道である可能性がある。溝群のベース層から縄文土器片が出土した。遺物８は１０層より出土した。弥生土器の底部である。包含層からは土師質の９平高台の底部と１０碗が出土した。SK０１からは１１軟質の須恵器椀が出土した。SD０５の下層から１２弥生



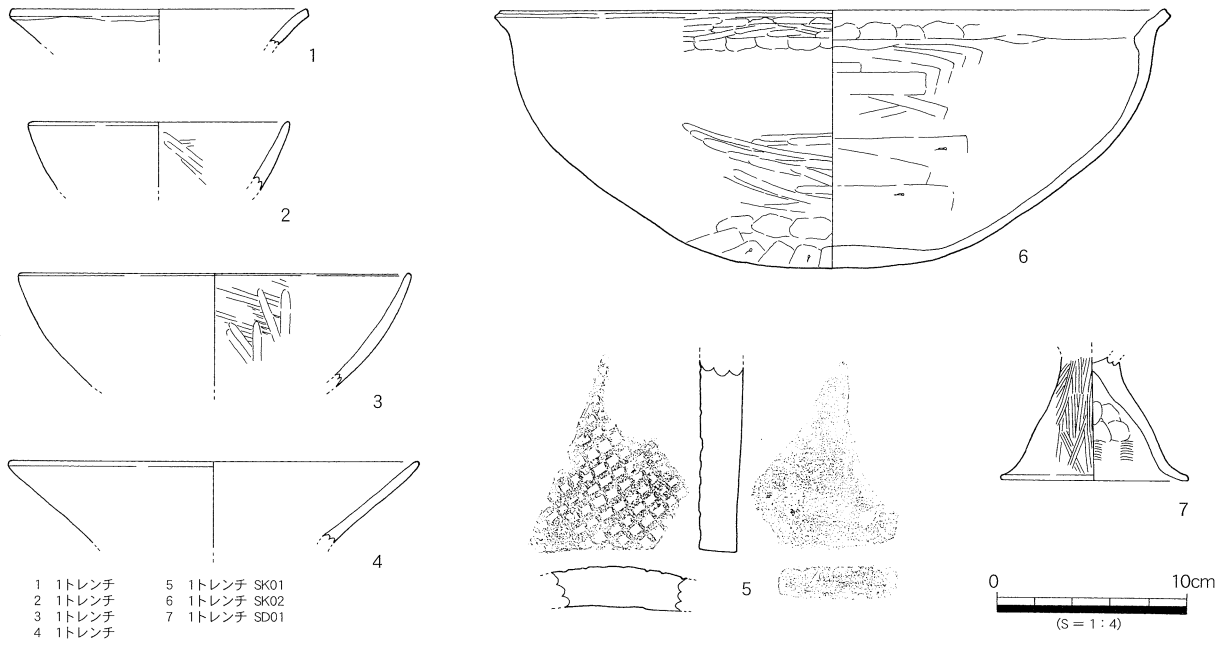
第68図　トレンチ配置図



1トレンチ南壁

1. 耕作土
2. 10YR6/1褐灰色～6/3にぶい黄橙色粘質細砂
3. 2.5Y6/2にぶい黄色～5/2暗灰黄色粘質細砂
4. 10YR4/1褐灰色粘質細砂
5. 2.5Y5/2暗灰黄色＋10YR6/3にぶい黄橙色粘質細砂（Mn含）
6. 10YR4/6褐色＋5/2灰黄褐色粘質細砂混
7. 10YR4/3にぶい黄褐色＋4/6褐色少量混粘質細砂
8. 10YR4/2灰黄褐色＋4/4褐色粘質細砂
9. 10YR5/2～4/2灰黄褐色粘質細砂（粗砂少量混）
10. 10YR4/3にぶい黄褐色～5/2灰黄褐色シルト質細砂
11. 10YR5/2～4/2灰黄褐色粘質細砂（粗砂少量混）
12. 10YR4/1褐灰色粘質細砂砂質強い
13. 10YR3/1黒褐色粘質細砂粘質強い（炭含）
14. 10YR3/1黒褐色+7.5YR7/1明褐灰色少量混粘質細砂
15. 10YR5/1褐灰色粘質細砂（粗砂少量混）
16. 10YR4/4褐色＋5/1褐灰色粘質細砂砂質強い混
17. 10YR5/1褐灰色粘質細砂（ベースブロック混）
18. 10YR5/1褐灰色粘質細砂（粗砂少量混）
19. 10YR5/1褐灰色＋5/4にぶい黄褐色粘質細砂
20. 10YR4/1褐灰色粘質細砂
21. 10YR4/1褐灰色粘質細砂＋7.5YR7/1明褐灰色ブロック状に混
22. 10YR5/3にぶい黄褐色＋2.5Y6/2にぶい黄色～5/2暗灰黄色粘質細砂（砂粒多く含）
23. 10YR5/3にぶい黄褐色粘質細砂（φ1～3mm砂粒多く混）
24. 10YR7/3にぶい黄橙色細～粗砂
25. 10YR7/2にぶい黄橙色細～粗砂
26. 10YR4/2灰黄褐色～4/3にぶい黄褐色粘質細砂（φ1～5mm小石混）
27. 10YR2/1黒色粘質シルト
28. 10YR2/1黒色～3/1黒褐色粘質細砂（粗砂少量混）
29. 10YR4/1褐灰色～4/2灰黄褐色粘質シルト（土器含）
30. 10YR4/1褐灰色～4/2灰黄褐色粘質シルト（φ1～5mm小石混）
31. 10YR4/1褐灰色粘質細砂（粗砂混）
32. 2.5Y4/1黄灰色粘質細砂（粗砂混）
33. 10YR4/1褐灰色＋5G4/1暗緑灰色粘質シルト（φ1～5mm小石混）
34. 5G4/1暗緑灰色粘質シルト
35. 10YR4/2灰黄褐色＋5/2灰黄褐色粘質細砂
36. 10YR3/1黒褐色粘質細砂
37. 10YR4/3にぶい黄褐色粘質細砂
38. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂＋48層ブロック状混
39. 2.5Y5/2暗灰黄色＋6/4にぶい黄色粘質土
40. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質シルト砂質強い
41. 10YR4/2灰黄褐色＋7.5YR4/6褐色粘質細砂少量混
42. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂
43. 10YR4/2灰黄褐色～5/3にぶい黄褐色粘質細砂
44. 10YR4/4褐色粘質細砂粘質強い
45. 7.5YR7/1明褐灰色＋10YR5/6黄褐色シルト質細砂
46. 7.5YR7/1明褐灰色細砂
47. 7.5YR7/1明褐灰色細～粗砂

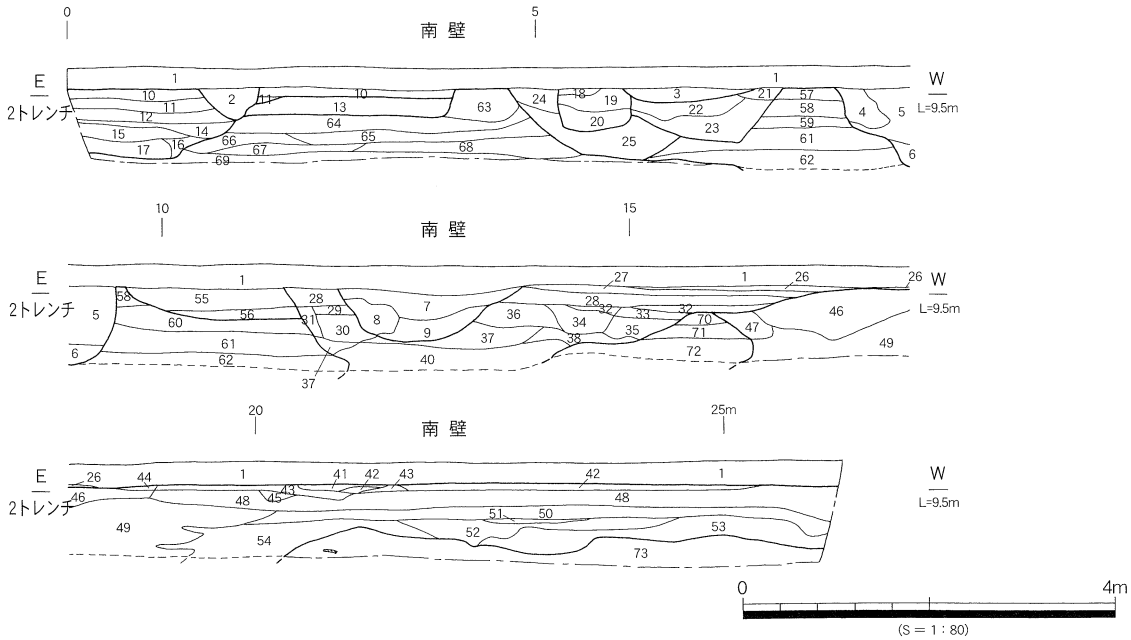
第69図　1トレンチ断面図



1　1トレンチ
2　1トレンチ
3　1トレンチ
4　1トレンチ
5　1トレンチ SK01
6　1トレンチ SK02
7　1トレンチ SD01

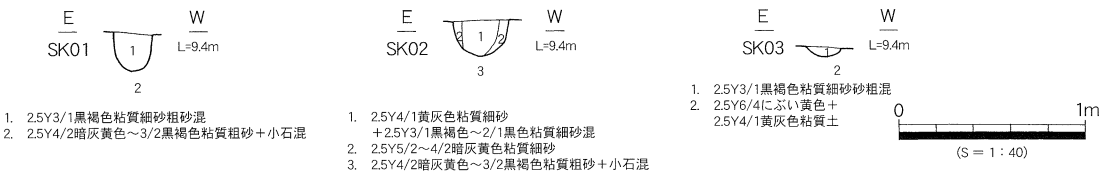
第70図　1トレンチ出土遺物実測図

土器壺の底部が出土した。底部底に板目痕が残る。１３はSD１２から出土した土師質の底部である。１４は粘板岩製の石斧、刃部は使用痕が見える。柄の部分に砥面を持つことから砥石からの転用である可能性が考えられる。

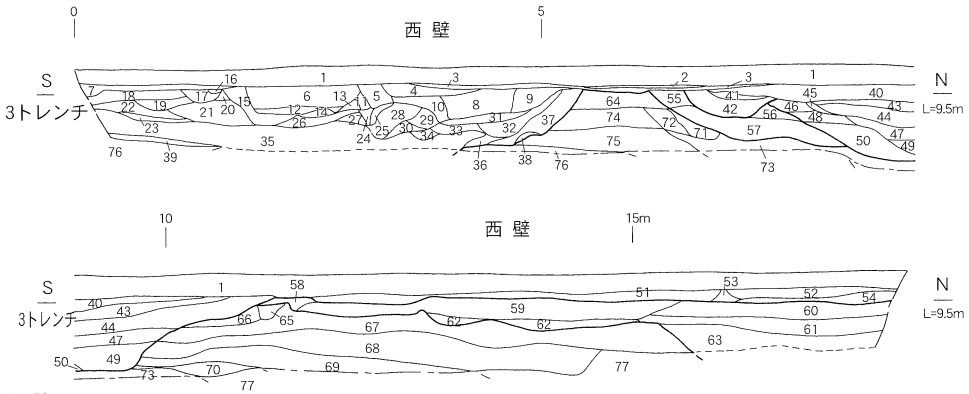


2トレンチ南壁

1. 耕作土
2. 10YR3/1黒褐色～2/1黒色粘質細砂
3. 10YR5/3にぶい黄褐色＋5/1褐灰色粘質細砂
4. 10YR3/1黒褐色＋4/6褐色粘質細砂少量混
5. 2.5Y6/2にぶい黄色＋10YR5/3にぶい黄褐色細～粗砂
6. 10YR4/4褐色粗砂＋2.5Y7/1灰白色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
7. 10YR5/3にぶい黄褐色粗砂（炭含）
8. 2.5Y6/1灰黄色～4/1黄灰色極細砂～粗砂
9. 10YR5/1褐灰色＋2.5Y6/1灰黄色細砂
10. 10YR5/4にぶい黄褐色＋2.5Y6/2灰黄色粘質細砂（Mn含）
11. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂
12. 2.5Y6/1黄灰色細砂
13. 10YR3/1黒褐色＋5/2灰黄褐色粘質細砂粗砂混
14. 2.5Y6/1黄灰色～5/1黄灰色細砂
15. 10YR5/2灰黄褐色細砂～粗砂（φ5mm以下小石混）
16. 10YR4/2灰黄褐色粗砂
17. 10YR5/6黄褐色＋2.5Y6/1黄灰色シルト質細砂
18. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂
19. 10YR4/4褐色～4/2灰黄褐色粘質細砂
20. 10YR2/1黒色粘質細砂（粗砂混）
21. 10YR4/2灰黄褐色～4/6褐色粘質細砂
22. 10YR5/3にぶい黄褐色細～粗砂
23. 10YR5/1褐灰色＋6/3にぶい黄橙色＋5YR4/6赤褐色粘質細砂（ラミナ層）
24. 10YR6/1褐灰色～6/2灰黄褐色粘質細砂砂質強い
25. 2.5Y4/1黄灰色～7/3浅黄色粗砂（ラミナ層）
26. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂砂質強い
27. 10YR4/1褐灰色～4/2灰黄褐色細～粗砂
28. 10YR4/1褐灰色～4/2灰黄褐色粘質細砂（Mn含）
29. 2.5Y5/2暗灰黄色＋10YR4/6褐色粘質細砂
30. 2.5Y6/2灰黄色＋6/4にぶい黄色粘質細砂砂質強い
31. 2.5Y6/2灰黄色～5/2暗灰黄色粘質細砂
32. 10YR4/1褐灰色～4/2灰黄褐色粘質細砂
33. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/1黄灰色粘質細砂
34. 2.5Y5/4黄褐色～5/2暗灰黄色粘質細砂
35. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂
36. 2.5Y5/3黄褐色＋4/1黄灰色粘質細砂
37. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/1黄灰色粗砂（縄文土器含）
38. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/1黄灰色細砂
39. 2.5Y6/2灰黄色細砂
40. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/1黄灰色極細砂
41. 10YR4/4褐色粘質細砂
42. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂（Mnわずか含）
43. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂（Mn多含）
44. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂砂質強い
45. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂
46. 2.5Y5/2暗灰黄色＋4/1黄灰色＋10YR4/2灰黄褐色粘質細砂
47. 10YR4/1褐灰色＋3/2黒褐色粘質細砂（Mn含）
48. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/1黄灰色細～粗砂
49. 2.5Y7/1灰白色～6/4にぶい黄色粘質細砂
50. 2.5Y6/2灰黄色＋5/1黄灰色粘質細砂
51. 2.5Y6/2灰黄色細砂
52. 2.5Y6/2灰黄色～5/1黄灰色粘質細砂～粗砂
53. 2.5Y7/1灰白色～6/3にぶい黄色細砂
54. 10YR4/6褐色＋5/1褐灰色粘質細砂
55. 10YR4/1褐灰色～3/1黒褐色粘質細砂（Mn含）
56. 2.5Y5/3黄褐色＋10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂
57. 10YR5/2灰黄褐色＋4/6褐色粘質細砂少量混
58. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂＋10YR5/4にぶい黄褐色粗砂
59. 2.5Y7/1灰白色＋10YR5/6黄褐色粘質土混
60. 2.5Y7/1灰白色＋10YR5/6黄褐色粘質細砂混
61. 10YR4/2灰黄褐色～4/6褐色粘質細砂
62. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂
63. 10YR5/2～4/2灰黄褐色細砂
64. 10YR5/6黄褐色＋2.5Y6/1黄灰色細砂～粗砂混
65. 10YR5/6黄褐色＋2.5Y6/1黄灰色シルト質細砂
66. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR6/4にぶい黄橙色細砂混
67. 2.5Y7/1灰白色＋6/4にぶい黄色細砂
68. 2.5Y7/1灰白色極細砂
69. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂
70. 2.5Y6/2灰黄色＋10YR5/4にぶい黄褐色細砂
71. 2.5Y6/2灰黄色極細砂
72. 2.5Y5/1黄灰色～5/2暗灰黄色細砂～粗砂

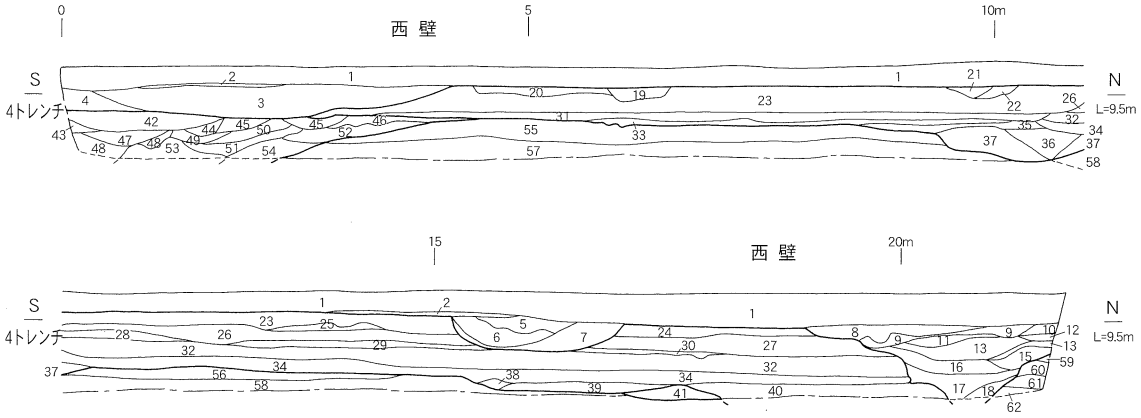


第71図　2トレンチ SK01～03断面図



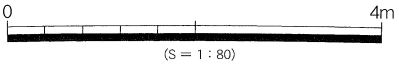
3トレンチ西壁

1. 耕作土
2. 花崗土
3. 旧耕作土
4. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土（Mn少量含）
5. 2.5Y6/1黄灰色粘質細砂
6. 2.5Y4/1黄灰色粘質細砂（粗砂混）
7. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂
8. 2.5Y6/1黄灰色＋4/1黄灰色粘質細砂ブロック状混
9. 10YR5/3にぶい黄褐色粘質細砂
10. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR5/3にぶい黄褐色細砂～粗砂
11. 10YR5/2灰黄褐色細砂～粗砂
12. 2.5Y5/1黄灰色粘質土
13. 2.5Y4/1黄灰色粘質細砂
14. 2.5Y6/3にぶい黄色細砂＋5/1黄灰色粘質土ブロック状混
15. 2.5Y5/1黄灰色～5/2暗灰黄色シルト質細砂～細砂
16. 10YR4/6褐色＋5/6黄褐色細砂
17. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂
18. 10YR5/4にぶい黄褐色＋5/2灰黄褐色細砂～粗砂
19. 10YR5/4にぶい黄褐色＋5/2灰黄褐色粗砂
20. 10YR5/1褐灰色～5/3にぶい黄褐色細砂～粗砂
21. 10YR5/3にぶい黄褐色細砂
22. 2.5Y5/2暗灰黄色＋10YR5/2灰黄褐色細砂混
23. 2.5Y5/2暗灰黄色細砂
24. 2.5Y4/1黄灰色粘質細砂（粗砂混）
25. 2.5Y4/1黄灰色粘質細砂
26. 10YR6/3にぶい黄橙色細砂
27. 10YR6/3にぶい黄橙色粗砂（φ5mm以下）
28. 2.5Y4/1黄灰色粗砂
29. 10YR6/2灰黄褐色～5/1褐灰色粗砂
30. 10YR6/2灰黄褐色細砂
31. 2.5Y6/1黄灰色シルト質細砂
32. 10YR5/3にぶい黄褐色+5Y5/1灰色粘質細砂混
33. 5Y5/1灰色粘質細砂砂質強い
34. 10YR4/1褐灰色粗砂
35. 10YR4/1褐灰色細砂～粗砂
36. 5Y5/1灰色シルト
37. 10YR4/1褐灰色＋5/3にぶい黄褐色粘質細砂混
38. 10YR4/1褐灰色粘質細砂
39. 2.5Y7/1灰白色シルト
40. 2.5Y6/3にぶい黄色粘質細砂
41. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂（粗砂混）
42. 2.5Y5/1黄灰色粘質細砂＋10YR5/4にぶい黄褐色粗砂ブロック状混
43. 10YR4/1褐灰色粘質細砂粗砂少量混（土器含）
44. 10YR3/1黒褐色粘質土
45. 10YR5/1褐灰色～5/2灰黄褐色粘質細砂
46. 10YR5/2灰黄褐色＋4/1褐灰色粘質細砂（粗砂混）ブロック状混
47. 10YR5/1～4/1褐灰色粘質土
48. 2.5Y6/2灰黄色～5/2暗灰黄色粘質細砂
49. 2.5Y6/1黄灰色＋7.5YR4/1褐灰色粘質シルト
50. 2.5Y5/2暗灰黄色～5/3黄褐色粘質細砂
51. 10YR3/2黒褐色粘質細砂（φ5～10mm小礫多混）
52. 2.5Y6/2灰黄色～6/3にぶい黄色粘質細砂
53. 2.5Y6/2灰黄色粘質細砂
54. 10YR3/2黒褐色＋5/1褐灰色粘質細砂
55. 10YR5/3にぶい黄褐色粘質土（粗砂混）
56. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂
57. 10YR4/2灰黄褐色＋2.5Y5/1黄灰色粘質土
58. 10YR5/2灰黄褐色＋3/2黒褐色粘質細砂ブロック状混
59. 10YR5/2灰黄褐色＋5/6黄褐色粘質細砂混
60. 10YR4/3～5/3にぶい黄褐色粘質細砂粘質強い
61. 10YR6/6明黄褐色＋2.5Y6/4にぶい黄色粘質土混
62. 10YR5/1褐灰色～5/2灰黄褐色細砂
63. 5Y6/4にぶい黄色～6/2灰黄色粘質シルト
64. 10YR4/6褐色粘質細砂
65. 10YR5/2灰黄褐色～4/2灰黄褐色粘質細砂（礫混）
66. 2.5Y6/3にぶい黄色＋5/1黄灰色粘質細砂
67. 2.5Y6/2灰黄色～4/1黄灰色細砂～粗砂（φ1～3cm小石少量混）
68. 2.5Y6/2灰黄色～5/2暗灰黄色細砂
69. 2.5Y5/3黄褐色粗砂
70. 7.5YR7/1明褐灰色細砂
71. 2.5Y4/1黄灰色～4/2暗灰黄色粘質土
72. 10YR5/4にぶい黄褐色＋2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂
73. 2.5Y5/1黄灰色粗砂
74. 2.5Y6/4にぶい黄色＋5/2暗灰黄色粘質細砂
75. 2.5Y7/1灰白色シルト（細砂混）
76. 10YR5/2灰黄褐色細砂～粗砂
77. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR4/4褐色粘質細砂

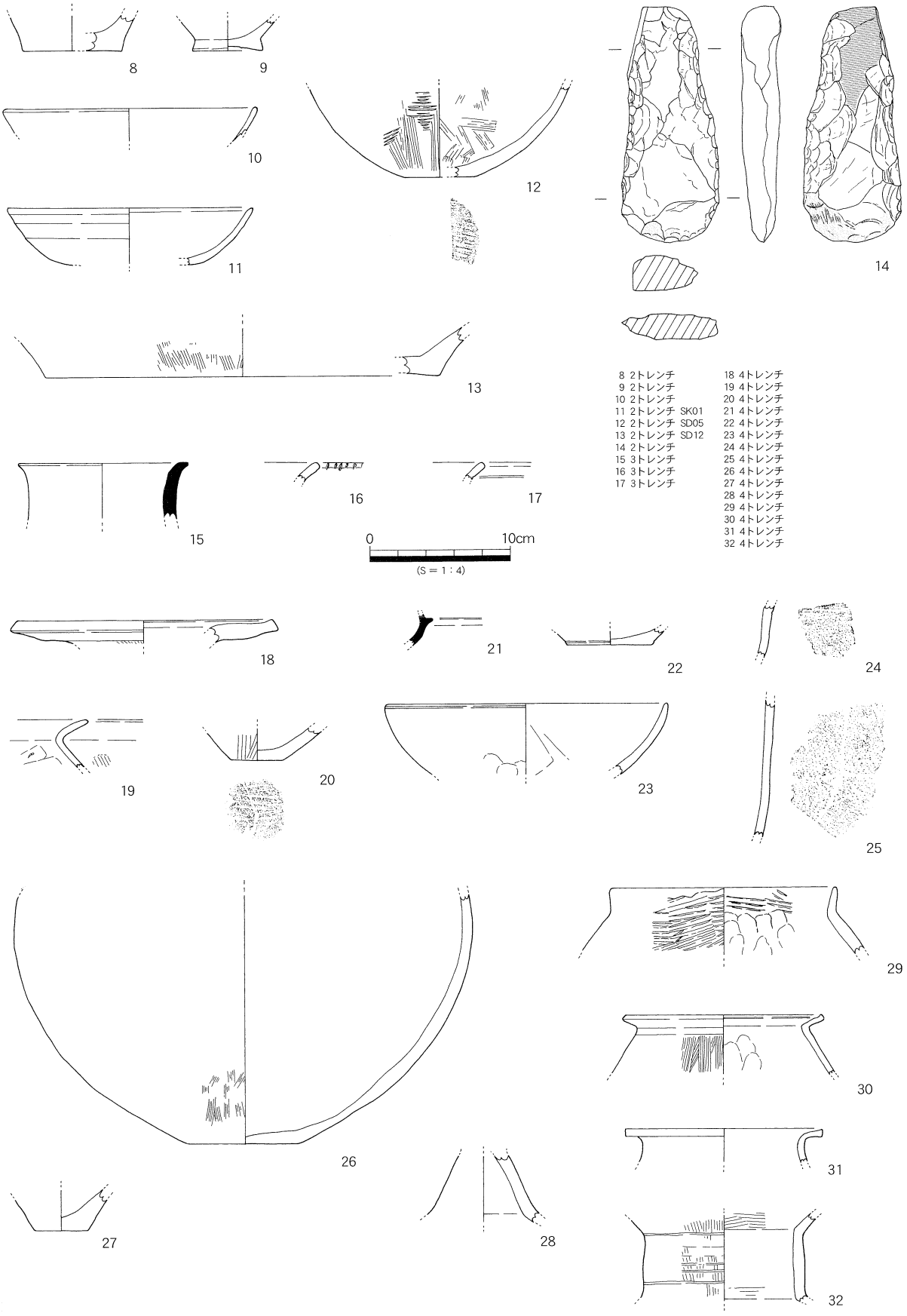


4トレンチ西壁

1. 耕作土
2. 床土
3. 10YR4/1褐灰色粘質細砂（φ5mmの小石わずかに混）
4. 10YR4/1褐灰色粘質粗砂
5. 10YR5/1褐灰色粘質シルト
6. 10YR6/1～5/1褐灰色細～粗砂
7. 10YR5/3にぶい黄褐色～4/1褐灰色粘質細砂
8. 2.5Y5/1黄灰色細砂～粗砂
9. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂
10. 10YR5/2灰黄褐色粘質細砂細質強い
11. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂＋2.5Y5/1黄灰色＋6/3にぶい黄色細粗砂混
12. 10YR5/1褐灰色～5/2灰黄褐色粘質細砂
13. 2.5Y5/1黄灰色＋6/3にぶい黄色細砂～粗砂
14. 10YR4/1褐灰色粘質細砂
15. 10YR6/1褐灰色細砂～粗砂
16. 2.5Y3/1黒褐色粘質土
17. 2.5Y3/1黒褐色＋6/2灰黄色粘質土混
18. 2.5Y5/2暗灰黄色シルト～粗砂
19. 10YR5/3にぶい黄褐色＋7.5RY3/1黒褐色粘質細砂ブロック状混
20. 7.5YR3/1黒褐色粘質細砂
21. 2.5Y7/6明黄褐色＋6/1黄灰色粘質細砂
22. 2.5Y6/1黄灰色＋10YR6/2灰黄褐色粘質細砂混
23. 10YR4/2灰黄褐色粘質細砂
24. 10YR4/1褐灰色＋4/3にぶい黄褐色粘質細砂混
25. 2.5Y6/1黄灰色＋5/2暗灰黄色粘質細砂混
26. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粘質細砂（Mn多含）
27. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粘質細砂（Mn含）
28. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粘質細砂
29. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粘質細砂
30. 2.5Y6/3にぶい黄色～5/2暗灰黄色粘質極細砂
31. 10YR4/1褐灰色＋4/3にぶい黄褐色粘質細砂混
32. 2.5Y5/1黄灰色＋10YR3/2黒褐色粘質細砂（粗砂混）
33. 10YR4/1褐灰色粘質土（粗砂混）
34. 2.5Y5/1黄灰色＋10YR4/6褐色＋2.5Y5/4黄褐色粘質細砂
35. 2.5Y5/1黄灰色～5/2暗灰黄色粘質細砂
36. 2.5Y5/1黄灰色～6/1黄灰色粗砂
37. 2.5Y5/1黄灰色～6/1黄灰色細砂
38. 10YR5/1褐灰色粗砂
39. 2.5Y5/2暗灰黄色＋5/4黄褐色細砂
40. 2.5Y5/2暗灰黄色＋5/4黄褐色極細砂
41. 2.5Y5/1黄灰色＋5/4黄褐色細砂～粗砂
42. 10YR4/1～6/1褐灰色粗砂
43. 10YR4/1～6/1褐灰色細砂～粗砂
44. 7.5YR3/3暗褐色粗砂（固くしまる）
45. 2.5Y6/1黄灰色～6/3にぶい黄色粘質細砂＋10YR5/4にぶい黄褐色混
46. 2.5Y6/1黄灰色細砂～極細砂（φ1～2cm小石混）
47. 10YR6/1褐灰色＋5/1褐灰色細砂～粗砂
48. 10YR5/1＋6/1褐灰色粗砂
49. 10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂
50. 2.5Y6/1黄灰色粗砂＋10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂混
51. 10YR5/3にぶい黄褐色＋5/1褐灰色粘質細砂砂質強い
52. 10YR4/1～6/1褐灰色粗砂
53. 2.5Y5/3黄褐色～5/1黄灰色細砂
54. 2.5Y5/1黄灰色細砂～粗砂
55. 2.5Y5/1黄灰色細砂～極細砂
56. 2.5Y5/1黄灰色～5/2暗灰黄色粘質細砂
57. 2.5Y5/1黄灰色細砂
58. 2.5Y7/2灰黄色シルト質細砂
59. 2.5Y5/2暗灰黄色＋10YR5/4にぶい黄褐色粘質細砂混
60. 2.5Y3/1黒褐色＋5/2暗灰黄色粘質細砂混
61. 2.5Y5/2暗灰黄色粘質細砂
62. 2.5Y5/2暗灰黄色粗砂



第72図　3・4トレンチ断面図



8 2トレンチ
9 2トレンチ
10 2トレンチ
11 2トレンチ SK01
12 2トレンチ SD05
13 2トレンチ SD12
14 2トレンチ
15 3トレンチ
16 3トレンチ
17 3トレンチ
18 4トレンチ
19 4トレンチ
20 4トレンチ
21 4トレンチ
22 4トレンチ
23 4トレンチ
24 4トレンチ
25 4トレンチ
26 4トレンチ
27 4トレンチ
28 4トレンチ
29 4トレンチ
30 4トレンチ
31 4トレンチ
32 4トレンチ

第73図　2～4トレンチ出土遺物実測図

【３トレンチ】

南半部で溝を検出するが、蛇行しているようである。トレンチ中央部から北端までは旧河道と見られる。

遺物１５は耕作土直下から出土した須恵器の壺口縁である。１６、１７は包含層出土の弥生土器甕の口縁片である。１６の口縁端部には刻み目が施される。

【４トレンチ】

北端付近で２条、中央部で１条、南端部で１条の溝を検出した。埋土からは弥生時代後期の土器片が出土する。遺物１８～２３は包含層出土の土器である。１８～２０は弥生土器の壺、甕、底部である。甕は頸部から緩やかに屈曲する。２１は須恵器の坏身、受け部はほぼ水平に胴部はやや内湾する。２２は土師質の底部である。摩滅が著しいがヘラ切りされていることがわかる。２３は３１層から出土した弥生土器の鉢である。胴部は内湾し、端部に至る。ベース層上層では弥生時代前期、下層部では縄文時代晩期の深鉢３１、３２が出土する。内外面の調整は条痕が施されている。縄文土器の出土地点のひとつは土坑状の落ちが認められたことから、付近に遺構が展開する可能性が高い。

トレンチ外の北端西側に土器溜りを検出した。上層と下層に堆積し２６～２８は上層の土器である。

２６、２７は弥生土器の底部である。２３は底径７．６㎝を測り、卵型の体部を持つ。摩滅のため詳細は不明であるが外面にハケ目が残る。２８は高坏の脚部である。端部は残っておらず内面は稜線を持って裾に広がっていく。

２９～３１は甕である。２９は口縁部の外面まで叩き痕が残る。３０はハケ目、ナデ調整が見られ、口縁端部は摘み上げている。雲母を多く含む特徴的な胎土である。３１は緩やかに外反し口縁端部内面をナデ調整する。３２は器台か壺の頸部と思われる。

トレンチ名	延長	主な時代	主な遺構	出土遺物等
１トレンチ	1.3m×23.1m	弥生	土坑、溝	弥生土器片、土師器片、土師質土器片 サヌカイト、瓦片
２トレンチ	1.2m×26.9m	縄文晩期 ～中世	土坑、溝	縄文土器片、石斧、弥生土器片 土師器片、土師質土器片、陶器片
３トレンチ	1.1m×15.3m	弥生	溝	弥生土器片、土師質土器片、須恵器片
４トレンチ	1.2m×22.0m	縄文晩期 ～弥生後期	溝、土坑	縄文土器片、弥生土器片 土師質土器片、土師器片、須恵器片

第12表　綾歌町富熊字沖地区試掘調査　トレンチ概要

調査の結果、全域で遺構を確認することができた。確認できた遺跡の時代区分は、縄文時代晩期から中世に属するものと考えられる。確認できた遺構の種別は、大半が溝であり、部分的に土坑が確認された。

遺跡の種別としては、住居址等の建物は確認されていないが、周辺の遺跡分布状況等から検討すると集落跡であると考えられる。遺構は、計画区域内に留まらず、周辺にも広く展開していることが予想される

４．まとめ

今回の調査で、計画区域内全体で遺構の分布を確認することができた。遺物も多く出土しており、縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡であることが確認された。特に弥生時代後期に関しては非常に密度が濃く、弥生時代前期に少し上手の台地上で行末遺跡を中心とした集落が展開していたものが、後期になり行末西遺跡や今回の対象地付近の少し低いエリアに集落拠点が変化したことを表す。これらのことから、計画区域全域について保護措置が必要であると考えられる。

今回の調査区域は、『行末西遺跡』の一部として追加登録されることとなった。

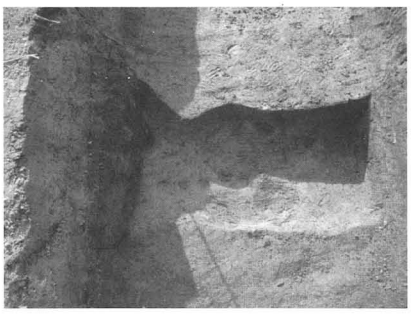
調査前風景：東から

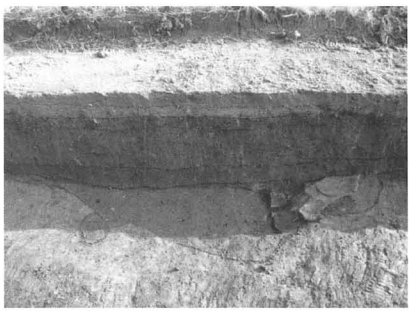
調査風景

1トレンチ全景：西から

1トレンチ東半分旧河道

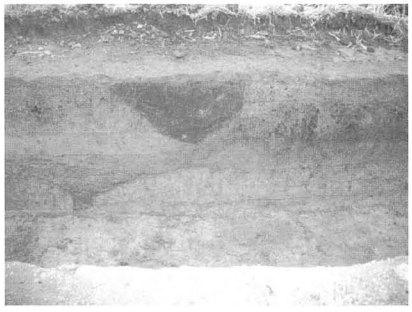
1トレンチSD01遺物出土状況


1トレンチSD01完掘状況


1トレンチ土坑群検出状況

1トレンチ土坑群完掘状況

2トレンチ全景：東から


2トレンチSD確認状況

2トレンチSD確認状況

2トレンチSD確認状況

2トレンチ南壁

2トレンチ南壁

2トレンチ南壁

図版26　綾歌町富熊字沖地区試掘調査（1）

3トレンチ全景：北から

3トレンチ南端溝検出状況

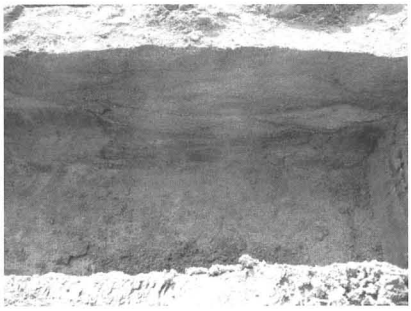
3トレンチ西壁

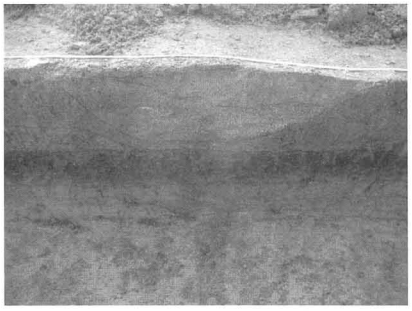
3トレンチ西壁

4トレンチ全景：南から

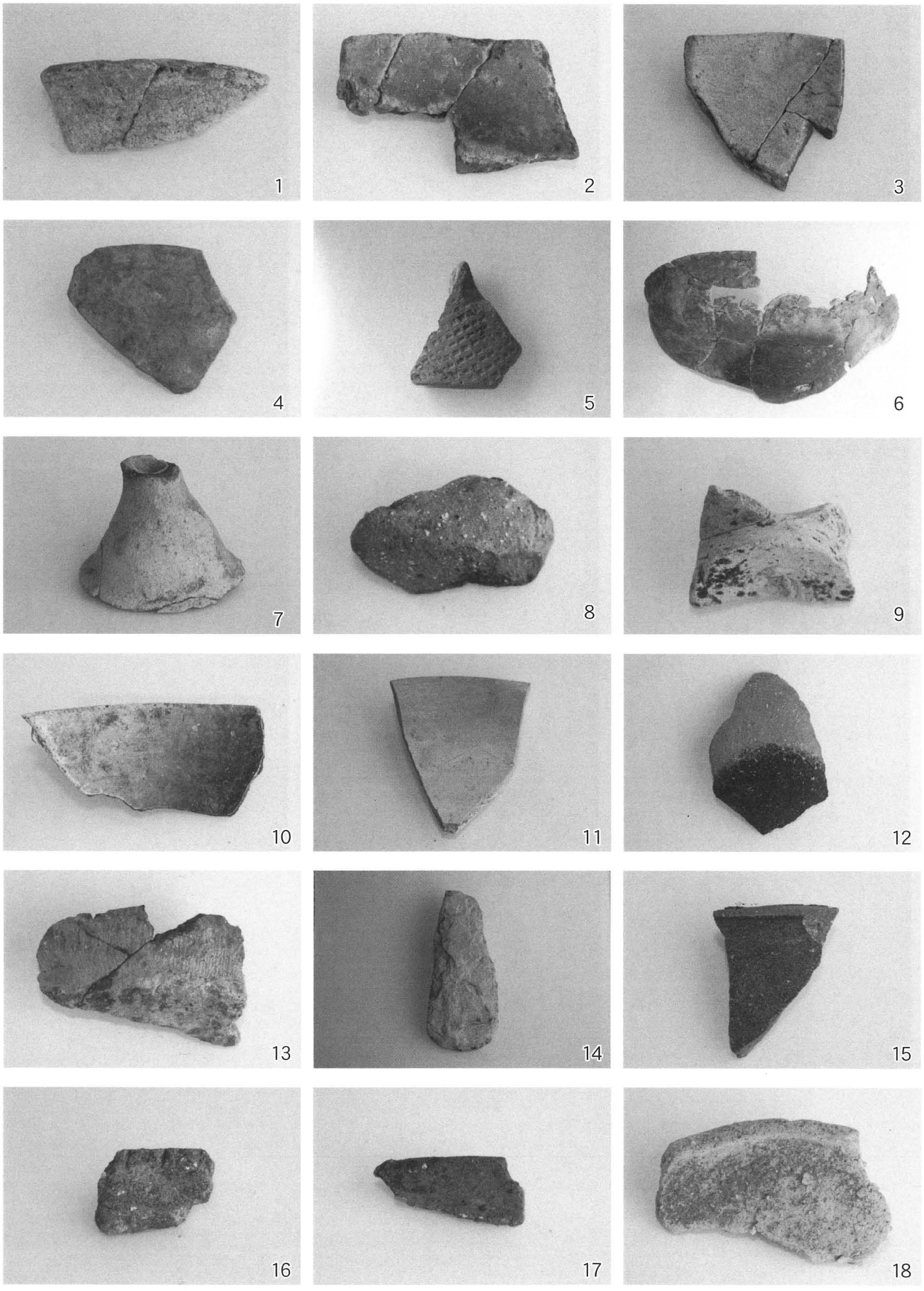
4トレンチ南端溝確認状況

4トレンチ中央溝確認状況

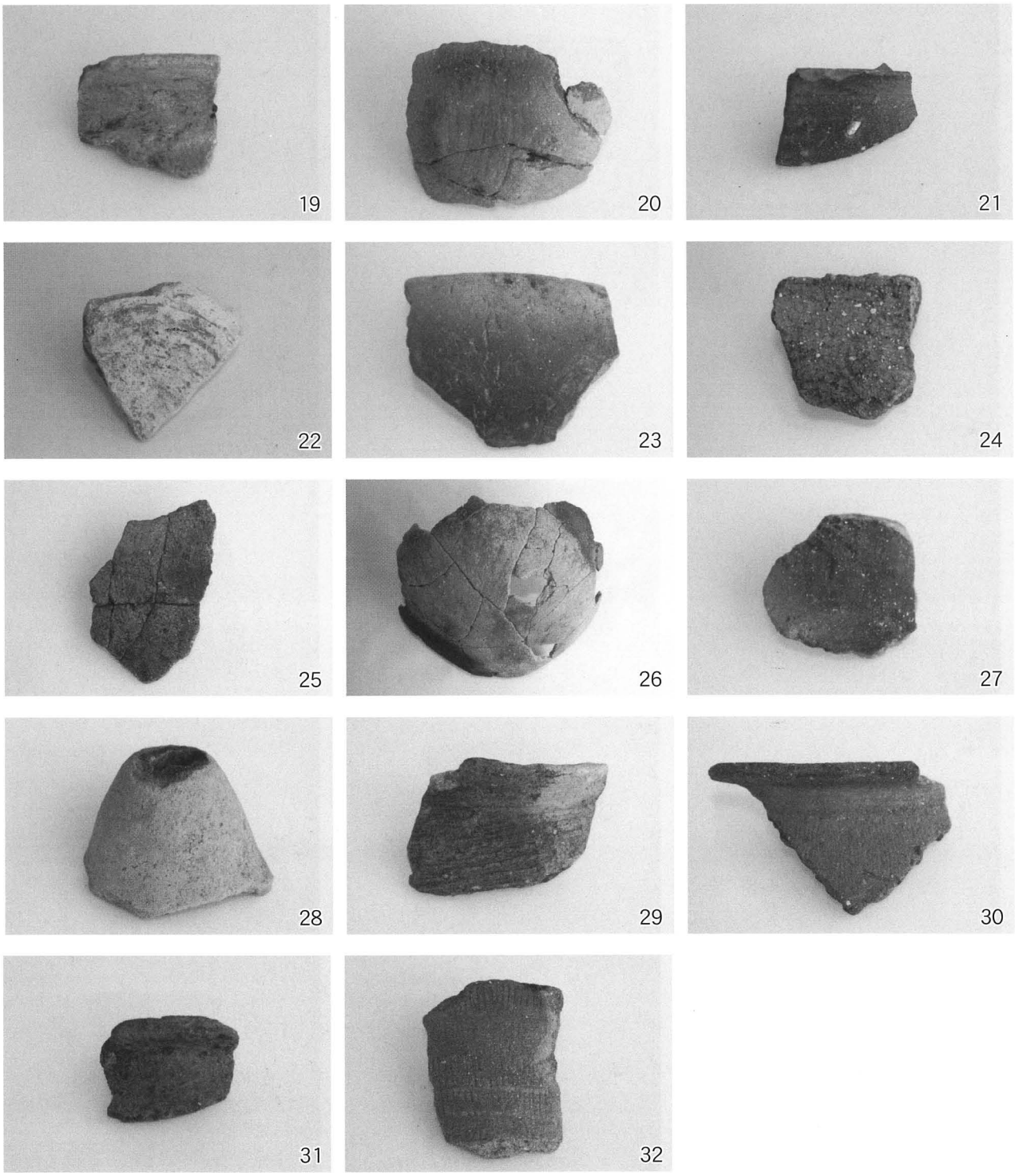

4トレンチ北端溝確認状況


4トレンチSD0？確認状況

図版27　綾歌町富熊字沖地区試掘調査（2）



図版28　綾歌町富熊字沖地区試掘調査(3)



図版29　綾歌町富熊字沖地区試掘調査(4)